TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

3 室内装備の使い方

1
2
3
4
5
6

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

6 車両仕様

さくいん

外観

車幅灯（ポジションランプ）P. 141
前照灯（ヘッドランプ）P. 141
前面方向指示灯 P. 129
ワイパー P. 146
ドアミラー P. 67
ボンネット P. 223
側面方向指示灯 兼
非常点滅表示灯 P. 129
前部霧灯（フロントフォグランプ）＊ P. 145

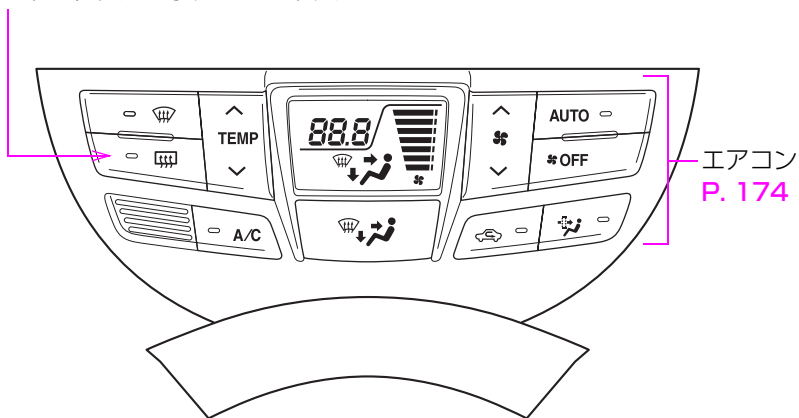
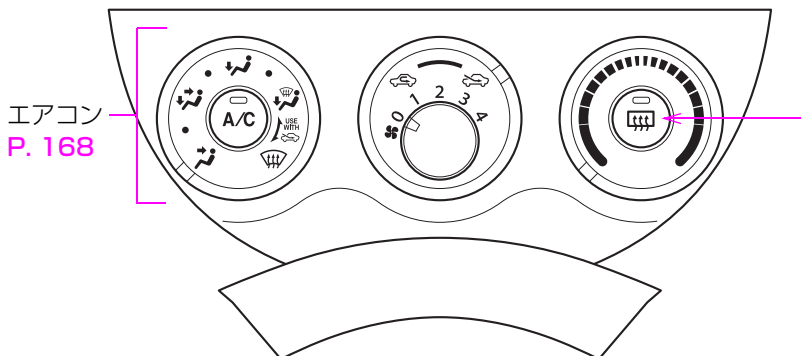
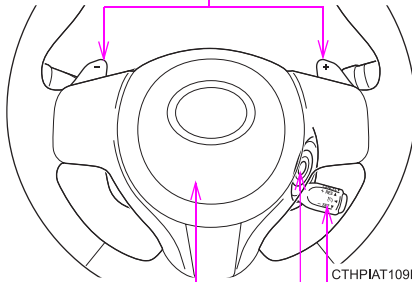
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

チルト / テレスコピックレバー P. 64
ヘッドレスト P. 57
運転席 SRS エアバッグ P. 81
シートベルト P. 59
パワーウインドゥ
スイッチ P. 69
“SPORT”モード
スイッチ ＊ P. 124
セレクトレバー P. 122
インパネアッパー
ボックス（助手席）
P. 191
助手席 SRS
エアバッグ
P. 81
A
B
CTHPIAT105F
グローブボックス P. 189
アームレスト ＊ P. 198
フロントシート P. 51
カップホルダー P. 191
SRS サイドエアバッグ ＊ P. 81

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

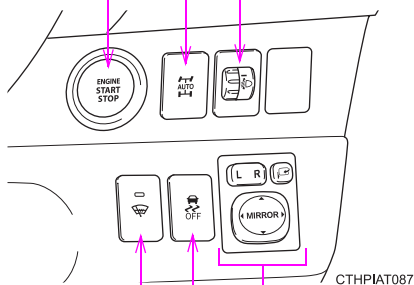
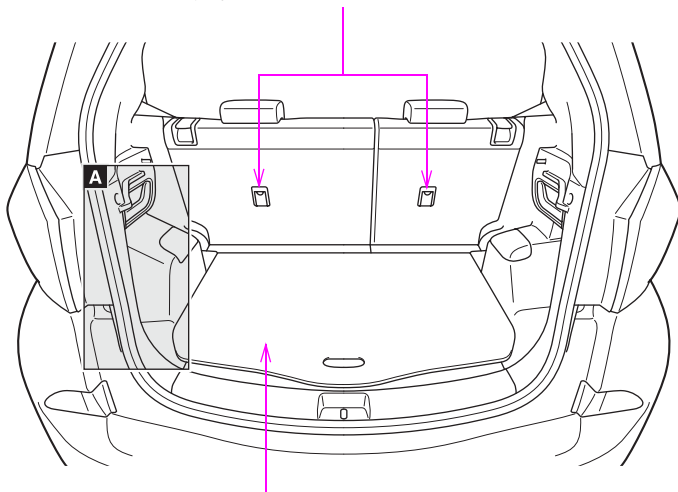
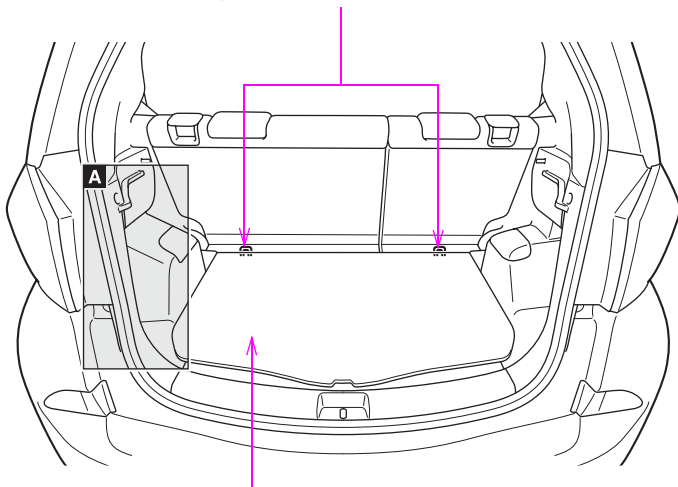
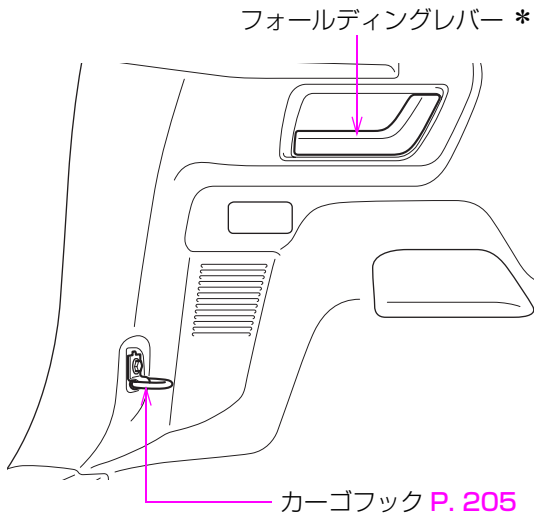
B
パワーウインドゥスイッチ P. 69
ドアロックノブ P. 43
ロックスイッチ P. 69
ドアロックスイッチ P. 42
CTHPIAT067

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A
オートエアコン
リヤウインドゥデフォッガースイッチ P. 181
TEMP
88.8
AUTO
OFF
A/C
エアコン
P. 174
CTHPIAT045
マニュアルエアコン
リヤウインドゥデフォッガースイッチ P. 181
エアコン
P. 168
A/C
USE WITH
0
1
2
3
4
CTHPIAT046

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カーゴルーム

FF 車

AWD車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- スバルが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はスバル販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドゥガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調整などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

警告

■ **お子さまを乗せるときは**

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター･発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 90)をお読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

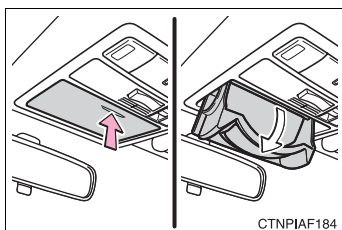
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

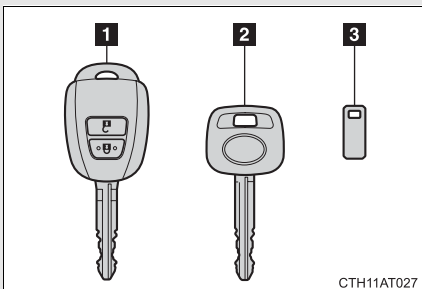
運転する前に

1

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

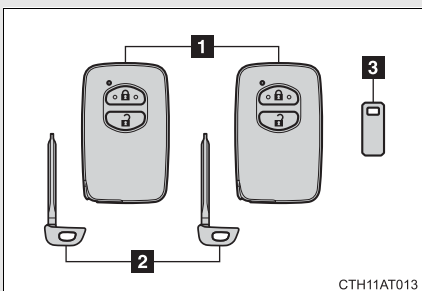
CTH11AT027

1 キー（ワイヤレス機能あり）

ワイヤレス機能の作動（→P. 39）

2 キー（ワイヤレス機能なし）

3 キーナンバープレート

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

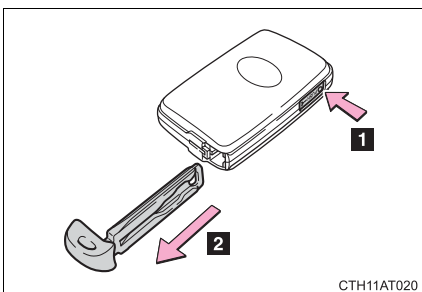
CTH11AT013

1 アクセスキー

- キーレスアクセス＆プッシュスタートの作動（→P. 25）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 39）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

CTH11AT020

メカニカルキーを取り出すには、固定解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、アクセスキーと一緒に携帯してください。アクセスキーの電池が切れたときやキーレスアクセス＆プッシュスタートが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 301）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）またはメカニカルキー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）を紛失した場合、スバル販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 300）

■航空機に乗るときは

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

注意

■キーについて

キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守り下さい。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

■キーを携帯するときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

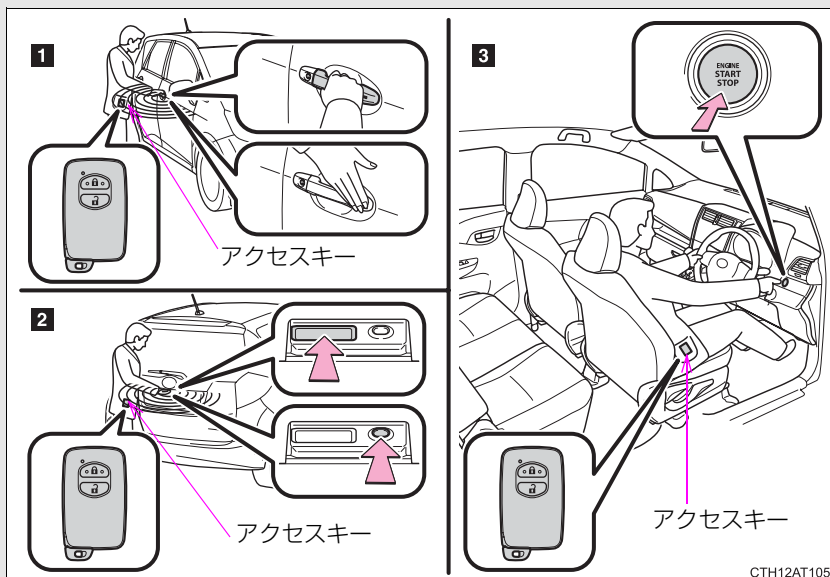
■キーレスアクセス＆プッシュスタートの故障等で販売店に車両を持っていくときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

車両に付属しているすべてのアクセスキーをお持ちください。

■キーを紛失したときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

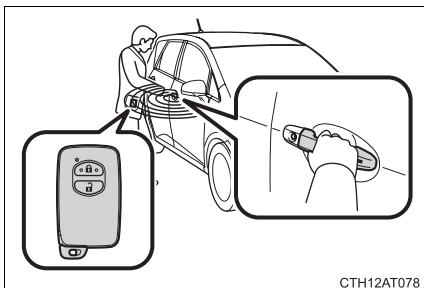
アクセスキーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのアクセスキーをすべてお持ちのうえ、ただちにスバル販売店にご相談ください。

キーレスアクセス＆プッシュスタート＊

アクセスキーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアを解錠・施錠する（→P. 26）
2 リヤゲートを解錠・施錠する（→P. 27）
3 エンジンを始動する（→P. 112）

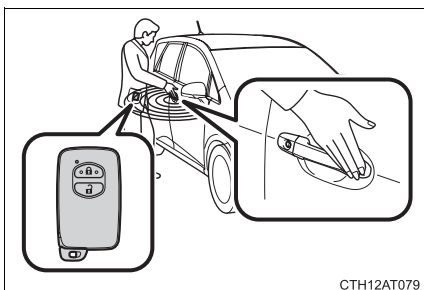
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

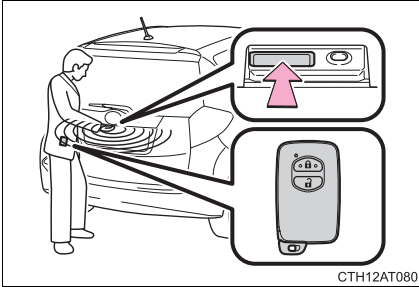
CTH12AT078

ドアハンドルを握って解錠する

ドアハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

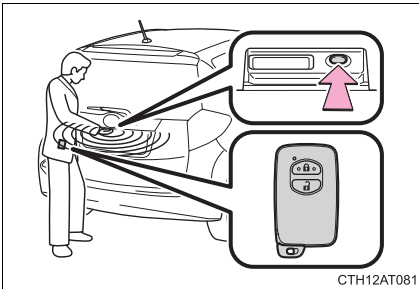
施錠操作後３秒間は解錠できません。

CTH12AT079

ドアハンドル表面のロックセンサー部（ドアハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

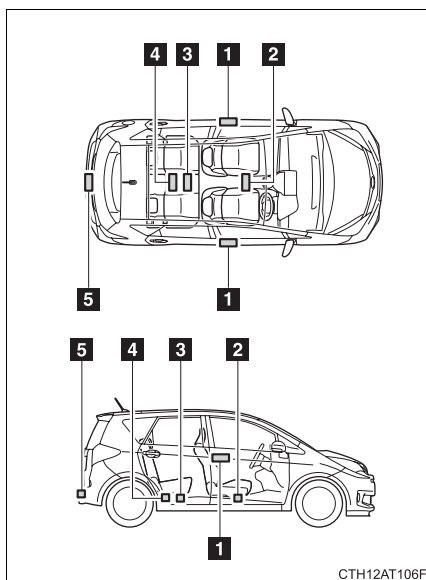
リヤゲートの施錠・解錠

CTH12AT080

リヤゲートオープナースイッチを押して解錠する

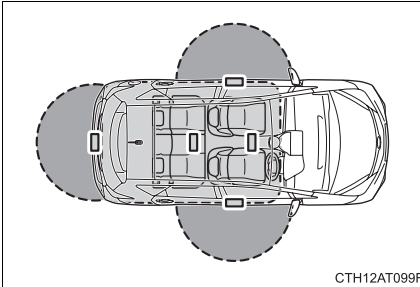
施錠操作後３秒間は解錠できません。

CTH12AT081

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ
2 車内アンテナ（フロント）
3 車内アンテナ（FF 車リヤ）
4 車内アンテナ（AWD 車リヤ）
5 カーゴルーム外アンテナ

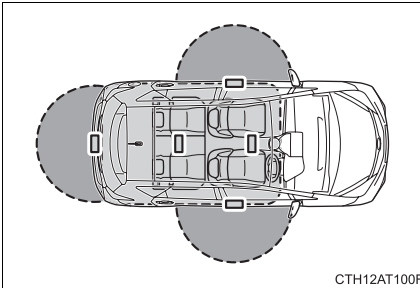
■ 作動範囲（アクセスキーの検知エリア）

FF 車

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。(アクセスキーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)

: エンジン始動時またはプッシュエンジンスイッチ切りかえ時

車内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。

AWD 車

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。(アクセスキーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)

: エンジン始動時またはプッシュエンジンスイッチ切りかえ時

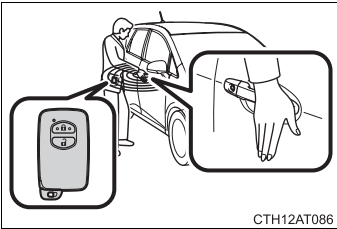
車内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■施錠できないときは

CTH12AT086

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 277）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と 1 回鳴る 車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内にアクセスキーを置いたまま、フロントドアを開き、ドアロックノブを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内からアクセスキーを取り出したあと、再度施錠する

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いている状態でキーレスアクセス＆プッシュスタート、もしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドア（リヤゲート含む）を閉めたあと、再度施錠する
	車内にアクセスキーを置いたまま、キーレスアクセス＆プッシュスタートでドアを施錠しようとした	車内からアクセスキーを取り出したあと、再度施錠する
車内から“ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でプッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（プッシュエンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席が開いた）	プッシュエンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
車内から“ピー”と鳴り続ける	セレクトレバーが P 以外の状態で、プッシュエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	セレクトレバーを P にする

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。（セキュリティ機能で施錠されたとき、アクセスキーの位置によって室内の作動範囲内にアクセスキーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。）

■節電機能

長期駐車時にアクセスキーの電池と車両のバッテリー上がりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、キーレスアクセス＆プッシュスタートによる解錠に時間がかかる場合があります。

・ 車の外約 2m 以内にアクセスキーを 10 分以上放置した。
・ 5 日間以上キーレスアクセス＆プッシュスタートを使用しなかった。

●14日間以上キーレスアクセス＆プッシュスタートを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーレスアクセス＆プッシュスタートは微弱な電波を使用しています。次のような場合はアクセスキーと車両間の通信をさまたげ、キーレスアクセス＆プッシュスタートやワイヤレスリモコン、イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）が正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 301）

●アクセスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●アクセスキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●アクセスキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車のアクセスキーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いたとき

■ ご留意いただきたいこと

●アクセスキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

· ドアの施錠・解錠時にアクセスキーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
· エンジン始動時またはプッシュエンジンスイッチの切りかえ時に、アクセスキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近にアクセスキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、アクセスキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●アクセスキーが作動範囲内にあれば、アクセスキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置にアクセスキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●アクセスキーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置にアクセスキーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、キーレスアクセス＆プッシュスタートによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドア（リヤゲート含む）を施錠すれば警報はとまります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてドアハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)

●作動範囲内に他のアクセスキーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、アクセスキーを車から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめキーレスアクセス＆プッシュスタートを非作動にすることができます。(→P. 325)

■システムを正しく作動させるために

アクセスキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合はアクセスキーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時のアクセスキーの位置や持ち方によっては、アクセスキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■キーレスアクセス＆プッシュスタートが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 301

●エンジンの始動：→P. 301

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 277)

●アクセスキーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・キーレスアクセス＆プッシュスタートやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・アクセスキーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内にアクセスキーを置かないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 254

■カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートをキャンセルしたときは

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 39, 301)

●エンジンの始動・プッシュエンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 301

●エンジンの停止：→P. 113

■販売店で設定可能な機能

キーレスアクセス＆プッシュスタートを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧 →P. 325)

警告

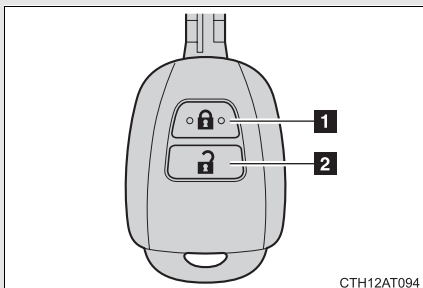
■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 28）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

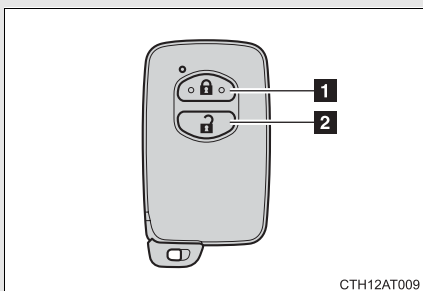
キーレスアクセス＆プッシュスタートを非作動にすることもできます。詳しくはスバル販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

1 全ドア（リヤゲート含む）を施錠する

2 全ドア（リヤゲート含む）を解錠する

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

1 全ドア（リヤゲート含む）を施錠する

2 全ドア（リヤゲート含む）を解錠する

知識

■作動の合図

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
ブザーと非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ブザーの音量調整（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーの音量を調整できます。
（→P. 325）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
→P. 33

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

ドア・リヤゲートの施錠・解錠 →P. 301

■電池の消耗について

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 254）

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
→P. 37

■電池が切れたときは

→P. 254

■キー登録本数の確認について（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはスバル販売店へご相談ください。

■販売店で設定可能な機能

お車によっては、ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 325）

フロントドア・リヤドア

キーレスアクセス＆プッシュスタート＊やワイヤレス機能・キー・ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ キーレスアクセス＆プッシュスタート＊

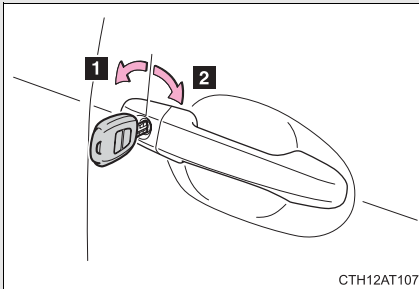
→P. 26

■ ワイヤレス機能

→P. 39

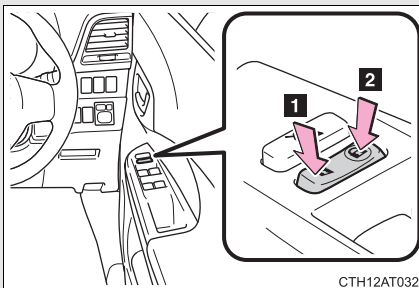
■ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

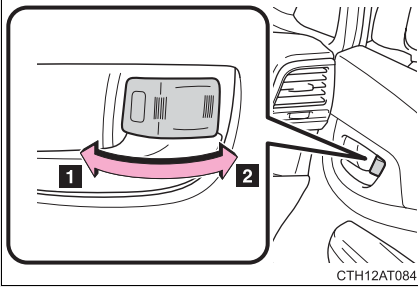
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

1 全ドア（リヤゲート含む）を解錠する
2 全ドア（リヤゲート含む）を施錠する

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 301）

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア（リヤゲート含む）を解錠する
2 全ドア（リヤゲート含む）を施錠する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ドアロックノブ

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ドアロックノブが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

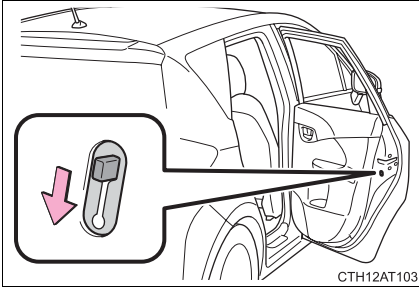
手順 1 ドアロックノブを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
キーがエンジンスイッチに差し込まれているときは施錠されません。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
プッシュエンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションON モードのときや車内にアクセスキーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプルーフ

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 301)

■チャイルドプルーフ使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について(キーレスアクセス&プッシュスタート装着車)

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空回りして解錠できません。

■カスタマイズ機能でキーレスアクセス&プッシュスタートをキャンセルしたときは(キーレスアクセス&プッシュスタート装着車)

ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 39, 301)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを施錠する

●すべてのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

特に、運転席はドアロックノブが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプルーフを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

リヤゲート

リヤゲートは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ リヤゲートの施錠・解錠

キー

→P. 42

ワイヤレス機能

→P. 39

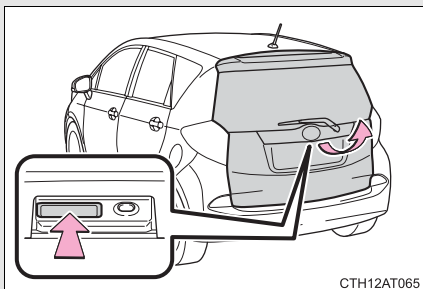
ドアロックスイッチ

→P. 42

キーレスアクセス＆プッシュスタート＊

→P. 27

■ 車外からリヤゲートを開けるには

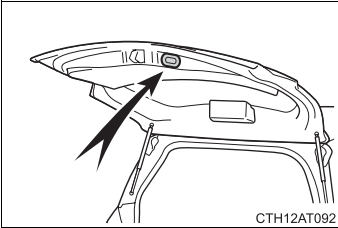
リヤゲートオープナースイッチ

リヤゲートオープナースイッチを押したまま、リヤゲートを持ち上げる

リヤゲートオープナースイッチを押した直後は、リヤゲートを閉めることができません。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

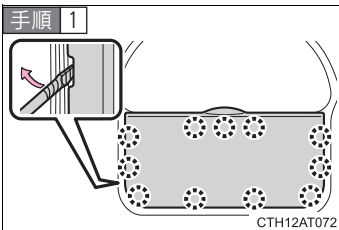
知識

■リヤゲートを閉めるときは

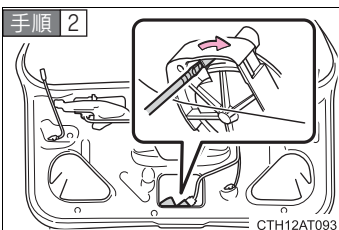
CTH12AT092

リヤゲートハンドルを持ってリヤゲートを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

■リヤゲートが開かないときは

リヤゲートを内側から開けることができます。

CTH12AT072

マイナスドライバーを使い、端からゆっくり手前に引いてリヤゲートインナートリムを取りはずす

リヤゲートインナートリムはクリップ（11個）で固定されています。

- リヤゲートインナートリムの切り欠き(図でドライバーを挿入している位置 ）に、テープなどを巻いたマイナスドライバーを挿し込み、矢印の方向に動かします。
- クリップは、ひとつずつゆっくりとはずしてください。

CTH12AT093

レバーを押す

■カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートをキャンセルしたときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P. 39, 301）

警告

■走行中の警告

●走行中はリヤゲートを閉じてください。
開けたまま走行すると、リヤゲートが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずリヤゲートが閉まっていることを確認してください。

●走行前にリヤゲートが完全に閉まっていることを確認してください。リヤゲートが完全に閉まっていないと、走行中にリヤゲートが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●カーゴルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●カーゴルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

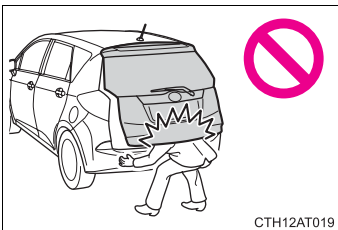
●お子さまにはリヤゲートの開閉操作をさせないでください。
不意にリヤゲートが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

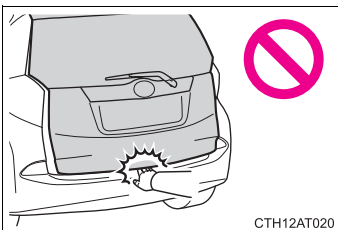
警告

■リヤゲートの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤゲートが落下するおそれがあります。
- リヤゲートを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  リヤゲートが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

CTH12AT019

- 半開状態で使用すると、リヤゲートが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくく、急にリヤゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずリヤゲートが全開で静止していることを確認して使用してください。

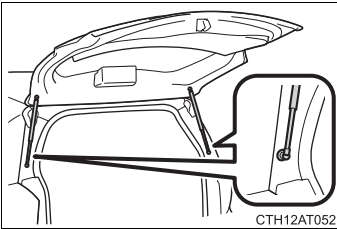
CTH12AT020

- リヤゲートを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- リヤゲートは必ず外から軽く押して閉めてください。リヤゲートハンドルで直接リヤゲートを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

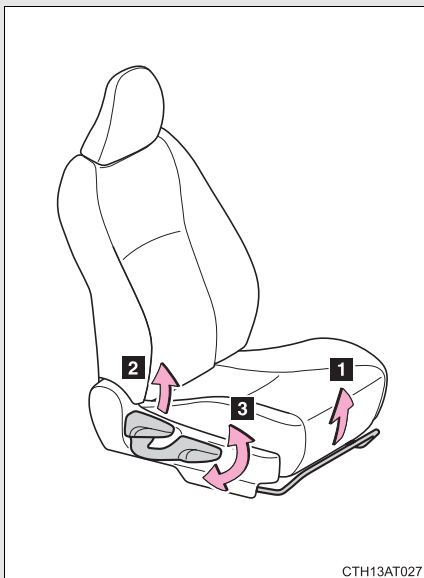
警告

- リヤゲートガスステーを持ってリヤゲートを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、リヤゲートガスステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意

■ガスステーについて

リヤゲートにはリヤゲートを支えるためのガスステーが取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

⚠ 警告

■ **シート調整について**

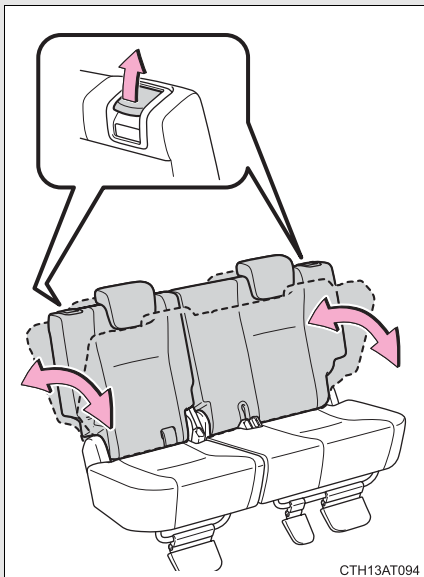
● シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。

● 背当ては必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 走行中にシート調整をしないでください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

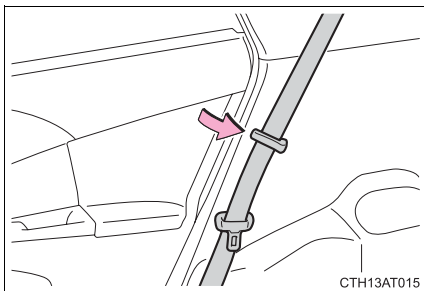
CTH13AT094

ロックが確実に解除されるまでレバーを引いてください。

背当てを前に倒す

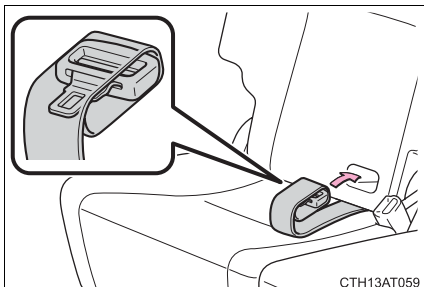
■ 操作する前に

手順 1 シートベルトを格納する

外側席用シートベルト

CTH13AT015

シートベルトをクリップにはさむ

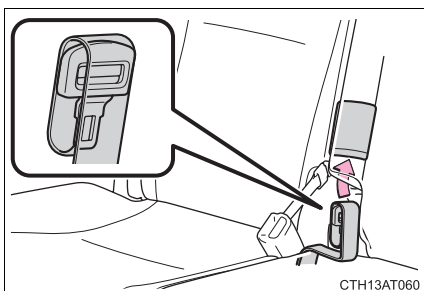
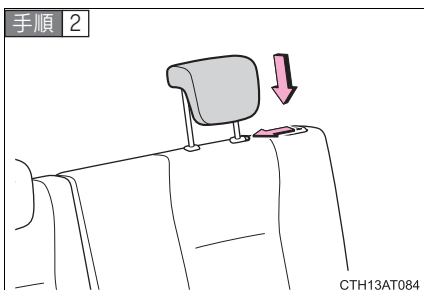
中央席用シートベルト（FF 車）

CTH13AT059

シートベルトを格納する

中央席用シートベルト（AWD 車）

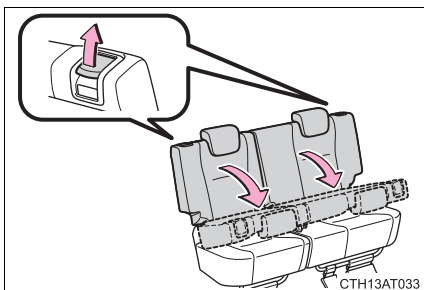
CTH13AT060

シートベルトを格納する

CTH13AT084

ヘッドレストを一番下まで下げる

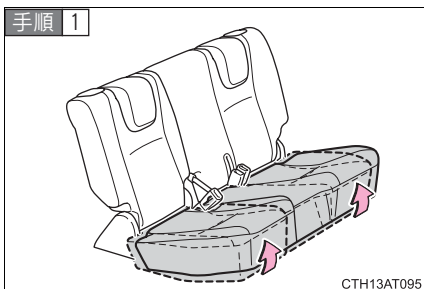
■ 前に倒すときは

室内からの操作（FF 車）

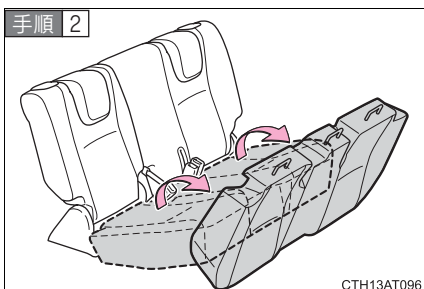
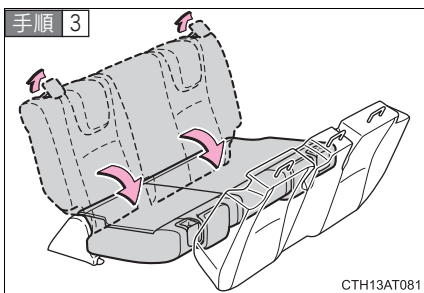
CTH13AT033

ロック解除レバーを引きながら、背当てを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。

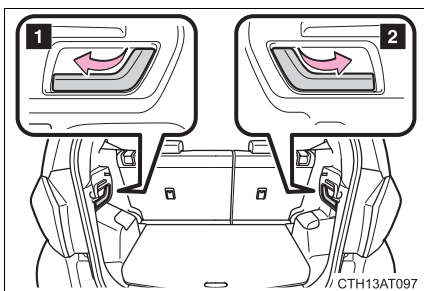
室内からの操作 (AWD 車)

CTH13AT095

座面前端を持ち上げる

座面の裏側に手を掛けて、前端を少し持ち上げてロックを解除します。

CTH13AT096

座面全体を前方に引き起こす

ロック解除レバーを引きながら、背当てを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。

カーゴルームからの操作（FF 車のみ）

カーゴルームデッキサイドのレバーを引き、背当てを前方に倒す

1 左側と中央席

2 右側席

⚠ 警告

■背当てを前倒しするときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●乗員や荷物に当てないようにする
カーゴルームから操作するときは特に注意する

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーをＰにする

●倒した背当ての上やカーゴルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがカーゴルームに入らないよう注意する

●リヤ右側席を前倒しにしているときは中央席用シートベルトが使用できないため、リヤ中央席に座らない

●手などを挟まないように注意する

■リクライニング調整について

●背当てを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり腹部などに強い圧迫を受けたり、肩ベルト（3 点式シートベルト）が首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●手などを挟まないように注意する

■背当てをもとの位置にもどしたあとは

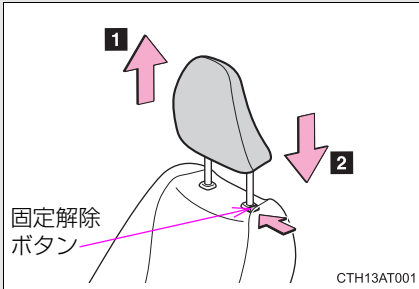
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトを挟み込まないようにする

⚠ 注意

■背当てを前倒しするときは

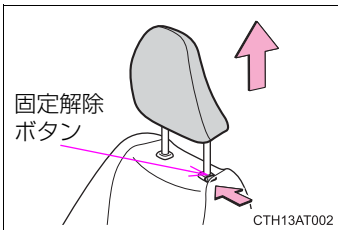
背当てを倒す前に、必ずシートベルトを格納してください。

ヘッドレスト

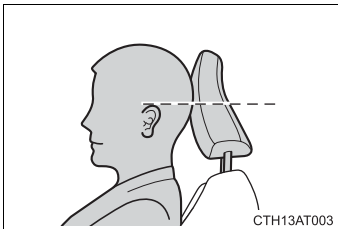
1 上がる

2 下がる

下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

固定解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストについて

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■**ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する

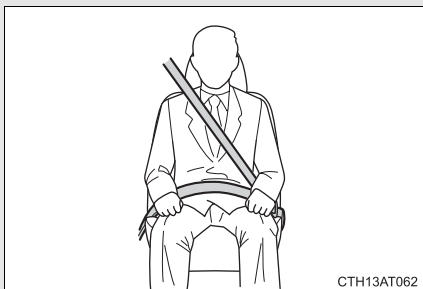
●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

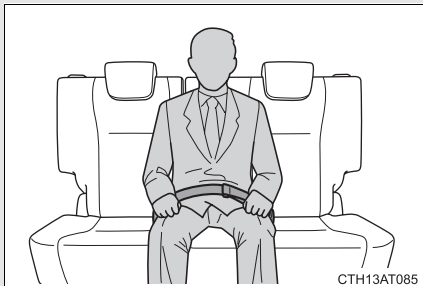
3 点式シートベルト

CTH13AT062

- 肩ベルトを肩に十分かける

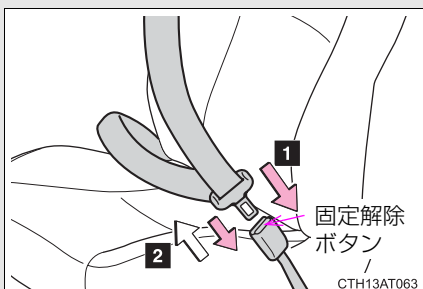
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背当てを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

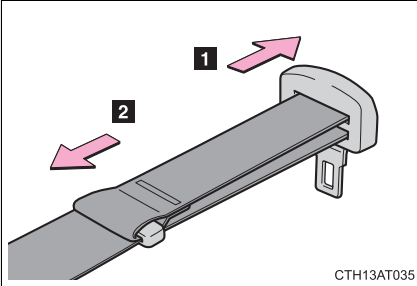
2 点式シートベルト

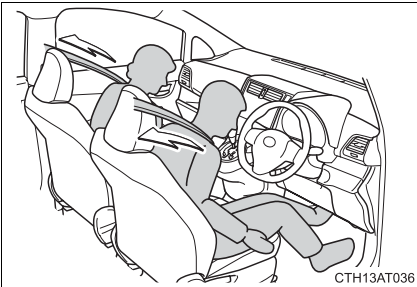
CTH13AT085

- 腰ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背当てを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着用のしかた、外すとき

CTH13AT063

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに差し込む

2 ベルトを解除するには、固定解除ボタンを押す

■ シートベルトの長さ調整（2 点式シートベルト）

1 伸ばす
2 縮める

プリテンショナー付シートベルト（フロントシートのみ）

SRSサイドエアバッグ装着車以外

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

SRS サイドエアバッグ装着車

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

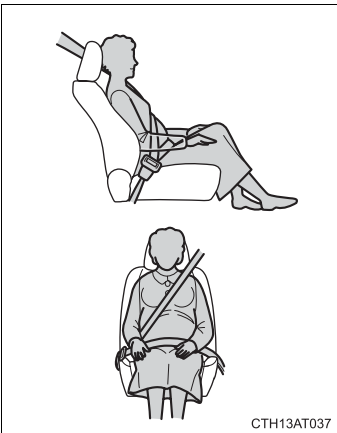
前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■ELR 機構（3 点式シートベルト）

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

CTH13AT037

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 59）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩ベルト（3 点式シートベルト）は確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 90)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 59)

■プリテンショナー付シートベルトについて

プリテンショナー付シートベルトは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- ●背当ては必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●3 点式シートベルト：肩ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

プリテンショナー付シートベルトが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずスバル販売店で交換してください。

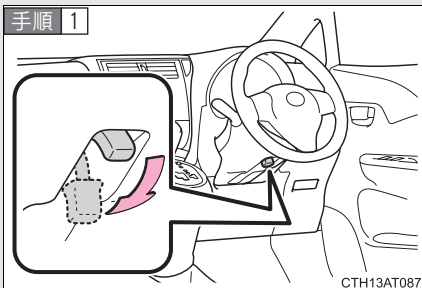
■シートベルトの損傷・故障について

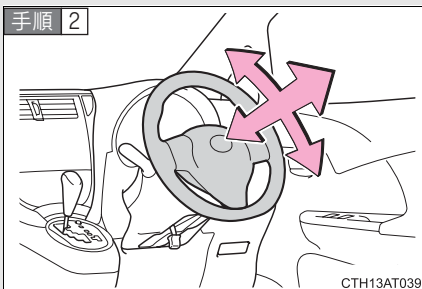
- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにスバル販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、スバル販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤ中央席を使用するときは

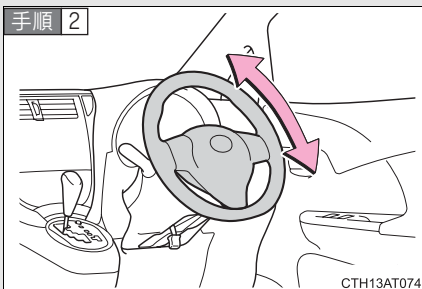
リヤ右側席を前倒しにしているときは、リヤ中央席に座らないでください。
中央席用シートベルトが使用できません。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

チルト / テレスコピックステアリング

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

チルトステアリング

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

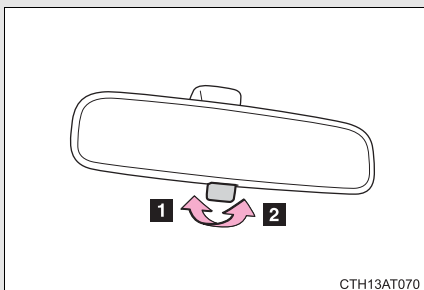
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

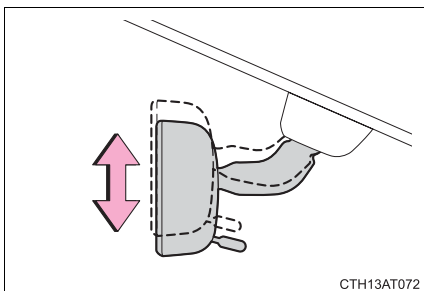
ルームミラー

後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

CTH13AT070

1 通常使用時

2 防眩時

上下調整のしかた

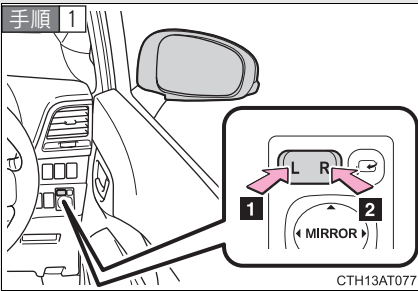
CTH13AT072

ルームミラー本体を持って、上下方向に調整する

警告

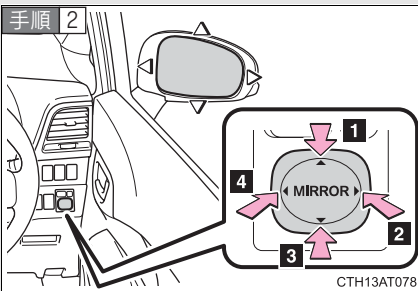
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

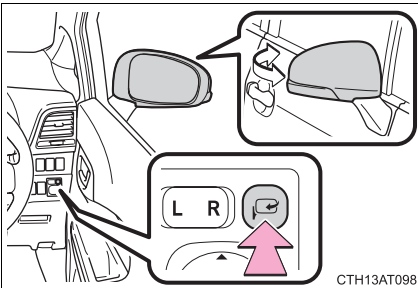
2 右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■鏡面の角度調整の作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

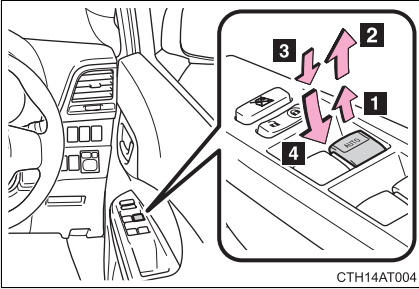
- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドゥ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

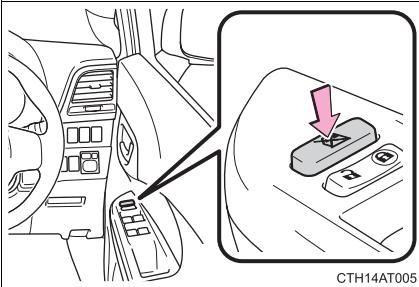
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

1 閉める

2 自動全閉（運転席のみ）※

3 開ける

4 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン OFF 後の作動（運転席のみ）

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ウインドゥ反転機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドゥを閉めることができないときは

ウインドゥ反転機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、運転席ドアのパワーウインドゥスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを“ON”の状態で、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。(キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外)

●車を停止し、プッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。(キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車)

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、ウインドゥ反転機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1　パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2　パワーウインドゥスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

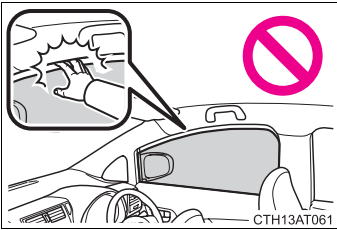
手順 3　再度、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

警告

■**ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

CTH13AT061

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■**ウインドゥ反転機能（運転席のみ）**

- ウインドゥ反転機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ウインドゥ反転機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、ウインドゥ反転機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

次の手順でフューエルリッド（燃料補給口）を開けてください。

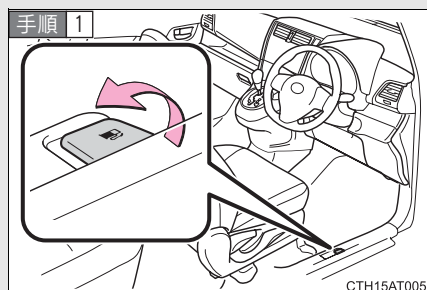
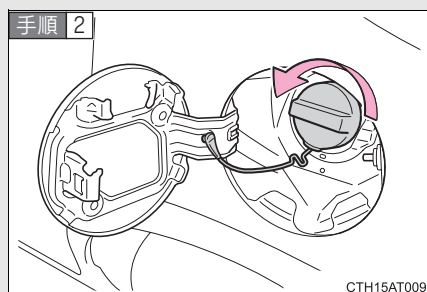
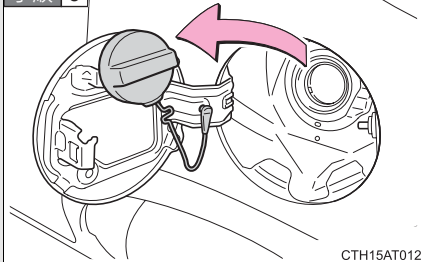
■ 給油する前に

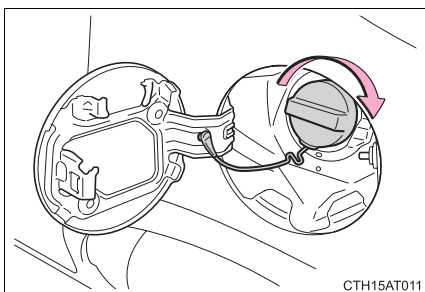
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

ドアとドアガラスを閉め、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

フューエルリッドオープナーを上げて、フューエルリッド（燃料補給口）を開ける

フューエルキャップをゆっくりまわして開ける

フューエルキャップをハンガーにかける

フューエルリッド（燃料補給口）のフューエルキャップを閉めるときは

フューエルキャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、フューエルキャップが逆方向に少しもどります。

警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボディなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●フューエルキャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける。
フューエルキャップを開けるときは、フューエルキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、フューエルリッド（燃料補給口）から燃料が噴き返すおそれがあります。

●フューエルリッド（燃料補給口）に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●給油するときはフューエルリッド（燃料補給口）にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■フューエルキャップ交換時の警告

スバル純正品以外のフューエルキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

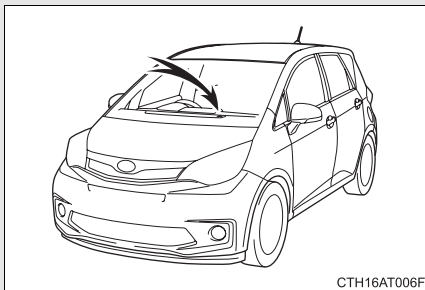
■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）＊

キーに信号アンテナが内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

プッシュエンジンスイッチをOFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）のメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号アンテナ内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

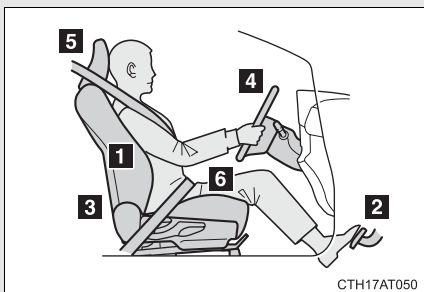
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）を正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背当てから背を離さない（→ P. 51）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 51）

3 各装置が操作しやすい背当ての角度にする（→ P. 51）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 64）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 57）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 59）

警告

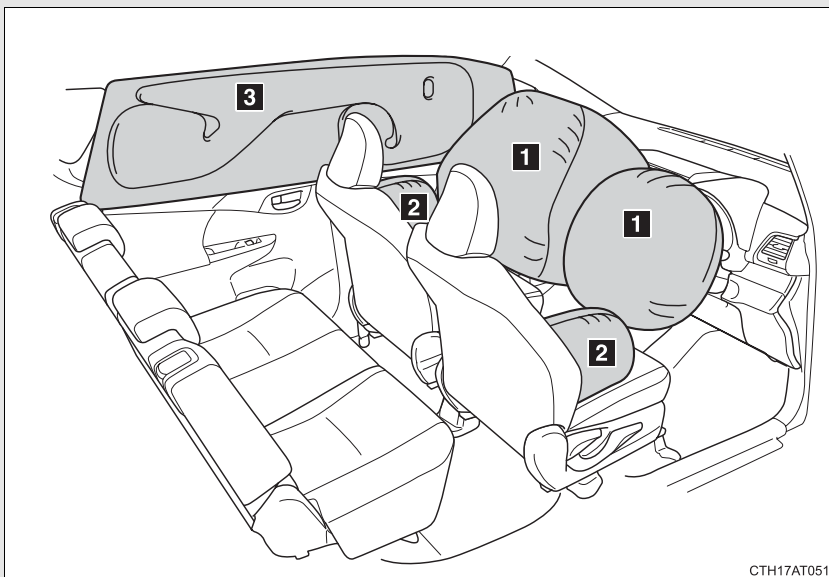
■走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背当てと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS ※エアバッグシステム

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

SRS サイド＆カーテンエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ*
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンエアバッグ*
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※：Supplemental Restraint System（サプリメンタルレストレイントシステム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●SRS カーテンエアバッグ装着車以外：フロント席などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●SRS カーテンエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイド部の一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドゥガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

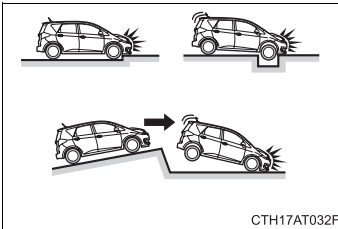
●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車両や標識のような、衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝突条件によってはプリテンショナー付シートベルトのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンエアバッグ＊）

SRS サイド＆カーテンエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

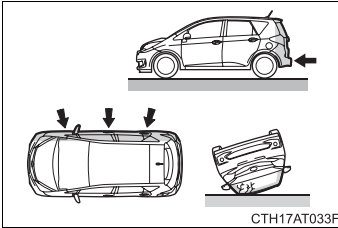
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

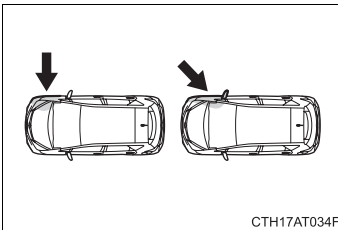
CTH17AT033F

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

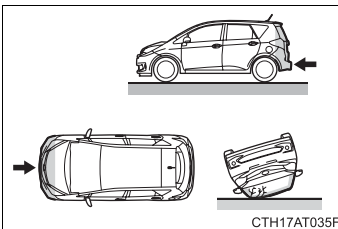
■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンエアバッグ*）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンエアバッグが作動しない場合があります。

CTH17AT034F

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイド＆カーテンエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

CTH17AT035F

●前方からの衝突

●後方からの衝突

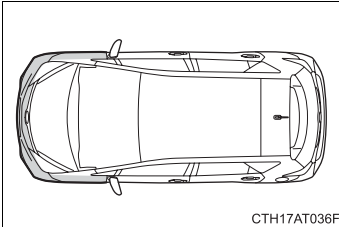
●横転

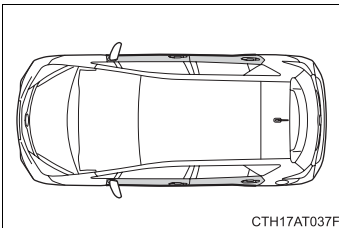
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

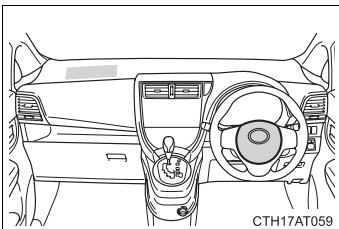
■スバル販売店に連絡が必要な場合

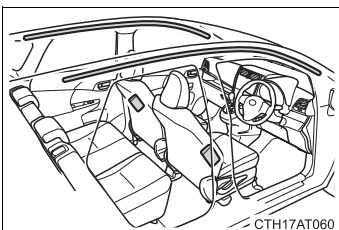
次のような場合には、できるだけ早くスバル販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

CTH17AT036F

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTH17AT037F

●SRS サイド&カーテンエアバッグ*はふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTH17AT059

●ハンドルのパッド部分・インストルメントパネルの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTH17AT060

●SRS サイドエアバッグ*が内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

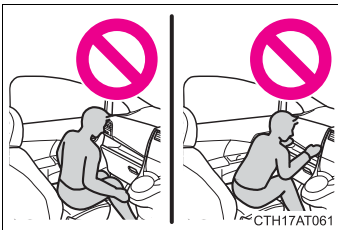
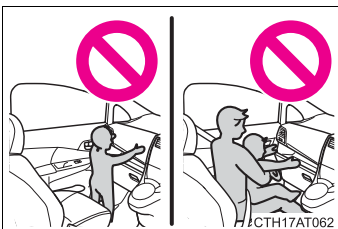
●SRS カーテンエアバッグ*が内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背当てを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 90)

- シートの縁に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしない

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

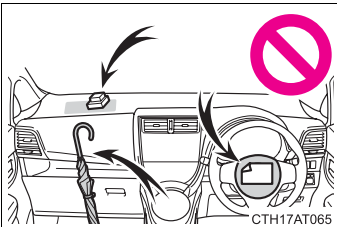
■SRS エアバッグについて

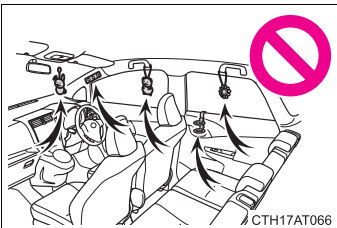
CTH17AT063

●SRS　サイド&カーテンエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイド部へ寄りかからない

CTH17AT064

●SRS サイドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

CTH17AT065

●インストルメントパネル・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

CTH17AT066

●SRS　サイド&カーテンエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドゥガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイド部・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く →P. 285)

●SRS カーテンエアバッグ装着車：コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS カーテンエアバッグ装着車以外：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。

●SRS カーテンエアバッグ装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。

警告

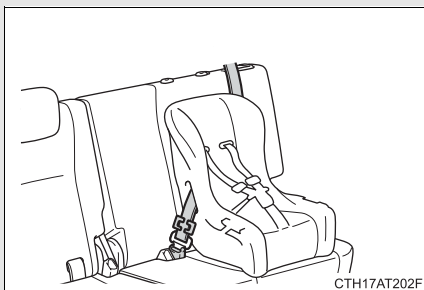
■**改造・廃棄について**

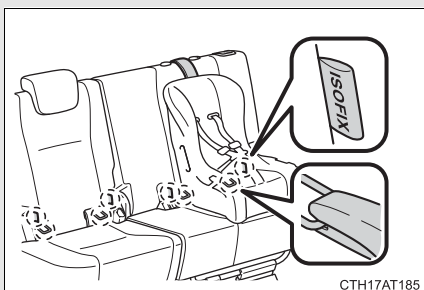
スバル販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

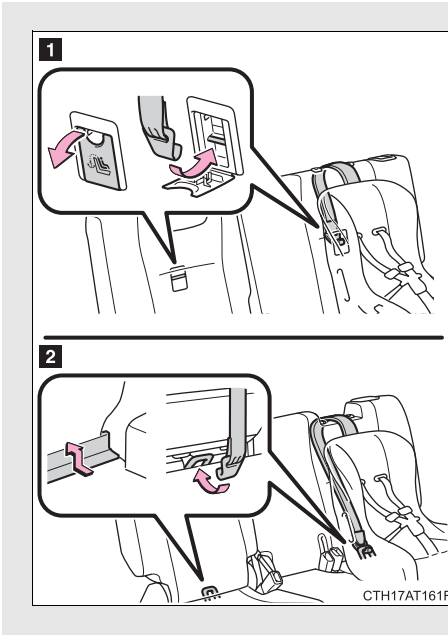
- ●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイド部周辺の修理・取りはずし・改造
- ●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

CTH17AT202F

シートベルトによる取り付け
(→P. 91)

CTH17AT185

ISO FIX 固定バー(→P. 93)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

テザーアンカー（→P. 93）

1 FF 車

2 AWD 車

テザーベルトを固定するときに使います。
テザーアンカーはリヤ外側シートに装備されています。

シートベルトで固定する

手順 1 背当ての角度を調整する

FF 車

1 1 段目

2 2 段目

いったん背当てを前に倒し一段目の固定位置まで起こし、2 段目の固定位置まで調整します（→P. 52）

AWD 車

CTH17AT163

1 1 段目

2 3 段目

いったん背当てを前に倒し一段目の固定位置まで起こし、3 段目の固定位置まで調整します
(→P. 52)

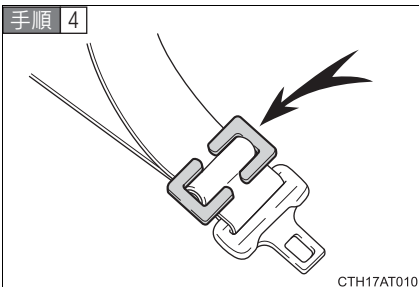
CTH17AT170

ヘッドレストをはずす(→P. 57)

CTH17AT204F

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

CTH17AT010

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、スバル販売店にご相談ください。

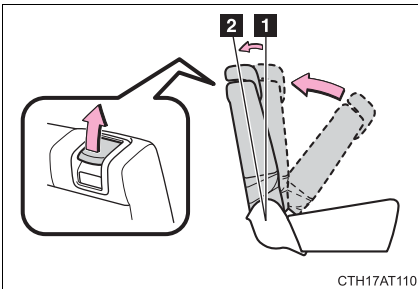
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISO FIX 固定バー＆テザーアンカーで固定する

手順 1 背当ての角度を調整する

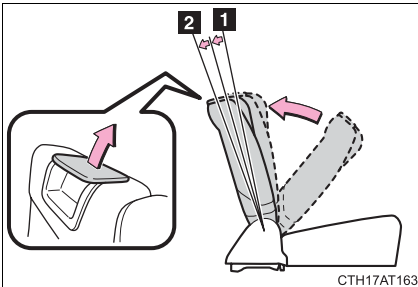
FF 車

1 1 段目

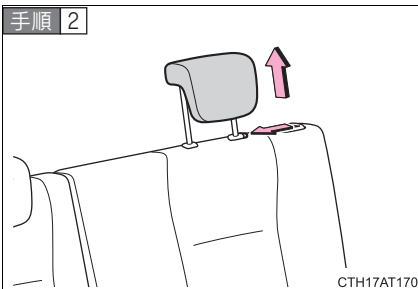
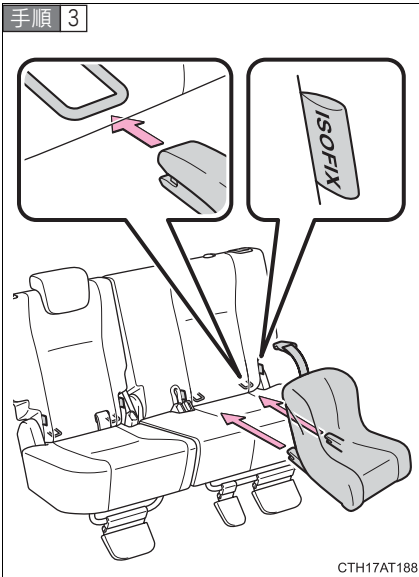
2 2 段目

いったん背当てを前に倒し一段目の固定位置まで起こし、2 段目の固定位置まで調整します（→P. 52）

AWD 車

1 1 段目

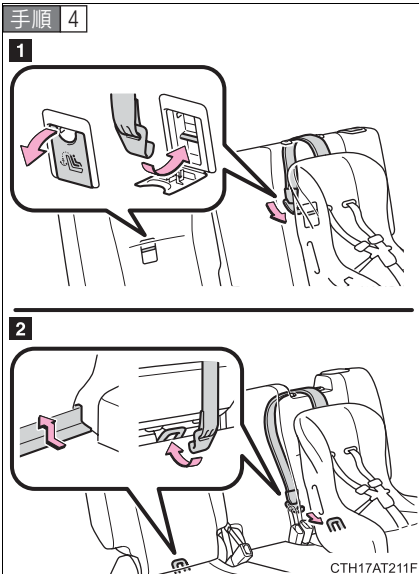
2 3 段目

いったん背当てを前に倒し一段目の固定位置まで起こし、3 段目の固定位置まで調整します（→P. 52）

手順 2 ヘッドレストをはずす（→P. 57）

CTH17AT188

ISO FIX 固定バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

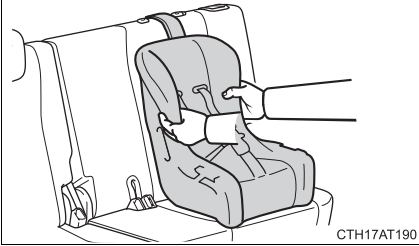
ISO FIX 固定バーは、座面の奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をISO FIX 固定バーに取り付けます。取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

CTH17AT211F

テザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

1 FF 車

2 AWD 車

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

知識

■ISO FIX 固定バー＆テザーアンカーについて

この ISO FIX 固定バー＆テザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISO FIX 固定バー＆テザーアンカー対応のスバル純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたっては、スバル販売店にご相談ください。

⚠警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドゥガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

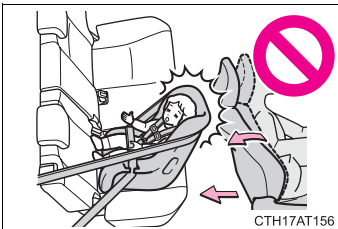
●SRS サイド&カーテンエアバッグ装着車：チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

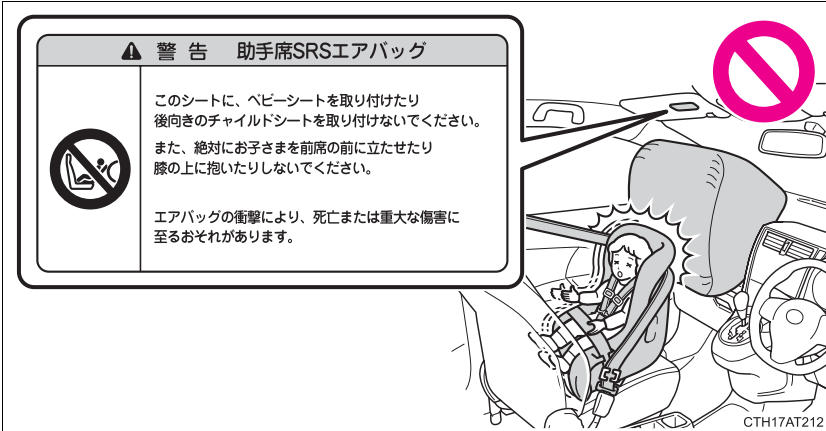
警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

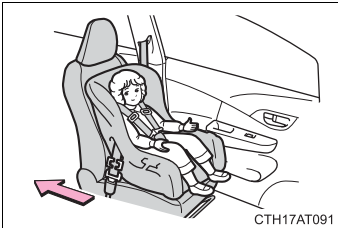
CTH17AT156

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

CTH17AT091

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●リヤ中央席以外：ジュニアシートを使用している場合は、肩ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISO FIX 固定バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

CTH17AT191

●リヤ右側席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤ中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→P. 91、93）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、カーゴルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 112, 119

■ 発進する

手順1 ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを D にする（→P. 122）

手順2 パーキングブレーキを解除する（→P. 130）

手順3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順1 セレクトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、セレクトレバーを P または N にします。（→P. 122）

■ 駐車する

手順1 セレクトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順2 パーキングブレーキをかける（→P. 130）

手順3 セレクトレバーを P にする（→P. 122）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

手順4 キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
プッシュエンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する

手順5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、セレクトレバーをDにする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

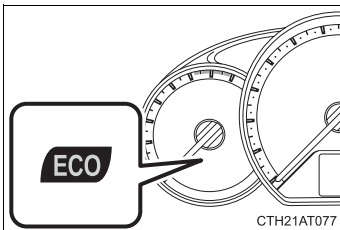
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボディ部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯が点灯すると、環境に配慮した運転をしていることを知らせます。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。

Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯は、Dポジションおよび約100 km/h以下で作動します。ただし、パドルシフト装着車はパドルシフト使用時作動しません。1NZ-FEエンジン搭載車は走行モードが通常走行モードのときに作動します。

Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯の点灯／消灯を変更することができます。(→P. 134)

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●セレクトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、リヤゲートが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにスバル販売店で点検整備を受けてください。

警告

- 車両が動いているあいだは、セレクトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、セレクトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、セレクトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にセレクトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 314 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 124)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・ルームミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- AWD 車：オフロード走行をしないでください。
  本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。

警告

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■**すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**セレクトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。セレクトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは（ブレーキパッドウェアインジケーター）**

できるだけ早くスバル販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
セレクトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- ウインドゥガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやインストルメントパネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーをＰにしてエンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
  ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、スバル販売店または専門業者へご連絡ください。

注意

■運転中は

● 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

● 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずセレクトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

● パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

● ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 280をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずスバル販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスアクスル・トランスファー（AWD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト（AWD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーレスアクセス&プッシュスタート装着車）

アクセスキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはプッシュエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

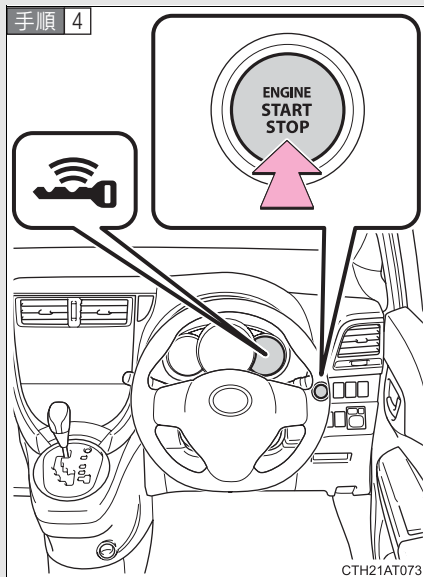
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 セレクトレバーが P の位置にあることを確認する

セレクトレバーがP以外の位置にあるとエンジンを始動させることができないことがあります。（→P. 122）

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

プッシュエンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

プッシュエンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

手順 1 車両を停止させる

手順 2 セレクトレバーを P の位置にする

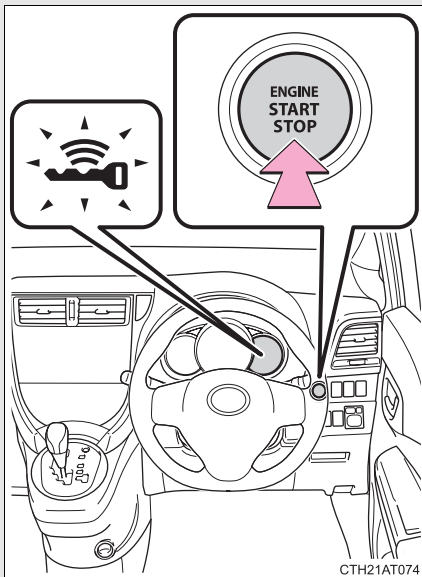
手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 130）

手順 4 ブレーキペダルから足を離す

手順 5 プッシュエンジンスイッチを押す

手順 6 キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

■ **プッシュエンジンスイッチのモード切りかえ**

ブレーキペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

OFF ※

非常点滅灯（ハザードランプ）が使用できます。

キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が消灯します。

アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※：セレクトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

セレクトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

セレクトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、プッシュエンジンスイッチのモードはアクセサリーモードになり OFF になりません。以下の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 セレクトレバーを P の位置にする

手順 3 キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、プッシュエンジンスイッチを 1 回押す

手順 4 キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

車を停車しセレクトレバーを P の位置にして、1 時間以上アクセサリーモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、プッシュエンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリー上がりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■プッシュエンジンスイッチの操作について

プッシュエンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■アクセスキーの電池の消耗について

→P. 37

■キーレスアクセス＆プッシュスタートが正常に働かないおそれのある状況

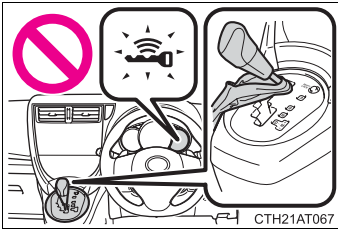
→P. 33

■ご留意いただきたいこと

→P. 34

■エンジンが始動しないときは

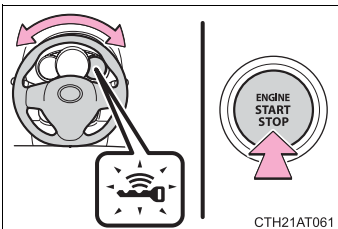
イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）が解除されていない可能性があります。
（→P. 77）

CTH21AT067

セレクトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、セレクトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。

■ステアリングロックについて

プッシュエンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリンググロック機能によりハンドルが固定されます。プッシュエンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

CTH21AT061

キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。セレクトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が黄色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

■アクセスキーの電池が切れたときは

→P. 255

■カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートをキャンセルしたときは

→P. 301

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、プッシュエンジンスイッチを３秒以上押し続けるか、素早く３回以上連続で押してください。
ただし、緊急時以外は走行中にプッシュエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリー上がりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が消灯していない場合、プッシュエンジンスイッチが OFF になっていません。プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●セレクトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。セレクトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、プッシュエンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリー上がりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■プッシュエンジンスイッチの操作について

プッシュエンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにスバル販売店にご連絡ください。

■ エンジンのかけ方

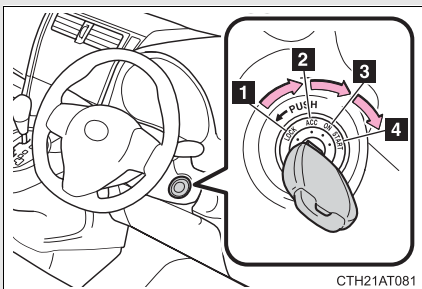
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 セレクトレバーがＰの位置にあることを確認する

手順 3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジンスイッチの位置の切りかえ

CTH21AT081

1 “LOCK”(OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- セレクトレバーの位置がＰのとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

すべての電装品が使用できます。

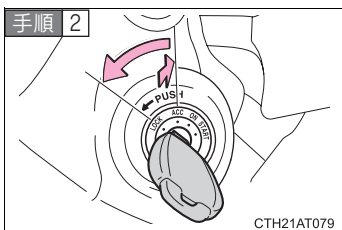
4 “START”

エンジンが始動できます。

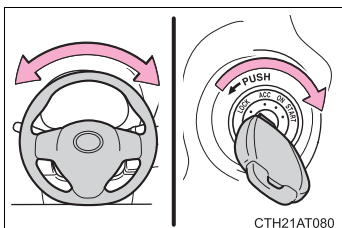
知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

手順 1 セレクトレバーが P の位置にあることを確認する

CTH21AT079

キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

CTH21AT080

ステアリングを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■バッテリー上がりを防止するために

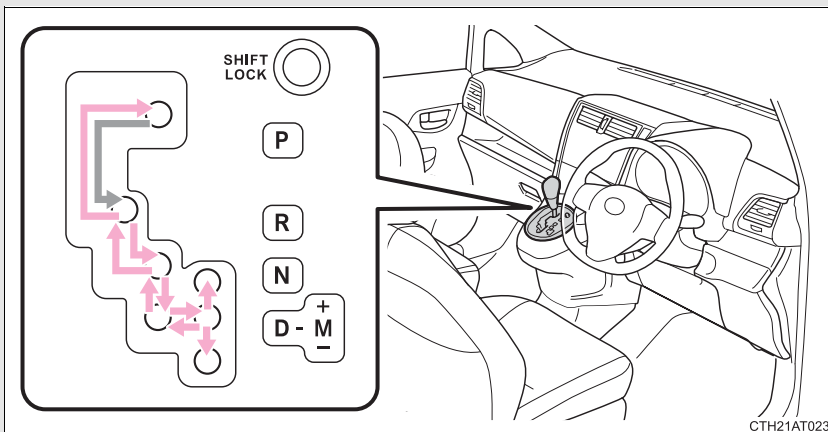
エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

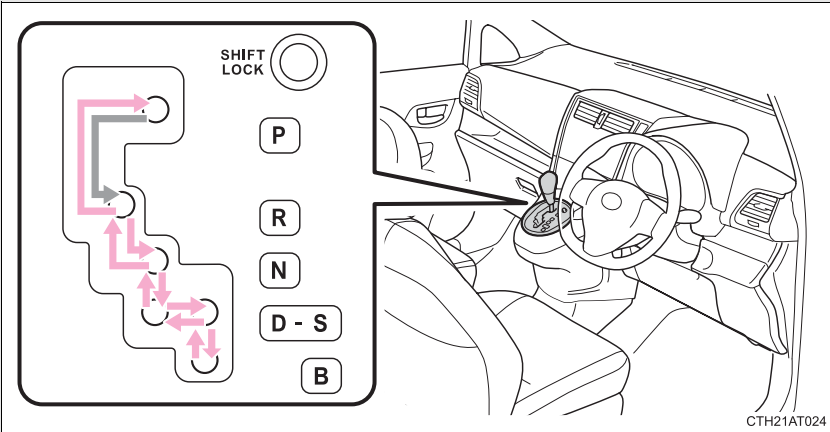
状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ セレクトレバーの動かし方

1NZ-FE エンジン搭載車

（灰色矢印）キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

1NR-FE エンジン搭載車

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

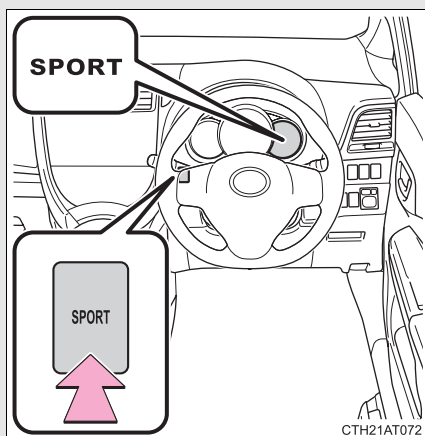
P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	1NZ-FE エンジン搭載車	1NR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
M	7 速マニュアルモード走行 (→ P. 125)	
S		坂道走行
B		急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常時は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択 (1NZ-FE エンジン搭載車)

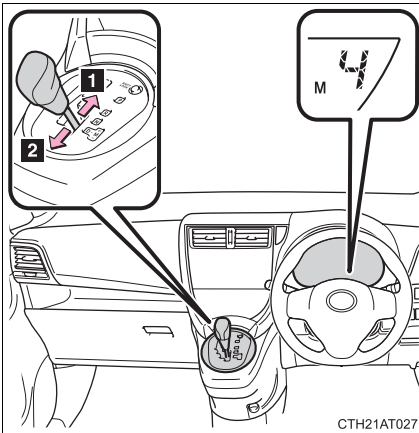
CTH21AT072

スイッチを押す

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。スイッチを押すと、メーター内の SPORT モード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行モードへもどります。

7 速マニュアルモードでの変速段切りかえ（1NZ-FE エンジン搭載車）

パドルシフト装着車以外

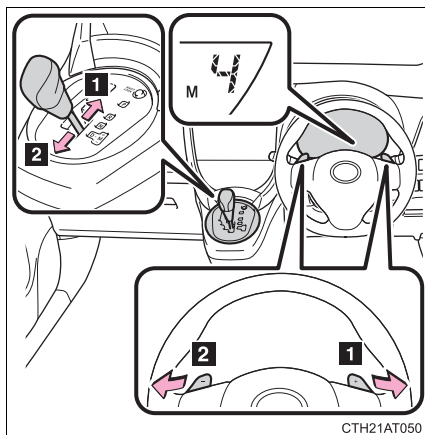
セレクトレバーを M の位置にして、セレクトレバーを操作します。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

セレクトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

パドルシフト装着車

セレクトレバーを M の位置にして、セレクトレバーまたはパドルシフトを操作します。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

セレクトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

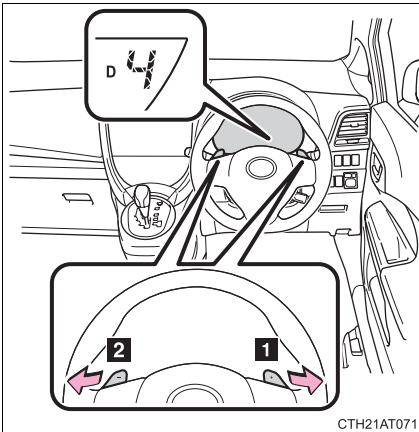
1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

■ 変速段機能

- エンジンブレーキ力は、7 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

一時的なマニュアルモードについて（パドルシフト装着車）

セレクトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

セレクトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

■ 変速段機能

→P. 126

知識

■ 7 速マニュアルモード走行時の変速段表示 (1NZ-FE エンジン搭載車)

実際の変速段はメーターに表示されます。

■ クルーズコントロール＊を使用して走行しているとき

M ポジション走行時に M6・M5・M4 へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。

パドルシフト装着車：D ポジション走行時、パドルシフトを操作することにより D6・D5・D4 へ変速してもエンジンブレーキは効きません。

■ セレクトレバーを P からシフトできないときは

→P. 299

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■セレクトレバーを M にしたあと、シフトポジション表示灯の M が点滅し警告ブザーが鳴ったときは (1NZ-FE エンジン搭載車)

システム異常のおそれがあります。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

この場合、セレクトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■M ポジションで走行中に停車したときは (1NZ-FE エンジン搭載車)

・停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
・停止後、走行するときは M1 からの発進となります。
・停止時は M1 に固定されます。

■D ポジションでの一時的なマニュアルモードの解除（パドルシフト装着車）

以下のとき、D ポジションでの一時的なマニュアルモードは解除されます。

●車両停止状態のとき

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●パドルシフトの“＋”側を一定時間以上押し続けたとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■シフトダウン制限警告ブザー (1NZ-FE エンジン搭載車)

7 速マニュアルモード走行時、安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、セレクトレバーやパドルシフトを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります。）

■リバース警告ブザー

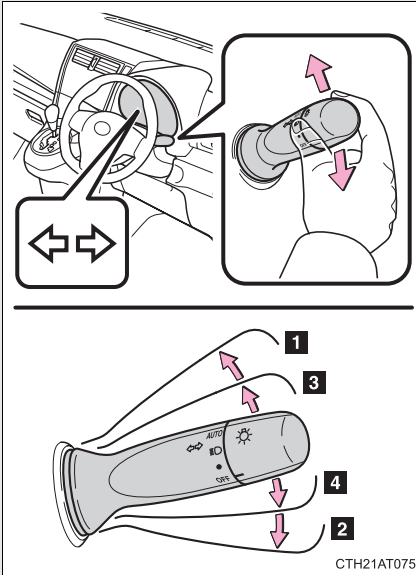
セレクトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

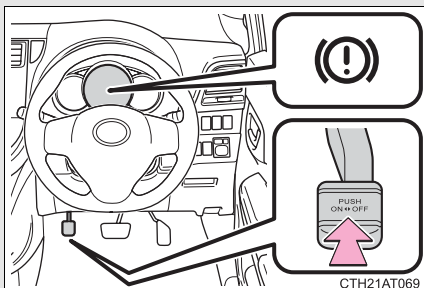
知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチが“ON”の位置のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

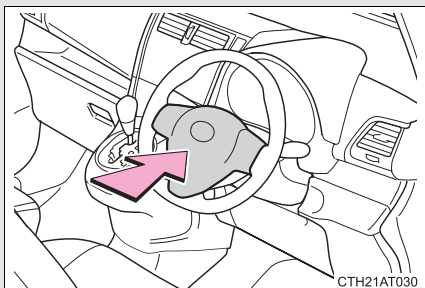
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 163）の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

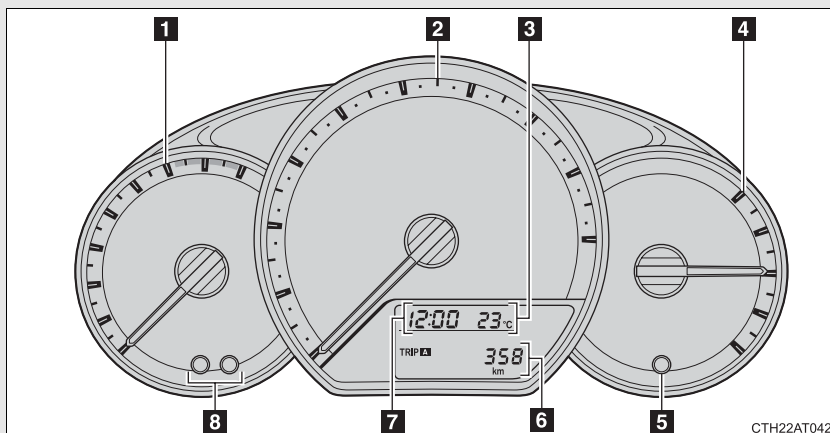
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーンスイッチ

ハンドルの　　周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 64）

計器類

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 外気温表示

→P. 196

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 トリップ切り替え／トリップリセットノブ

→P. 133

6 オドメーター、トリップメーター、マルチインフォメーションディスプレイ

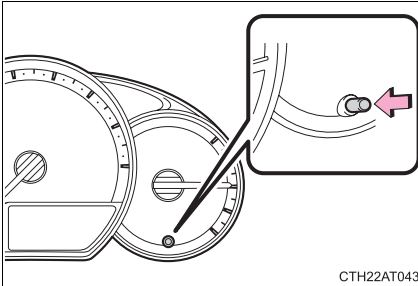
→P. 133, 139

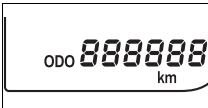
7 時計表示

→P. 195

8 時計表示調整ボタン

→P. 195

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中にトリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると、走行距離を0にもどします。

■ 瞬間燃費

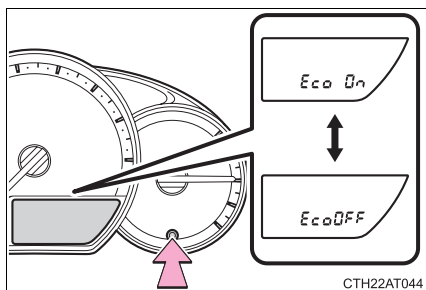
→P. 140

■ 平均燃費

→P. 140

■ 航続可能距離

→P. 140

Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯ユーザーカスタマイズ画面

Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯の点灯／消灯を変更するには、Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯ユーザーカスタマイズ画面表示中に、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押します。

Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯ユーザーカスタマイズ画面はオドメーターが表示中に、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと表示されます。表示が切りかわるまでボタンを押し続けてください。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：
エンジンスイッチが“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

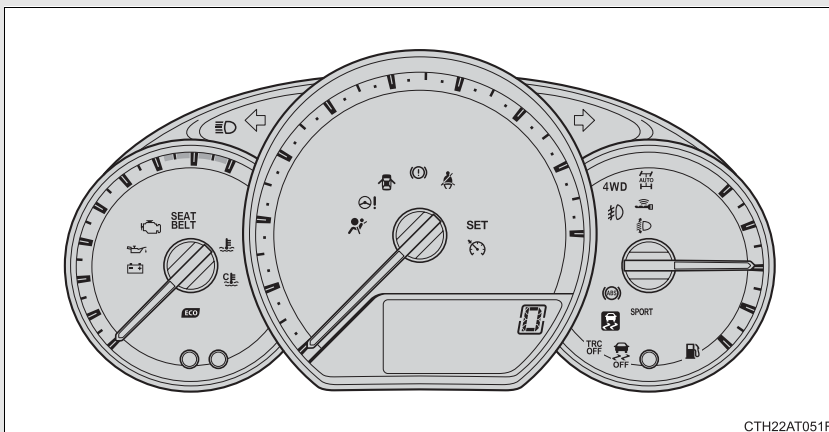
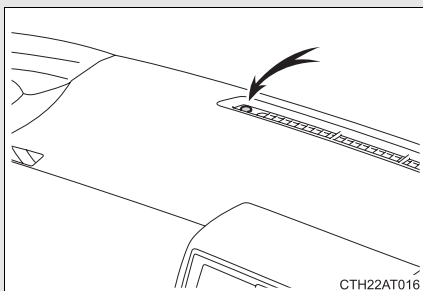
注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 高水温警告灯が点滅・点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 309）

表示灯／警告灯

メーター内・インストルメントパネル上の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

■ メーター

■ インストルメントパネル（イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）装着車）

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示器表示灯
（→P. 129）

ハイビーム / パッシング表示灯（→P. 141）

フロントフォグランプ表示灯*（→P. 145）

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）表示灯*（→P. 77）

（緑色）
キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯*（→P. 112）

※ 1
AWD オートモード表示灯*（→P. 154）

SPORT

SPORT モード表示灯*
（→P. 124）

※ 1
（点滅）
VDC 作動表示灯*
（→P. 157）

D

シフトポジション表示灯*
（→P. 122）

※ 1
Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯（→P. 103）

※ 2
低水温表示灯

※ 1

TRC
OFF

TRC ※ 4 OFF 表示灯*
（→P. 157）

※ 1
VDC OFF 表示灯*
（→P. 157）

クルーズコントロール表示灯*（→P. 150）

“SET” 表示灯*
（→P. 150）

※ 3

SEAT
BELT

シートベルト着用表示灯

セレクトインジケーター*
（→P. 122）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にする（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）またはプッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）と点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。
スバル販売店で点検を受けてください。

※ 2 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

※ 3 車両停車時ドアを開閉すると、シートベルトの着用をうながすため、点滅します。10 秒後に消灯します。

※ 4「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 273)

（点滅）

（黄色）

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）またはプッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モード（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

※ 2 黄色に点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。緑色に速く点滅した場合はステアリングロックが解除できていないことを示します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

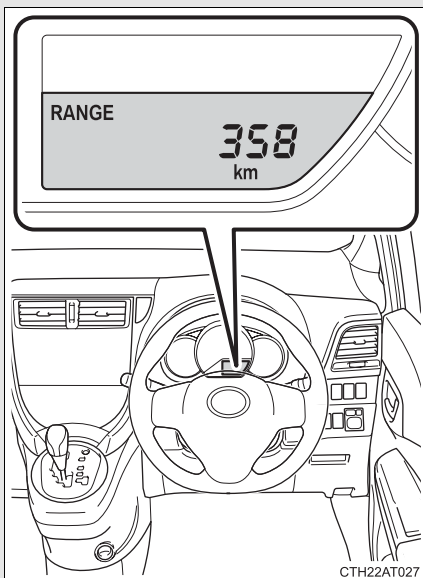
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

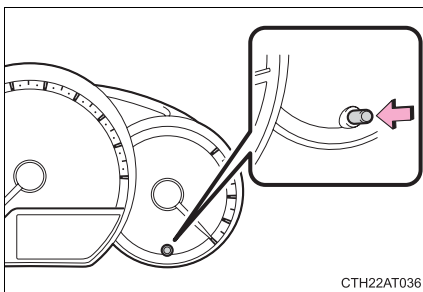
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関する様々な情報を表示します。

CTH22AT027

- オドメーター（→P. 133）
- トリップメーター（→P. 133）
- トリップインフォメーション（→P. 140）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。
- Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯ユーザーカスタマイズ画面（→P. 134）

表示の切りかえ

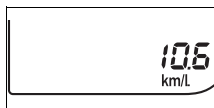
CTH22AT036

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。

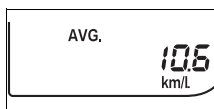
■ オドメーター

→P. 133

■ トリップメーター

→P. 133

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示

- リセットするには、平均燃費表示中にトリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

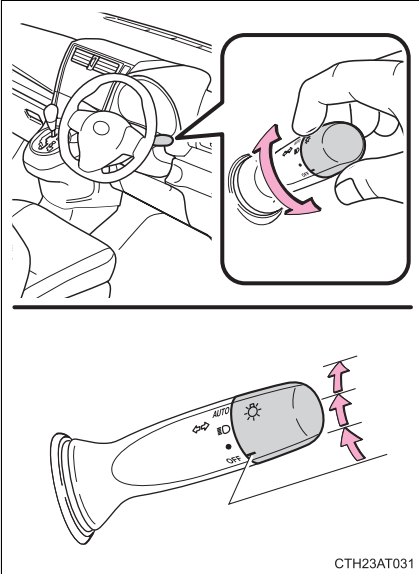
注意

■低温時の画面表示について

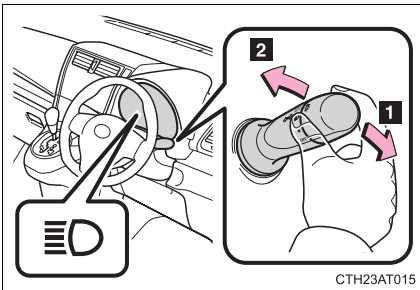
画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ライティングスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

CTH23AT031

●	車幅灯・尾灯 兼 制動灯・番号表示灯・メーター照明を点灯
(ヘッドランプ記号)	上記ランプとヘッドランプを点灯
AUTO*	ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯（プッシュエンジンスイッチがイグニッションON モードのとき）

ハイビームにする

CTH23AT015

1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

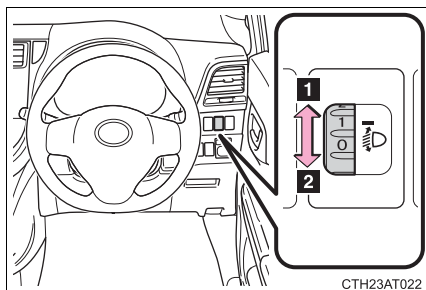
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ヘッドランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

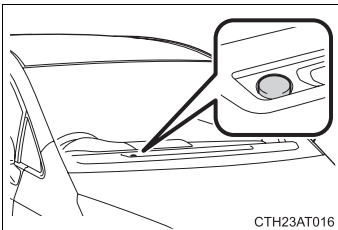
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	カーゴルーム満載時	2.5
運転者	カーゴルーム満載時	4.0

知識

■オートライトセンサー（オートライト装着車）

CTH23AT016

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドゥガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能（オートライト装着車）

プッシュエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯 兼 制動灯とフロントフォグランプが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、プッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライティングスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■オートヘッドランプレベライザー（HID ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯 兼 制動灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能（オートライト装着車）

車両のバッテリー上がりを防止するため、プッシュエンジンスイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯 兼 制動灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
以下のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

・ プッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
・ ライティングスイッチを操作したとき
・ ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

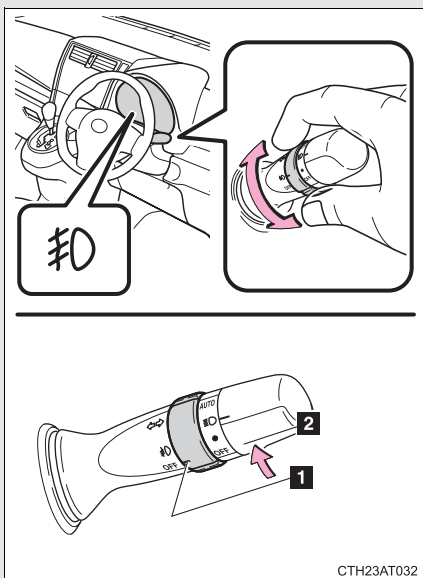
オートライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 : →P. 325）

注意

■バッテリー上がりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

1 消灯する

2 点灯する

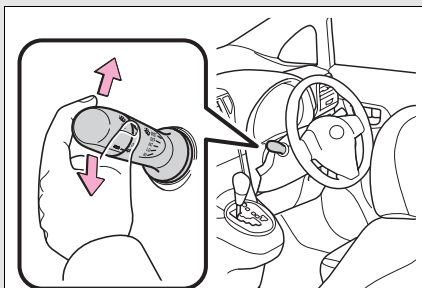
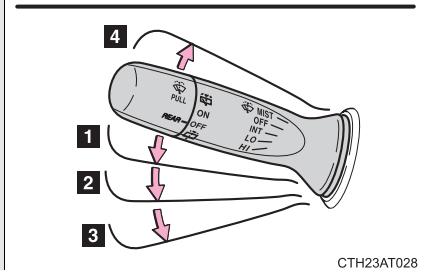
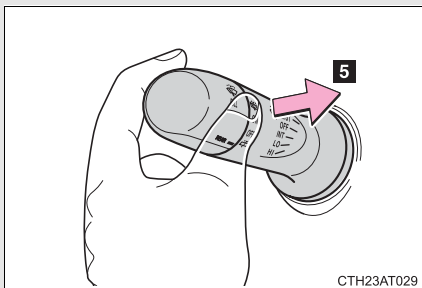
知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント）

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチが“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントウインドゥガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

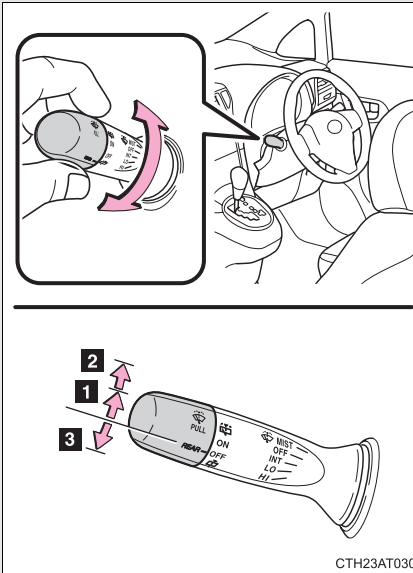
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはスバル販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャースイッチ（リヤ）

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 通常作動

2 ウォッシャー液を出す

（ワイパー作動中）

3 ウォッシャー液を出す

（ワイパー停止中）

知識

■作動条件

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチが“ON”のとき

キーレスアクセス&プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

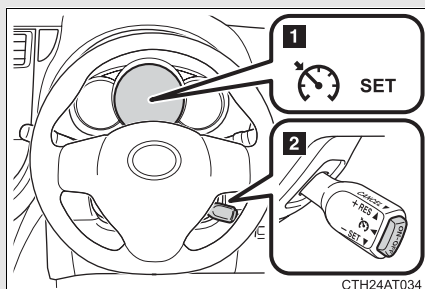
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

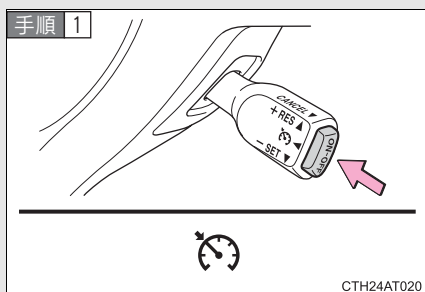
■ノズルがつまったときは

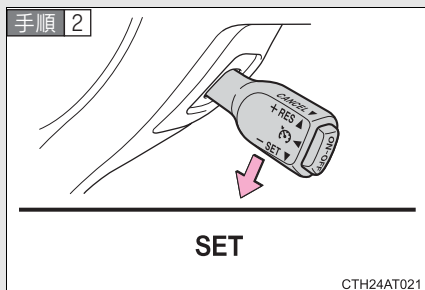
ノズルがつまったときはスバル販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

クルーズコントロール*

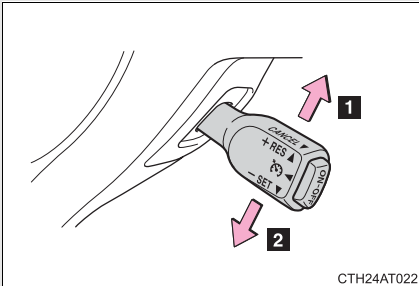
アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 クルーズコントロール表示灯
2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには、再度スイッチを押します。

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内の“SET”表示灯が点灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

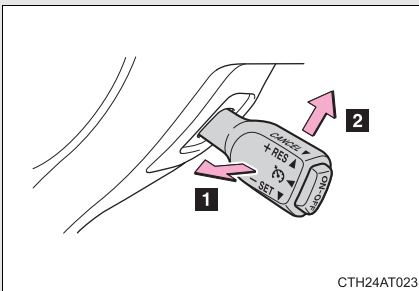
■ 設定速度を変える

CTH24AT022

1 速度を上げる

2 速度を落とす

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

CTH24AT023

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

知識

■設定条件について

- セレクトレバーが D または M4 ～ M7 のとき設定できます。
- パドルシフトで D4 ～ D7 を選択したとき設定できます。
  （パドルシフト装着車）
- 車速は約 40 ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- ●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- ●速度が約 40 km/h 以下になった
- ●車が横すべりして VDC *が作動した

■定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■**誤操作を防ぐために**

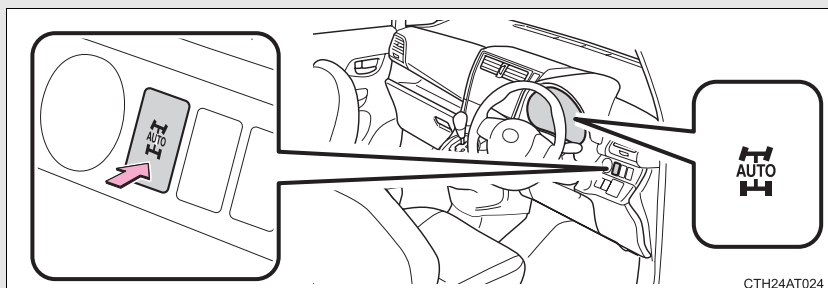
クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

AWD オートモードスイッチ＊

走行安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と AWD（4 輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

AWD オートモードを ON する

AWD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

再度押すと解除されます。（→P. 156）

知識

■AWD オートモード表示灯について

●AWD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、AWD オートモード表示灯が消灯し、AWD 警告灯が点滅します。（→P. 276）
警告灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

・警告灯が消灯するまで車速を落とす
・警告灯が消灯するまで停車する（エンジンは停止しない）

●AWDシステムに異常が発生したときには、AWDオートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、AWD オートモードスイッチの状態にかかわらず FF モードとなります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■AWD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）*

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ トラクションコントロール（TRC ※）機能 *

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ VDC（ビークルダイナミクスコントロール：ステアリングアシスト機能付）*

ABS、TRC ※、VDC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで車両の方向安定性確保に貢献します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

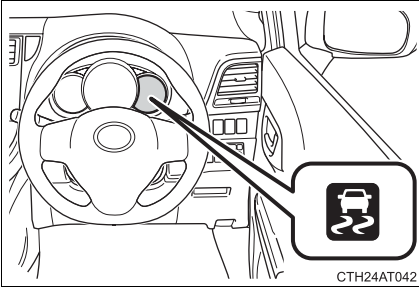
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ 電子制御 AWD *

AWD オートモードを ON にすると、通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から AWD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

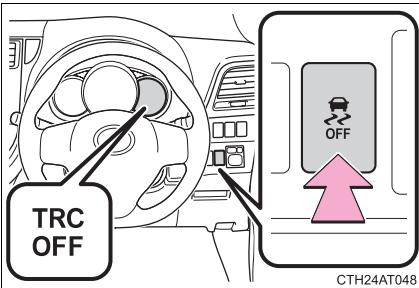
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※：「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VDC・TRC※が作動しているとき

VDC、TRC※が作動しているときは VDC 作動表示灯が点滅します。

TRC※や VDC を停止するには

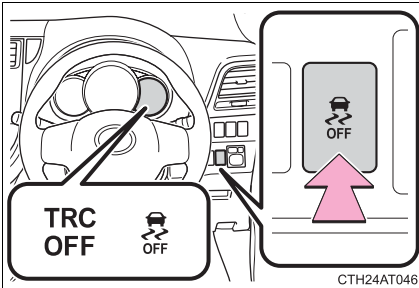
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC※や VDC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VDC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC※を停止するには

TRC※を停止するにはスイッチを押す

TRC※ OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

※：「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

■ TRC ※と VDC を停止するには

TRC ※と VDC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

TRC ※ OFF 表示灯と VDC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ ABS・ブレーキアシスト・VDC・TRC ※の作動音と振動

● エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC ※や VDC の自動復帰について

TRC ※や VDC を作動停止にした場合でも、エンジンをかけなおすと自動的に TRC ※と VDC は作動可能状態にもどります。

■ TRC ※ OFF の作動制限

TRC ※のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC ※は作動を再開します。但し、TRC ※と VDC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

※ :「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■VDC 作動表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。スバル販売店に連絡してください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪におおわれた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC ※の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC ※が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

※：「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

警告

■VDC 作動表示灯が点滅しているときは

VDCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC※や VDC を OFF にするときは

TRC※や VDC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC※・VDC を作動停止状態にしないでください。TRC※や VDC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ABS・VDC・TRC※・電子制御 AWD が正常に作動しません。

- ●4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着する
- ●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- ●推奨された空気圧へ調整する（→P. 322）

タイヤ、またはホイールを交換するときは、スバル販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■電子制御 AWD について

- ●ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性への寄与を目的としたAWD ですので、無理な運転はしないでください。
- ●滑りやすい路面での走行は慎重に行ってください。

※：「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

● できるだけ荷物はカーゴルームに積む

● 荷物が安全な位置に置かれているか確認する

● 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む

● 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むときは**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はカーゴルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・ 運転席足元
・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・ インストルメントパネル

⚠ 警告

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●シート背当てより高いものをカーゴルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背当てを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背当ての真うしろには積まないでください。

●カーゴルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ 冷却水
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。
  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（タイヤについて →P. 219）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドゥガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、セレクトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。スバル販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

· 安全に作業できる場所で行う
· 前 2 輪に取り付ける
· タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
· 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する際は、必ず４輪とも装着する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶ、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

スバル純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
スバル純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■**フロントウインドゥガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

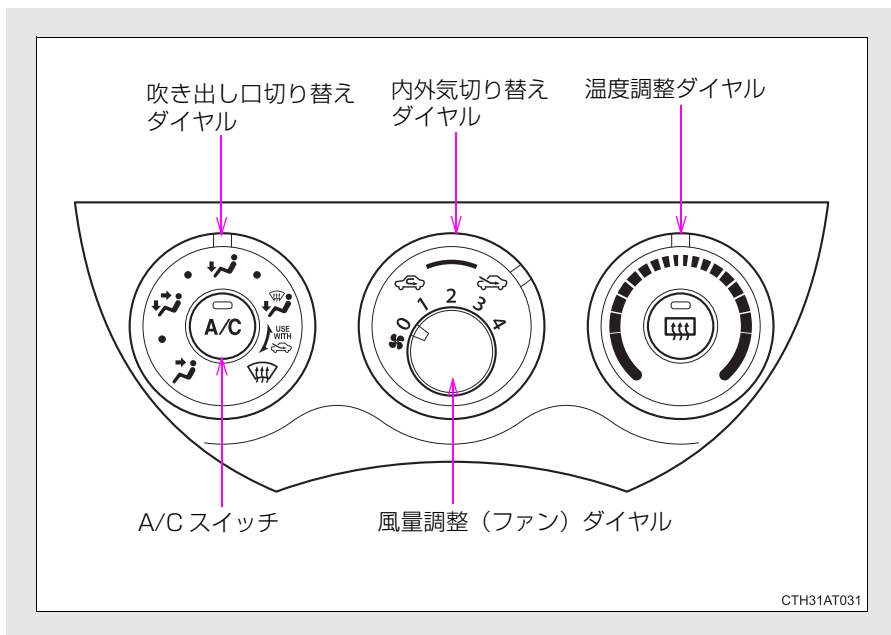
3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン＊

吹き出し口切り替えダイヤル
内外気切り替えダイヤル
温度調整ダイヤル
A/C スイッチ
風量調整（ファン）ダイヤル
CTH31AT031

エアコンの設定

■ 温度をかえるには

温度調整ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

が押されてない場合は送風または暖房で使用できます。

■ 風量をかえるには

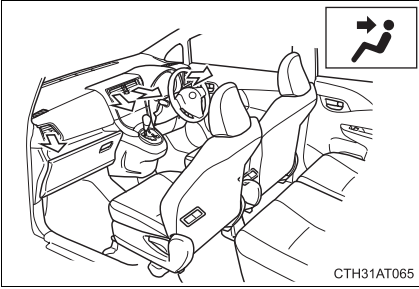
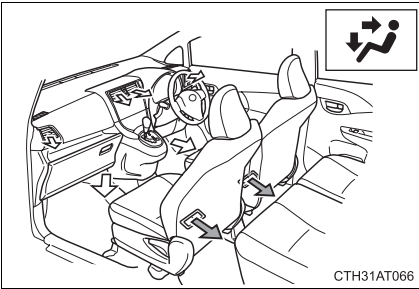
風量調整（ファン）ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

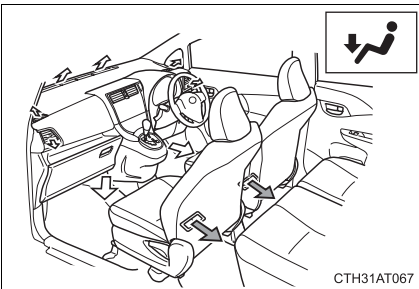
送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせる

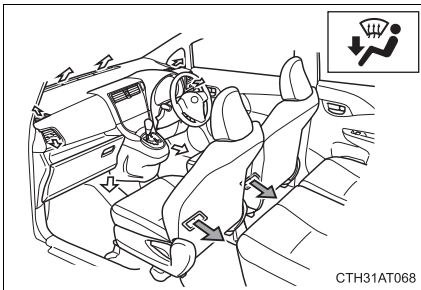
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 吹き出し口を切り替えるには

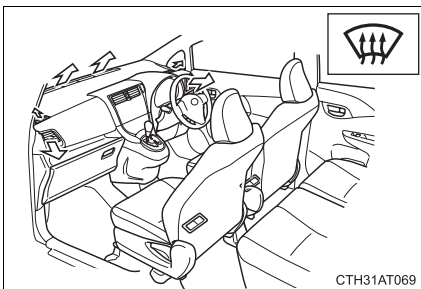
吹き出し口切り替えダイヤルを回し吹き出し口を選ぶ

ダイヤル位置を各吹き出し口の間にすると、吹き出し口を細かく選択できます。

上半身に送風

上半身と足元に送風

：車両型式などで設定の有無あり

足元に送風

：車両型式などで設定の有無あり

：車両型式などで設定の有無あり

足元に送風・ガラスの曇りを取る

内外気切り替えダイヤルを の位置にして使用します。

ガラスの曇りを取る

内外気切り替えダイヤルを の位置にして使用します。

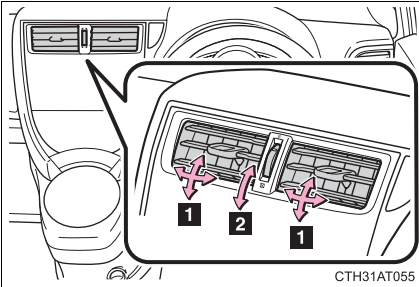
 を押してエアコンをONにすると曇りが早く取れます。

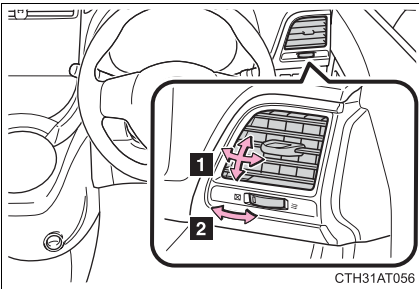
■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

内外気切り替えダイヤルを の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切り替わります。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調整ダイヤルの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコン使用中に A/C の作動表示灯が消灯したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったん A/C スイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。再度消灯する場合は、スイッチを OFF にしてスバル販売店で点検を受けてください。

■外気温度が 0 ℃近くに下がったとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

警告

■フロントウインドゥガラスの曇りを防止するために

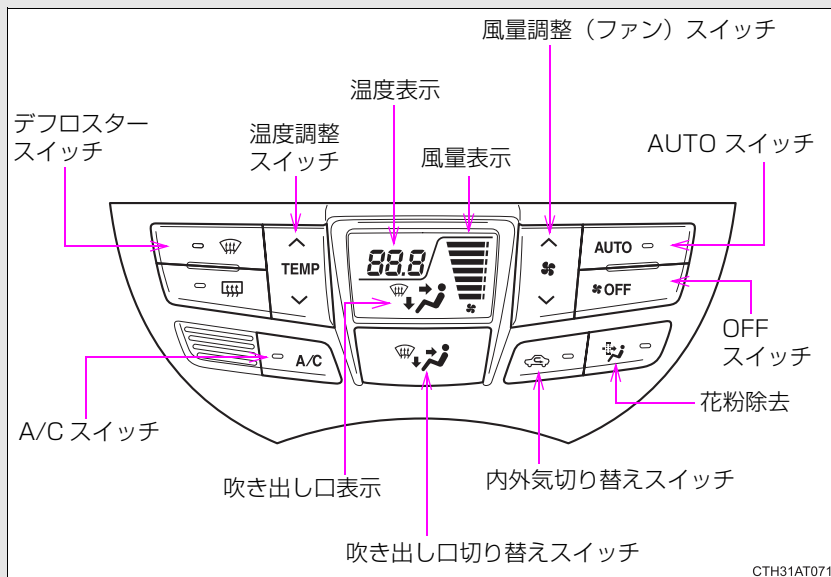
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルをガラスの曇り取りの位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■**バッテリー上がりを防ぐために**

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

オートエアコン＊

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

AUTO スイッチを使うとき

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

手順 3 A/C を押す

A/C を押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

 を押す

 を押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは、 の∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量をかえるには

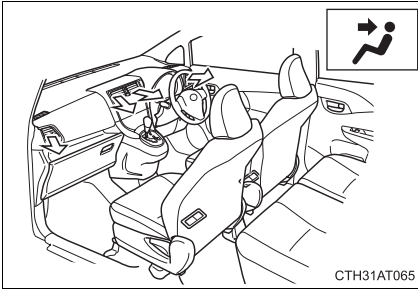
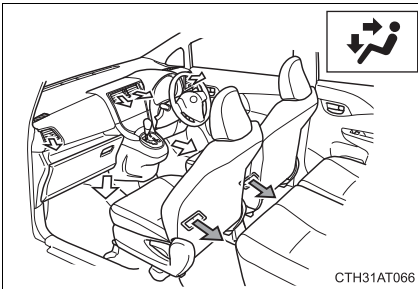
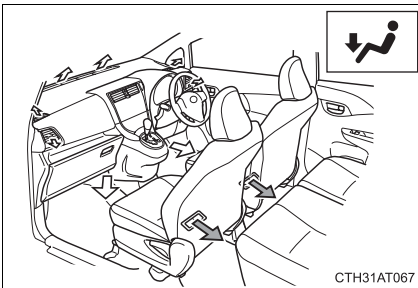
 の ∧（増）か ∨（減）を押す

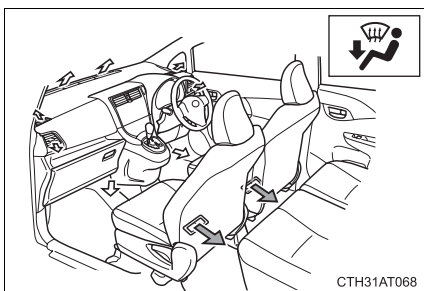
風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

■ 吹き出し口を切り替えるには

を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

：車両型式などで設定の有無あり

足元に送風

：車両型式などで設定の有無あり

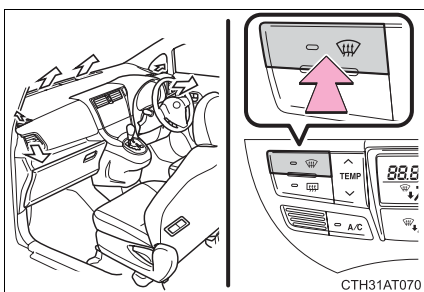
足元に送風・ガラスの曇りを取る

：車両型式などで設定の有無あり

■ **外気導入・内気循環を切り替えるには**

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントウインドゥガラスの曇りを取るには

曇りを取る

エアコンが作動します。

外気温が低いときは、自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

曇りが取れたら再度同じボタンを押すと前のモードにもどります。

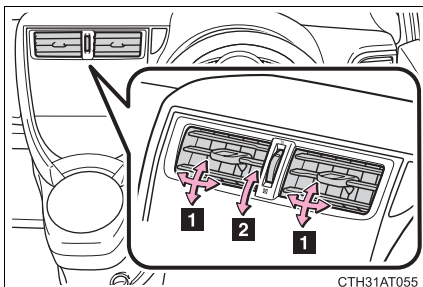
花粉除去機能を使うには

 を押す

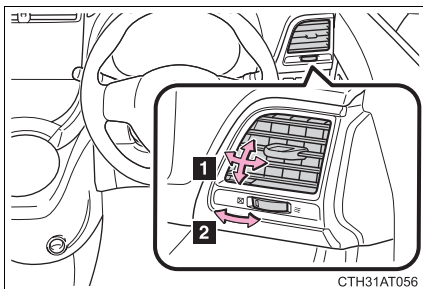
内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは、再度 を押すと前のモードにもどります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■AUTO スイッチの作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドゥガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって、自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントウインドゥガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。

・ 内気循環に切り替わらない
・ A/C スイッチが自動的に入る
・ 1 分後作動が停止する

●雨天時は窓が曇るため、 を押してください。

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■エアコン使用中に A/C の作動表示灯が消灯したときは

システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったん A/C スイッチを OFF にしてから、もう一度 ON にしてください。再度消灯する場合は、スイッチを OFF にしてスバル販売店で点検を受けてください。

■外気温度が 0 ℃近くに下がったとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、AUTO スイッチでの使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントウインドゥガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

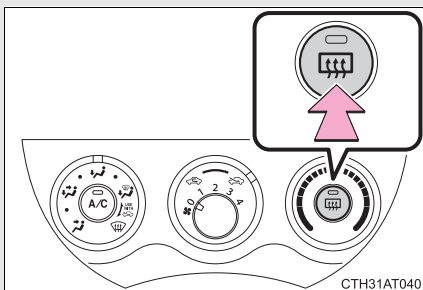
注意

■バッテリー上がりを防ぐために

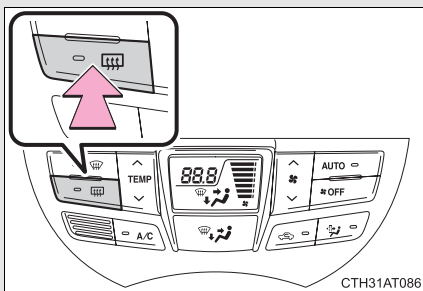
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドゥの曇りを取るときにお使いください。

マニュアルエアコン装着車

ON ／ OFF

押すごとにON ／ OFFが切り替わり、作動中は表示灯が点灯します。

オートエアコン装着車

ON ／ OFF

押すごとにON ／ OFFが切り替わり、作動中は表示灯が点灯します。
リヤウインドゥデフォッガーは自動的にOFFになります。
作動時間は外気温度や車速によって変わります。

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが ON のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

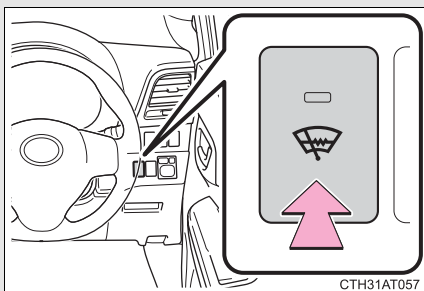
注意

■バッテリー上がりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリー上がりの原因になります。

フロントワイパーデアイサー*

フロントウインドゥガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

CTH31AT057

ON ／ OFF

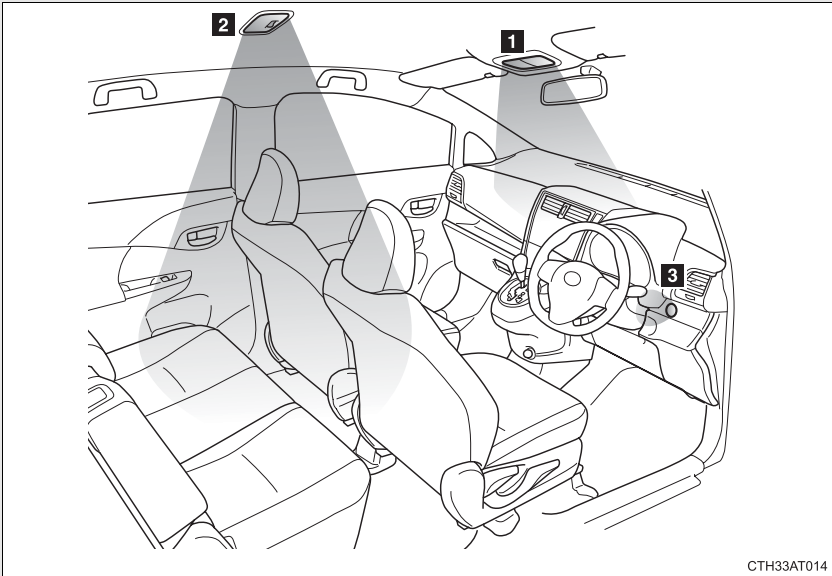
フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

警告

■作動中の警告

フロントウインドゥガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

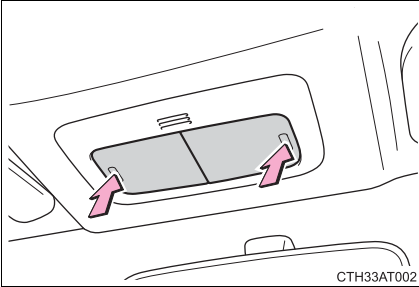
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

1 マップランプ＆フロントルームランプ（パノラミックガラスルーフ装着車）・マップランプ（パノラミックガラスルーフ装着車以外）（→P. 185）

2 ルームランプ（→P. 186）

3 プッシュエンジンスイッチ照明（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

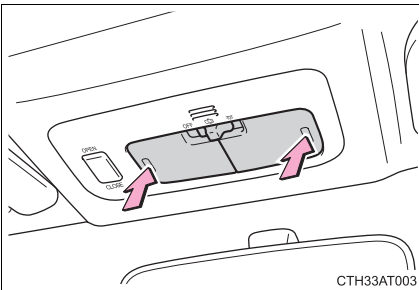
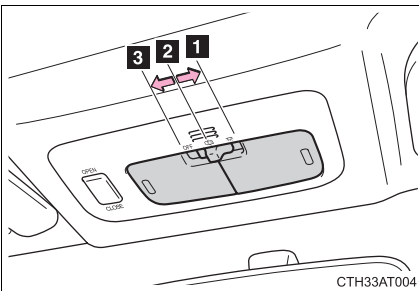
マップランプ（パノラミックガラスルーフ装着車以外）

CTH33AT002

ランプを点灯・消灯する

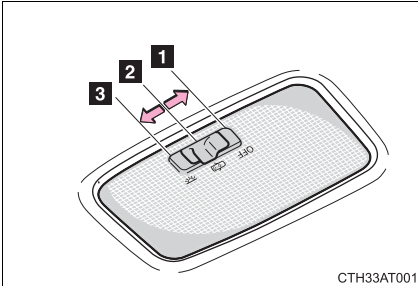
マップランプ＆フロントルームランプ（パノラミックガラスルーフ装着車）

CTH33AT003

ランプを点灯・消灯する

CTH33AT004

1 ランプを点灯する
2 ドアポジション（ドア連動）をON にする
3 ランプを消灯する

3
室内装備の使い方

ルームランプ

1 ランプを消灯する

2 ドアポジション（ドア連動）をON にする

3 ランプを点灯する

知識

■イルミネーションシステム

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

アクセスキーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・プッシュエンジンスイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリー上がりを防ぐために

半ドア状態で以下のランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

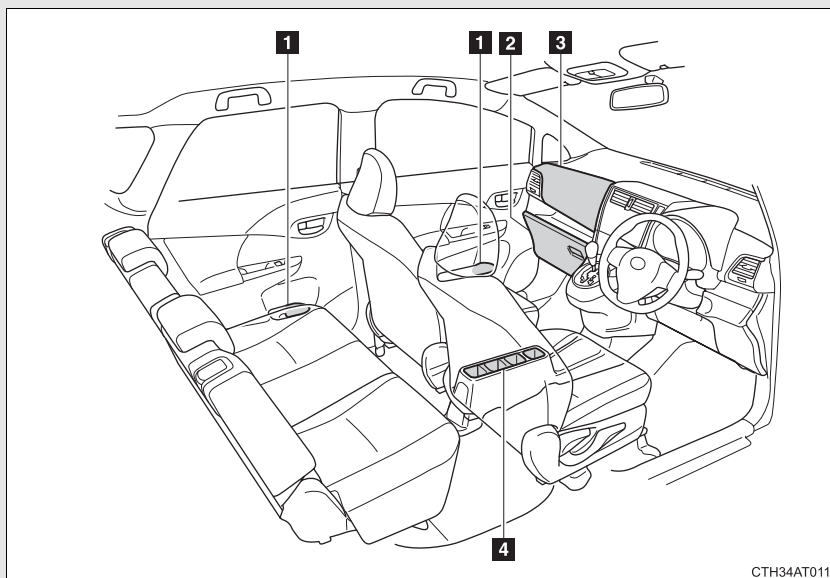
●マップランプ＆フロントルームランプ（スイッチがドアポジションのとき）

●ルームランプ（スイッチがドアポジションのとき）

●プッシュエンジンスイッチ照明

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 325）

収納装備一覧

1 ボトルホルダー
2 グローブボックス
3 インパネアッパーボックス（助手席）
4 カップホルダー

⚠ 警告

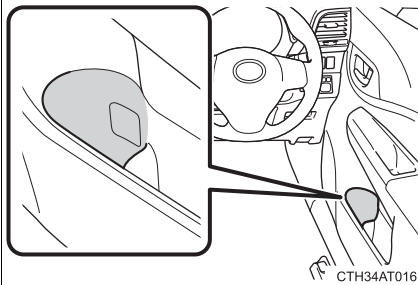
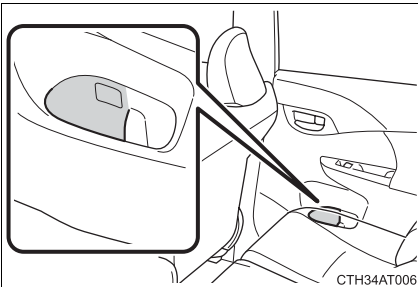
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

ボトルホルダー

フロント

リヤ

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■収納してはいけないもの

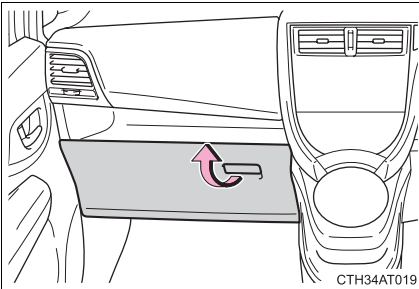
ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

■収納してはいけないもの

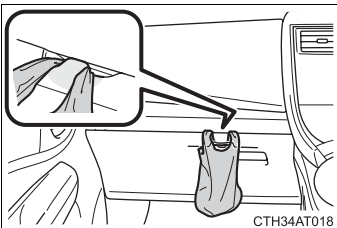
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

グローブボックス

CTH34AT019

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

知識

■ショッピングフックを使用するときは

CTH34AT018

グローブボックスを閉じて使用する

警告

■**走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

■**ショッピングフック使用時の注意**

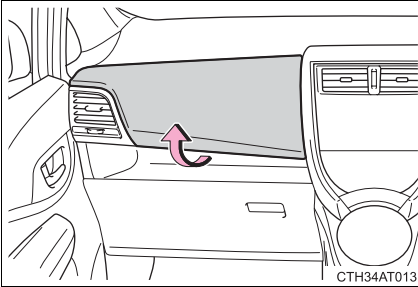
- グローブボックスは必ず閉じた状態で使用してください。急ブレーキ時などに、吊り下げていたものが落ちて、同乗者が思わぬけがをするおそれがあります。
- とくに重たい物や、大きな物をフックに吊り下げないでください。急ブレーキ時などに、吊り下げていたものに体が当たるなどして、同乗者が思わぬけがをするおそれがあります。

注意

■**ショッピングフックについて**

1kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。

インパネアッパーボックス（助手席）

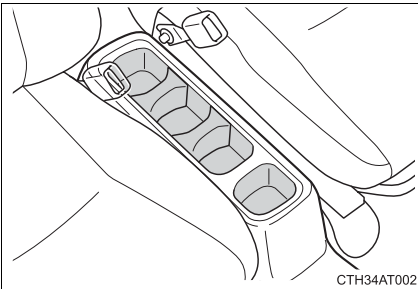
CTH34AT013

フタを持ち上げる

警告

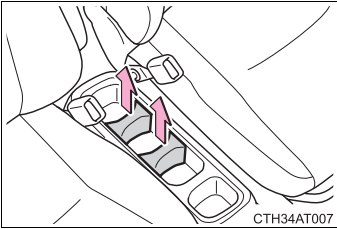
■走行中の警告

インパネアッパーボックス（助手席）を必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

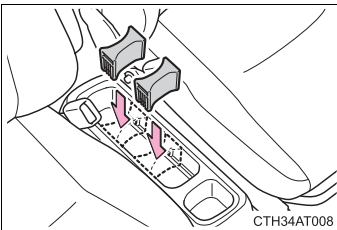
カップホルダー

CTH34AT002

知識

■カップホルダーを小物入れとして使う

CTH34AT007

ホルダーを取りはずす。

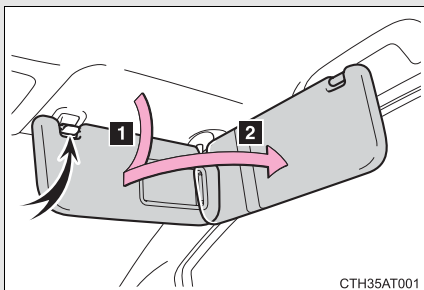
■カップホルダーの大きさを調整する

CTH34AT008

ホルダーを取りはずして位置を調整する。

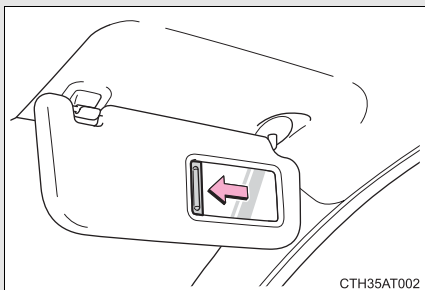
警告

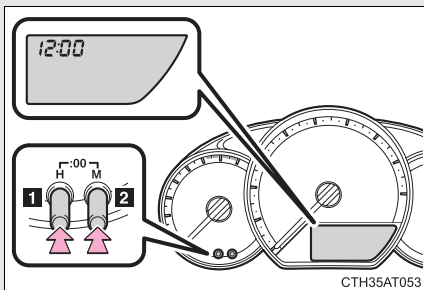
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

時計

1 “時”を調整する

2 “分”を調整する

正時合わせをする※には、2 個のボタンを同時に押し 1 秒以上保持する

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

知識

■時刻が表示されるとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが ON の時

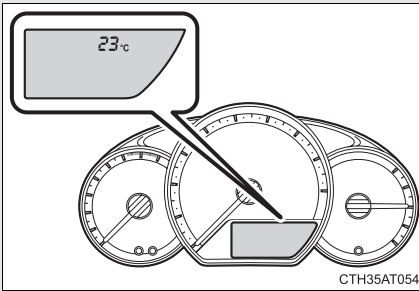
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

外気温度表示

-40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

知識

■外気温度が表示されるとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
エンジンスイッチが ON のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

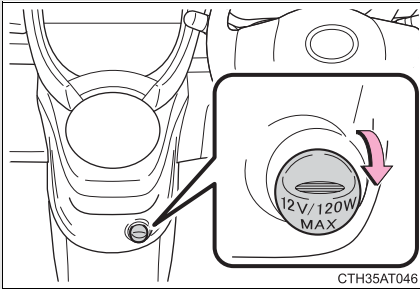
●停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■“– –”または“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

アクセサリーソケット

12 V 10 A（120W）未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
エンジンスイッチが ACC または ON のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
プッシュエンジンスイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

注意

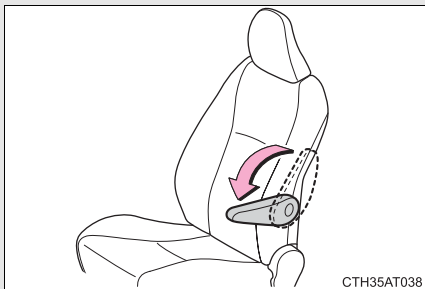
■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A（120W）をこえないようにしてください。

■バッテリー上がりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アームレスト*

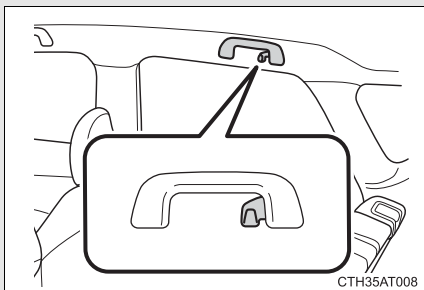
手前に倒して使用します。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

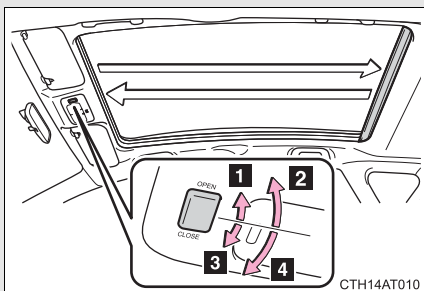
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コートフック

警告

■コートフックへかけてはいけないもの（SRS カーテンエアバッグ装着車）

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

パノラミックガラスルーフ電動サンシェード*

頭上のスイッチでパノラミックガラスルーフ電動サンシェードを開閉できます。

1 開ける

2 自動全開 (長押し) ※

3 閉める

4 自動全閉 (長押し) ※

※ : 途中で止めるには、スイッチをもう一度押します。

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが ON のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■電動サンシェード反転機能

パノラミックガラスルーフ電動サンシェードを閉めるときに、パノラミックガラスルーフ電動サンシェードが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■自動全開／自動全閉機能が働かない場合

手順 1 OPEN 側を押してパノラミックガラスルーフ電動サンシェードを開く

手順 2 パノラミックガラスルーフ電動サンシェードが全開位置まで開き、その後わずかに閉まる (閉じ方向に動く) まで、OPEN 側を押し続ける

操作後、自動全開／自動全閉機能が作動することを確認してください。

以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が働かない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

警告

■パノラミックガラスルーフ電動サンシェードを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● パノラミックガラスルーフ電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。

● お子さまには、パノラミックガラスルーフ電動サンシェードの操作をさせないでください。
パノラミックガラスルーフ電動サンシェードに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェード反転機能

● 電動サンシェード反転機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 電動サンシェード反転機能は、パノラミックガラスルーフ電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、電動サンシェード反転機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

■**やけどやけがを防ぐために**

●電動サンシェード反転機能が搭載されている場合であっても、パノラミックガラスルーフ電動サンシェードが閉まる間は手や顔が挟まれないように注意してください。また、完全に閉まる直前は電動サンシェード反転機能が作動しない場合があるので、電動サンシェードに指などが挟まれないように注意してください。

●パノラミックガラスルーフ電動サンシェードの開閉はスイッチを押すと停止することができます。

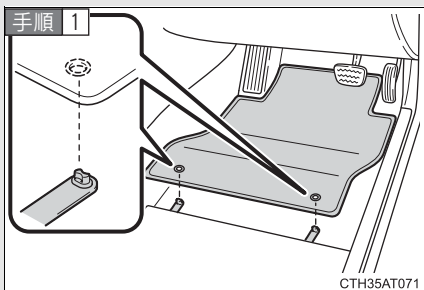
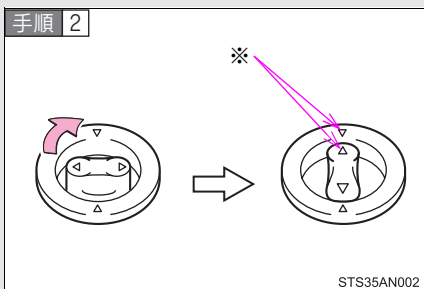
●パノラミックガラスルーフ電動サンシェードが閉じない場合(電動サンシェード反転機能の誤作動によってなど)は、スイッチを押し続けて電動サンシェードを閉じることができます。

●電動サンシェード反転機能は、異物がパノラミックガラスルーフ電動サンシェードに挟まった場合と同様に、周囲の状況や走行状況により負荷や衝撃があった場合に作動することがあります。

●車を直射日光の当たる場所に長時間駐車すると、ルーフの下側が熱くなります。やけどをするおそれがありますので、ルーフの下側とパノラミックガラスルーフ電動サンシェードの隙間には触れないでください。

●けがをするおそれがありますので、ルーフの下側とパノラミックガラスルーフ電動サンシェードの隙間には触れないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。

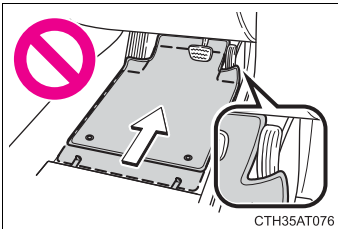
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

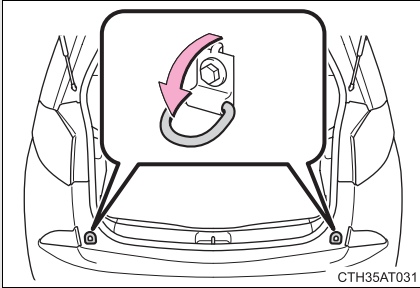
■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- スバル純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■**運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびセレクトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

カーゴルーム内装備

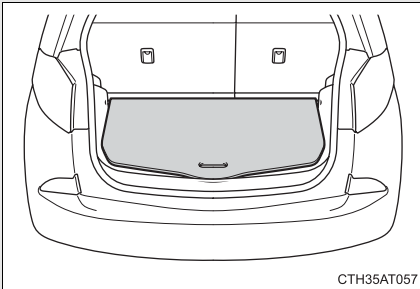
■ カーゴフック

CTH35AT031

フックを起こして使用してください。

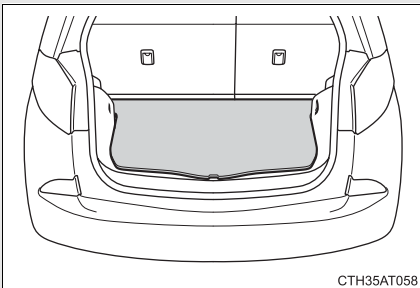
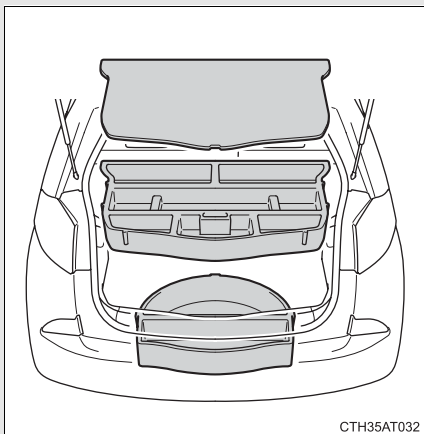
フックを使って荷物を固定することができます。

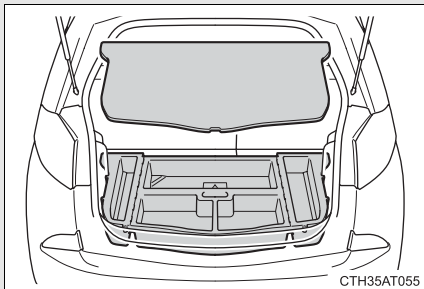
■ カーゴフロアのボード

タイプ A

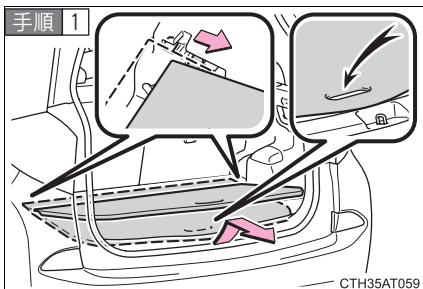
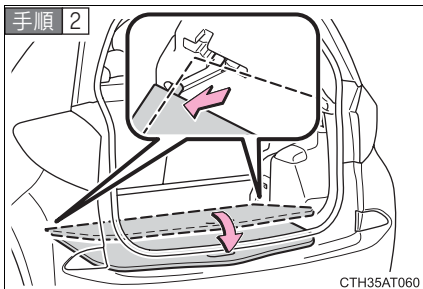
CTH35AT057

カーゴフロアのボードの高さを上下にかえることができます。(→P. 207)

タイプ B

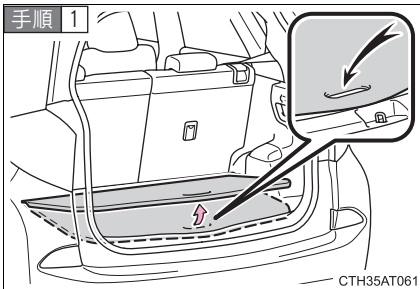
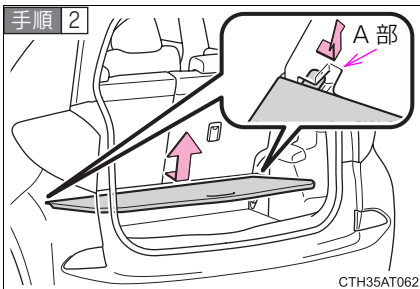
CTH35AT058

■ 荷室アンダーボックス*

タイプ A

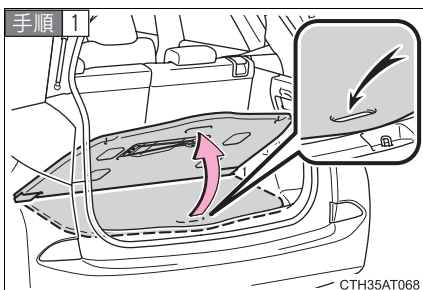
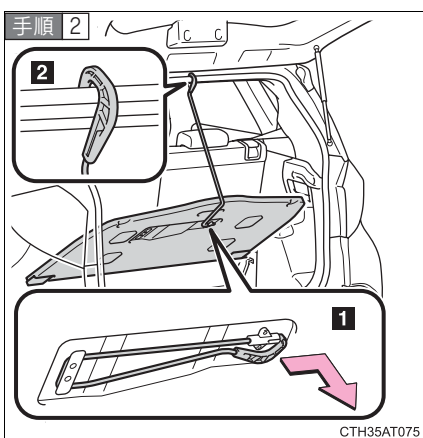
タイプ B

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カーゴフロアのボードの操作（タイプ A）

■ 下げるときは

カーゴフロアのボードを上に持ち上げ、手前に引き出す。

カーゴフロアのボードを溝に沿って下げ、手前に倒す。

■ **取りはずすときは**

カーゴフロアのボードを上段の位置にしてから取りはずしてください。カーゴフロアのボードが下段の位置にあるときは、取りはずすことができません。

カーゴフロアのボードを上に持ち上げる。

カーゴフロアのボードを図の A 部から持ち上げる。

カーゴフロアのボードの留め方について（タイプ A）

カーゴフロアのボードを持ち上げる

1 カーゴフロアのボード裏面のフックを取りはずす

2 フックをリヤゲート開口部の上端に引っかけて固定する

警告

■カーゴフロアのボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるけがをするおそれがあります。

■カーゴフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

■リヤゲートを閉めるときは

カーゴフロアのボードのフックをリヤゲート開口部にかけたままにしないでください。フックを挟み込み、車両が破損するおそれがあります。

お手入れのしかた 4

外装の手入れ

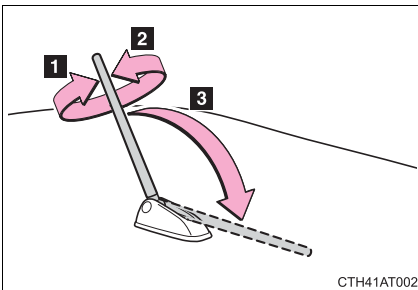
お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください。）

なお、ボディコート・ホイールコート・ガラスコートなどを施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはスバル販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

●洗車の前にフューエルリッド（燃料補給口）が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

■アルミホイール*

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

注意

■**アンテナの損傷を防ぐために**

次のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■**アンテナの取りはずしについて**

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 81)電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボディが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドゥガラスの内側を掃除するときは

●電熱線を損傷するおそれがあるため、ガラス洗浄剤などを使わず、電熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●電熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

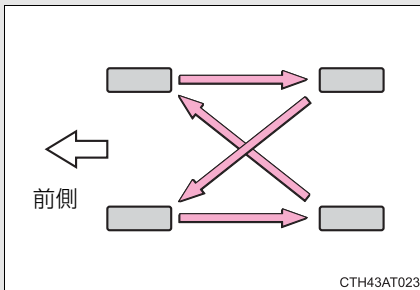
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

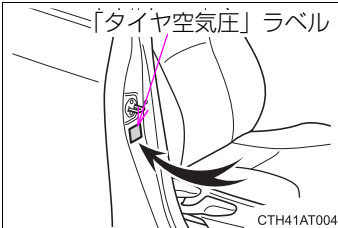
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、スバルは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm^2) ※

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm^2) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、スバル販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

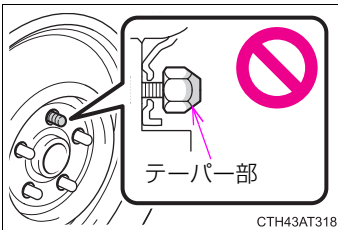
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
  オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

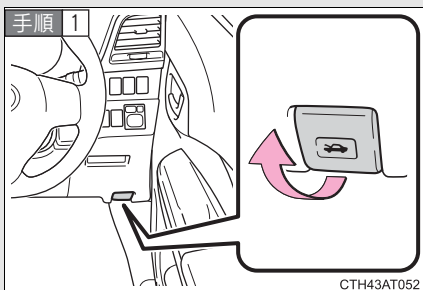
■走行中に空気もれが起こったら

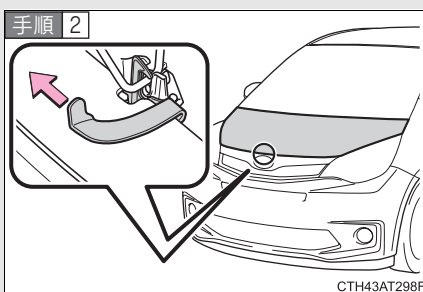
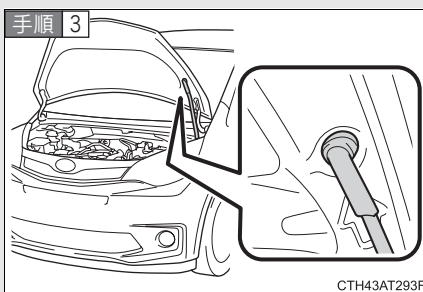
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮きあがります。

レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■**バッテリー端子をはずすときは**

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、スバル販売店にご相談ください。

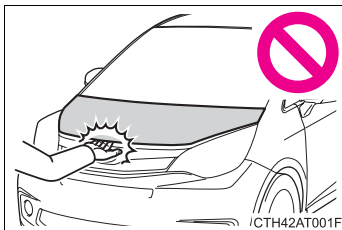
警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

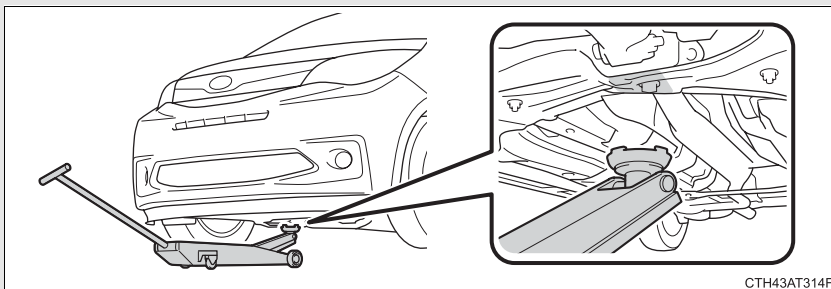
注意

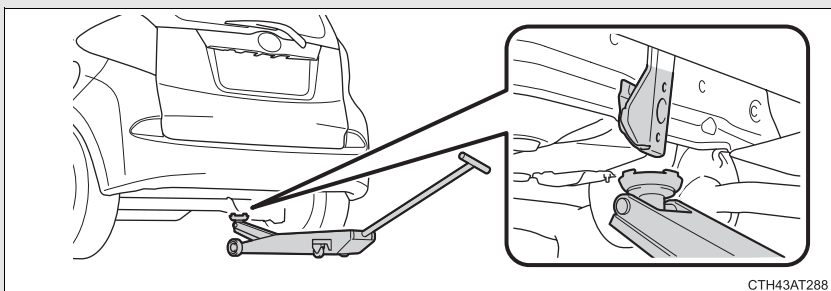
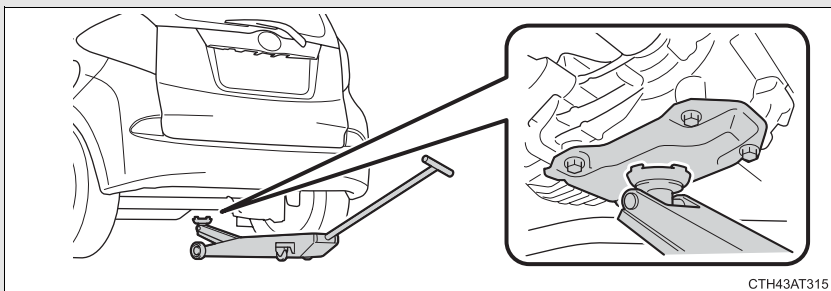
■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

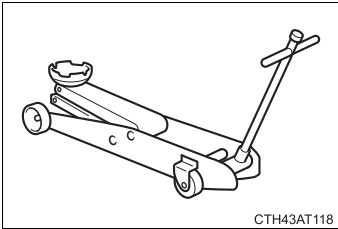
ガレージジャッキを使用して車両を持ちあげるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

FF 車（前輪駆動）

AWD 車（4 輪駆動）

警告

■**車両を持ちあげるときには**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

CTH43AT118

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ちあげる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーをＰにする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ちあげると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ちあげる前に

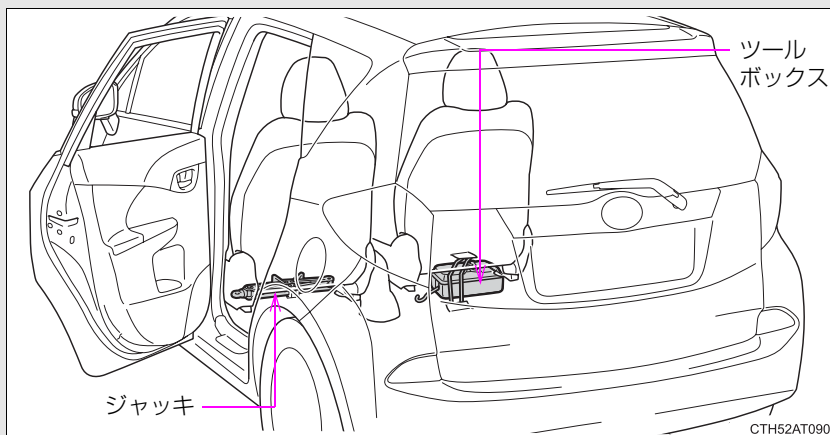
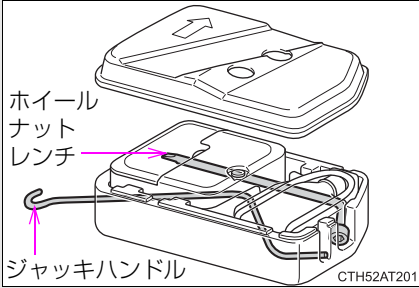
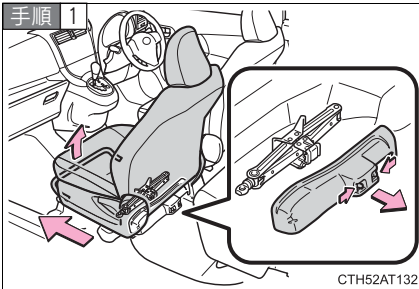
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- セレクトレバーをＰに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

■ ツールボックス

CTH52AT201

ジャッキの取り出し方

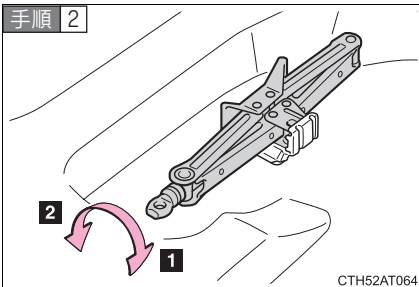
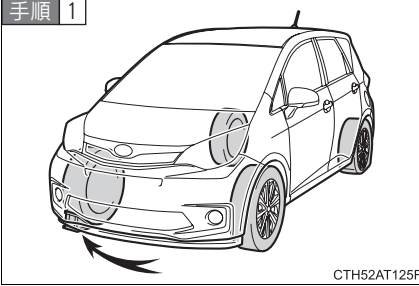
CTH52AT132

助手席を一番前まで移動させ、カバーをはずす。

CTH52AT064

1 締まる

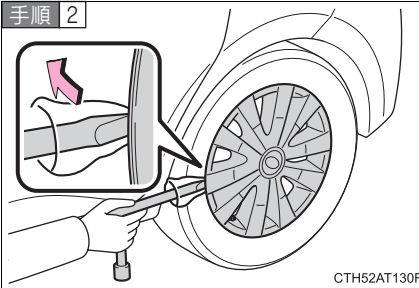
2 ゆるむ

タイヤの交換

CTH52AT125F

輪止め※をする

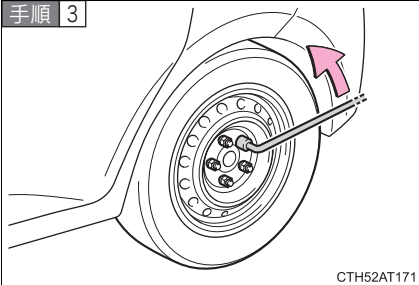
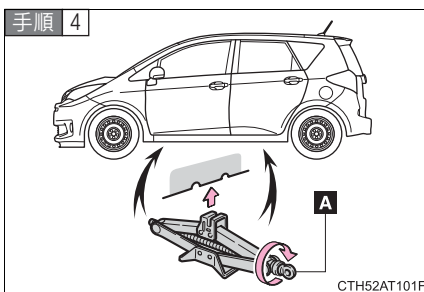
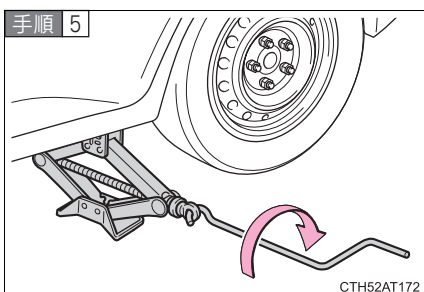
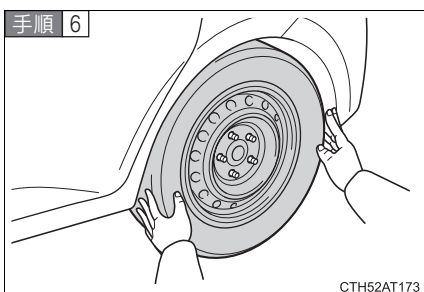
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

CTH52AT130F

ホイールキャップをはずす※

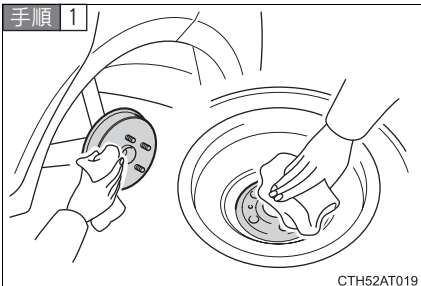
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

※ スチールホイールのみ

CTH52AT171

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にしてください。

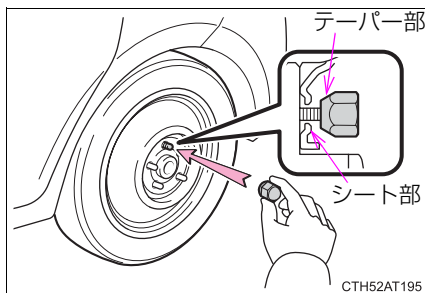
タイヤの取り付け

CTH52AT019

ホイール接触面の汚れをふき取る

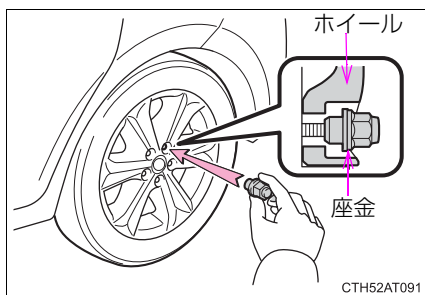
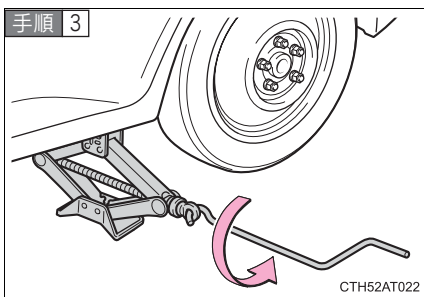
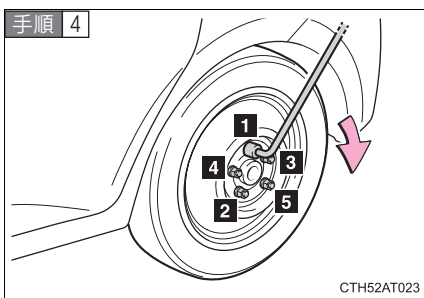
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールをかえるとき

CTH52AT195

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす

アルミホイールをかえるとき

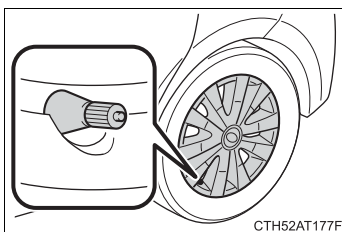
CTH52AT091

ナットの座金がホイールに軽く当たるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・交換したタイヤを収納する

知識

■ホイールキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないためほかの車に使ったり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
- タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スバル販売店で点検をうける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。
  （→P. 221）

上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や傷を負う事故につながるおそれがあります。

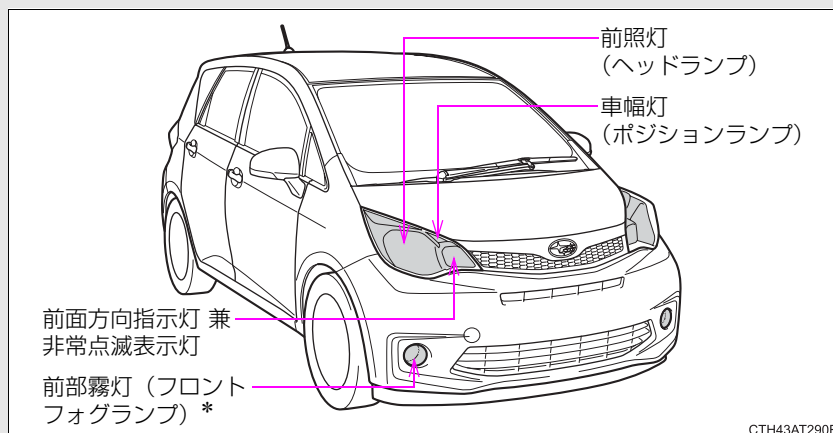
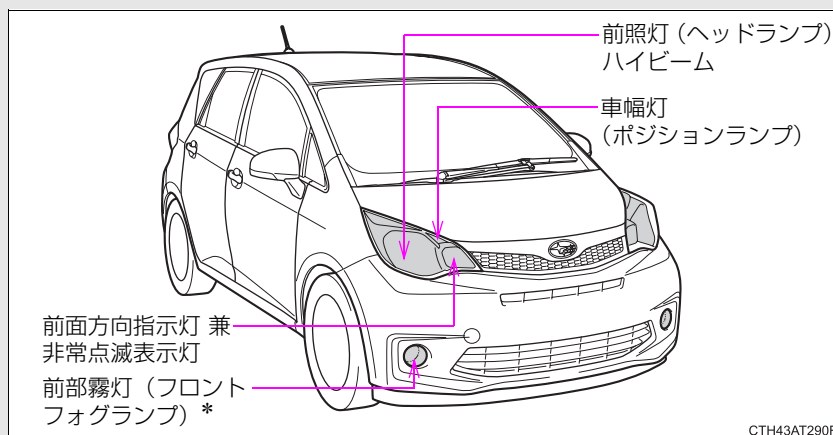
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、スバル販売店にご相談ください。

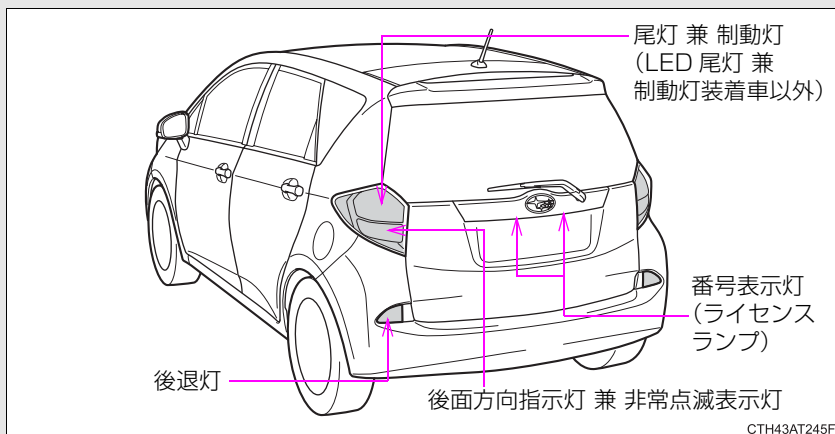
■ 電球の用意

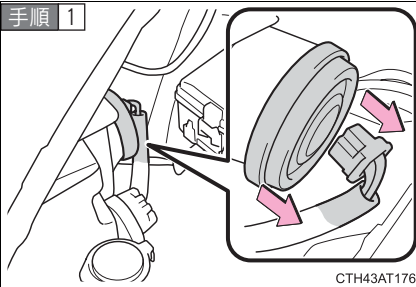
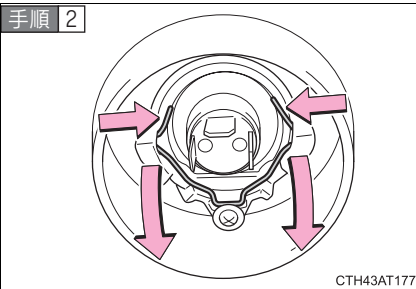
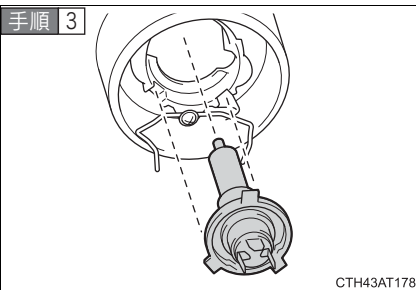
切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 323）

■ フロントのバルブ位置

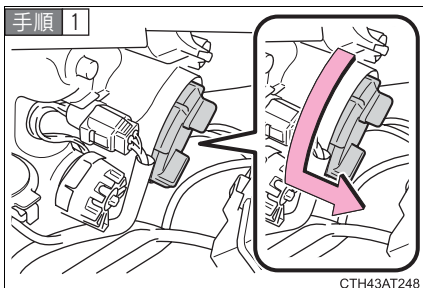
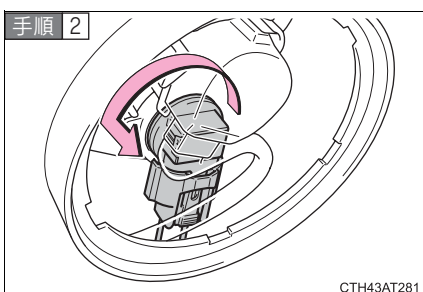
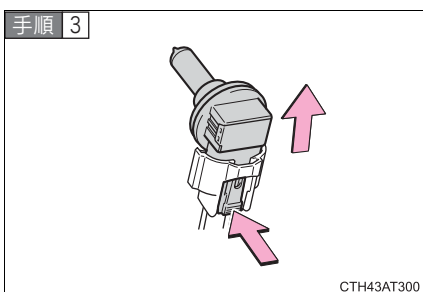
ハロゲンヘッドランプ装着車

HIDヘッドランプ装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

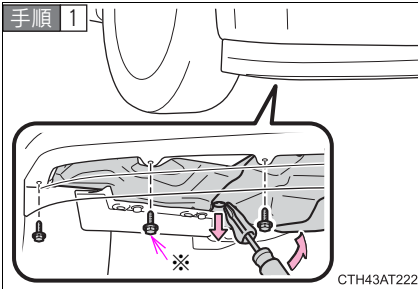
尾灯 兼 制動灯
（LED 尾灯 兼
制動灯装着車以外）
番号表示灯
（ライセンス
ランプ）
後退灯
後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯
CTH43AT245F

電球交換のしかた

■ 前照灯（ヘッドランプ）（ハロゲンヘッドランプ装着車）

コネクターとゴムカバーを取りはずす

留め金をはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 前照灯（ヘッドランプ）ハイビーム（HID ヘッドランプ装着車）

カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

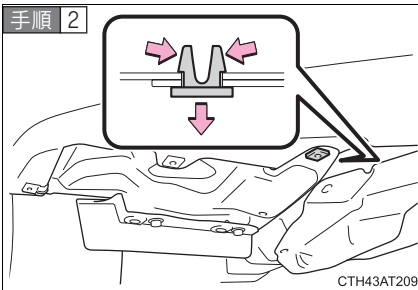
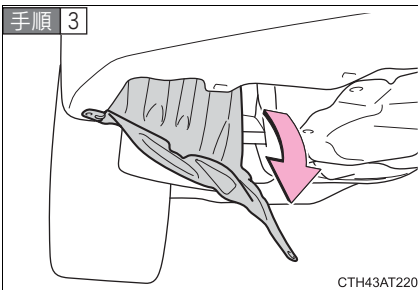
■ 前部霧灯（フロントフォグランプ）*

フロントスポイラー装着車以外

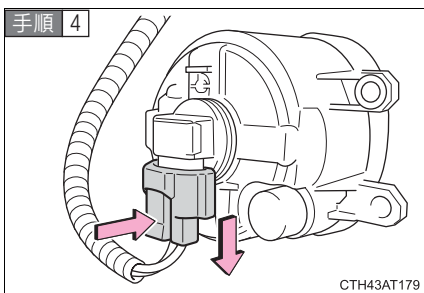
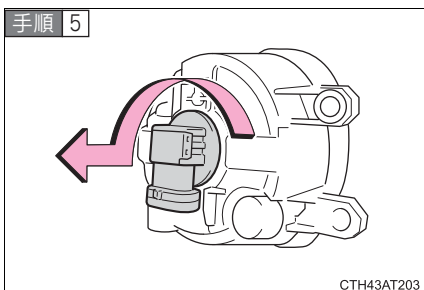
ボルト（2 本）とクリップ（1 本）を取りはずす

フロントスポイラー装着車

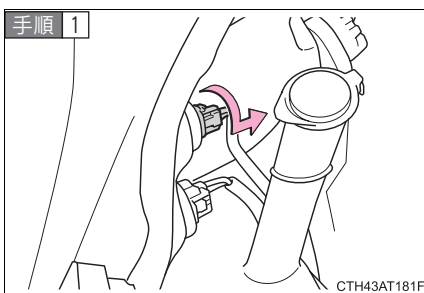
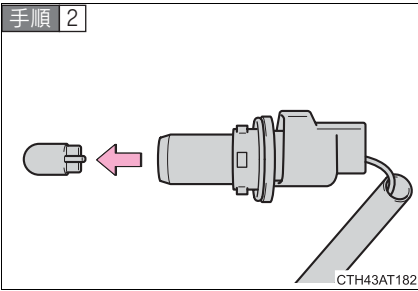
ボルト（3 本）とクリップ（1 本）を取りはずす

ボルトを外すとフロントスポイラーの片側がはずれます。

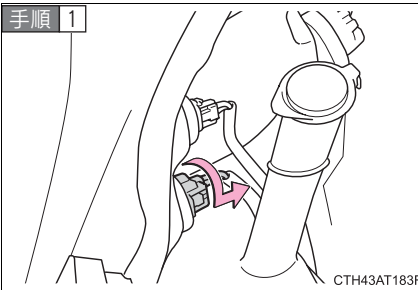
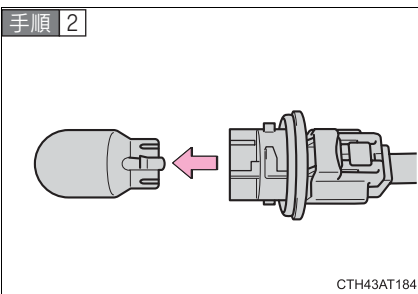
※フロントスポイラー装着車のみ

グロメットを取りはずす

マッドガードをめくる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

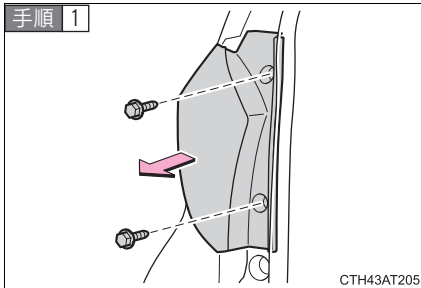
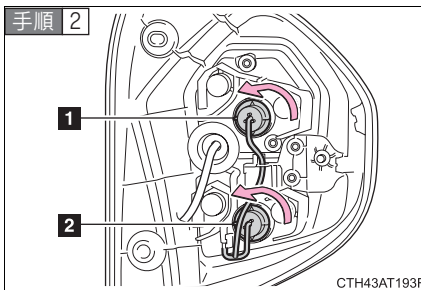
手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

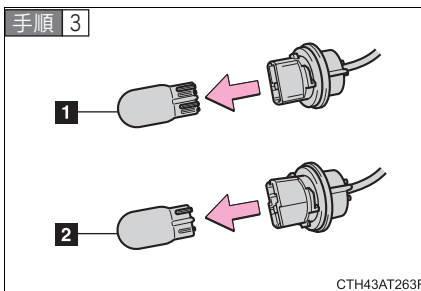
■ 車幅灯（ポジションランプ）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯**

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 尾灯 兼 制動灯（LED 尾灯 兼 制動灯装着車以外）、後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

リヤゲートを開け、ボルト（2 本）をはずし、ランプ本体をはずす

ソケットを取りはずす

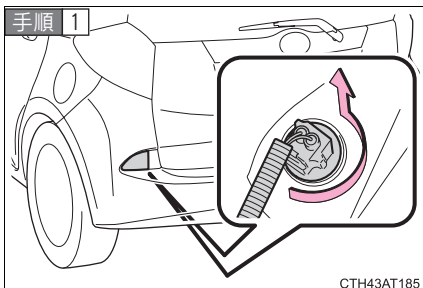
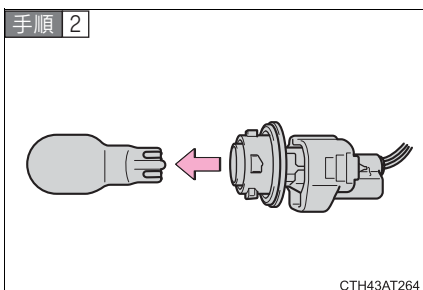
1 尾灯 兼 制動灯（LED 尾灯 兼 制動灯装着車以外）

2 後面方向指示灯　兼　非常点滅表示灯

電球を取りはずす

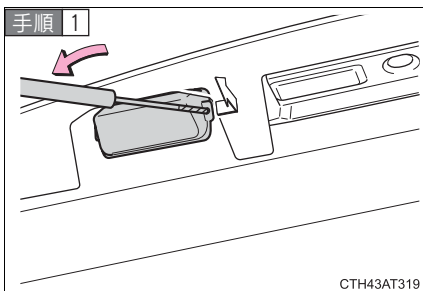
1 尾灯 兼 制動灯（LED 尾灯 兼 制動灯装着車以外）

2 後面方向指示灯　兼　非常点滅表示灯

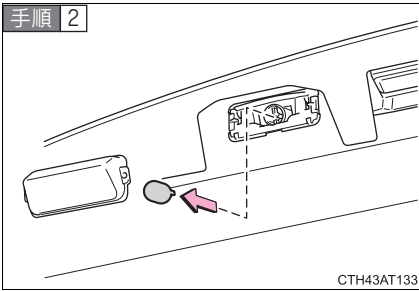
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号表示灯（ライセンスランプ）

カバーを取りはずす

小さいドライバーなどをカバーの穴にさしこみ図のようにこじると、カバーの片側がういてカバーが外れます。

傷が付くのを防ぐため、先端にビニールテープなどを巻いて保護してください。

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、スバル販売店で交換してください。

- 前照灯（ヘッドランプ）ロービーム（HID バルブ）
- 側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯
- 尾灯 兼 制動灯（LED 尾灯 兼 制動灯装着車）
- ハイマウントストップランプ

知識

■HID ヘッドランプ*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ランプについて

尾灯 兼 制動灯（LED 尾灯 兼 制動灯装着車）・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、スバル販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、スバル販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■電球（バルブ）を交換するときは

→P. 253

警告

■電球を交換するときは

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■HID ヘッドランプ*について

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずスバル販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

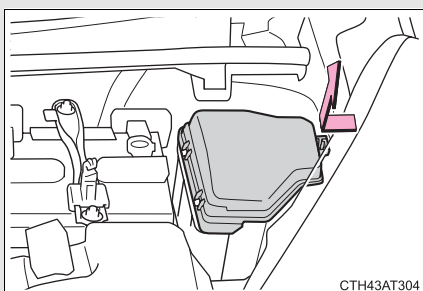
ヒューズの点検、交換

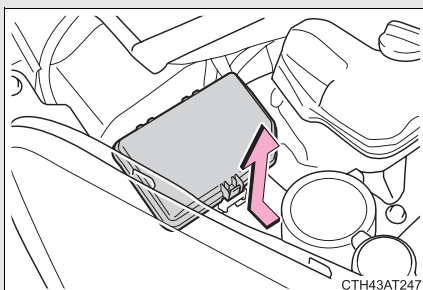
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 **キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外**
エンジンスイッチを“LOCK”にする。

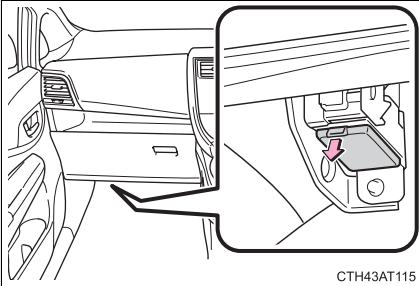
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
プッシュエンジンスイッチを OFF にする。

手順 2 ヒューズボックスを開ける。

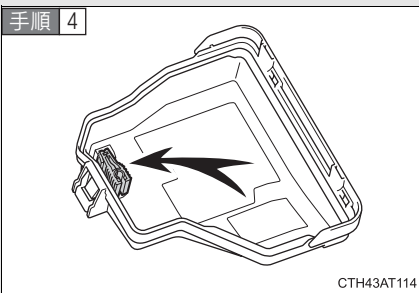
エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押しながら、カバーを持ちあげる

エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ツメを押しながら、カバーを持ちあげる

助手席足元

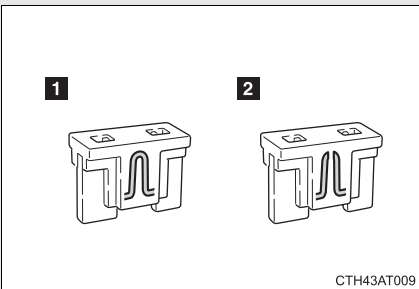
CTH43AT115

カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 248)で確認する。

CTH43AT114

ヒューズプラーでヒューズを引き抜く。

ヒューズプラーは、ヒューズボックスAのカバーの裏側にあります。

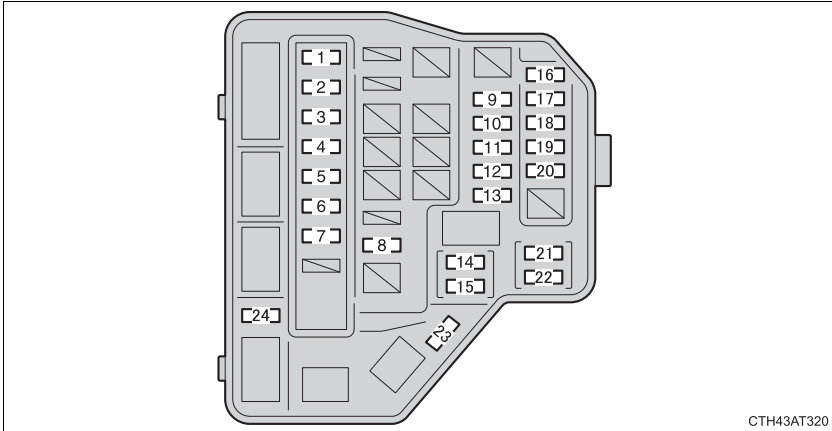
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する。

CTH43AT009

1 正常

2 ヒューズ切れ

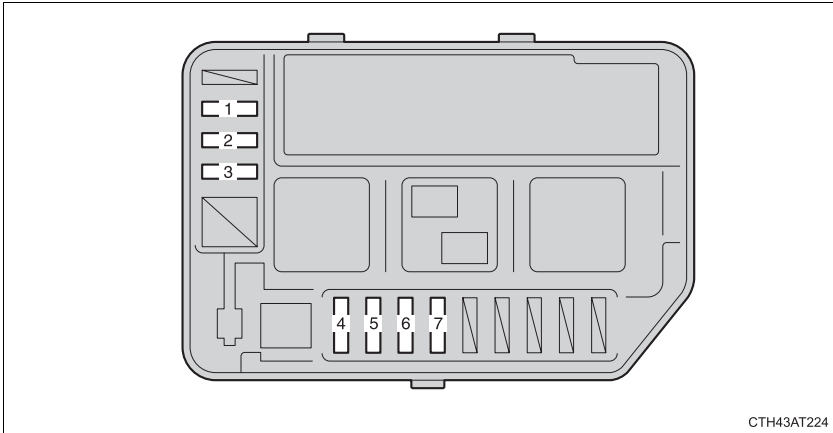
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

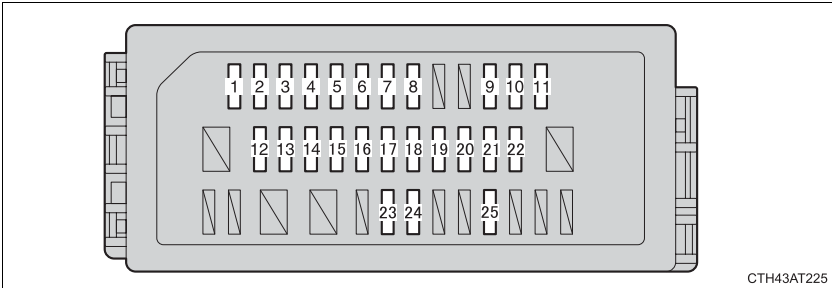
エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI ※ MAIN	20 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
2	EFI ※ NO.3	7.5 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
3	HORN	10 A	ホーン
4	EFI ※ NO.2	10 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
5	IG2	10 A	キーレスアクセス＆プッシュスタート、EGI（電子制御燃料噴射装置）システム、SRS エアバッグシステム、ステアリングロック、制動灯
6	IGN	15 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
7	MET	7.5 A	メーター
8	SPARE	10 A	予備ヒューズ
9	ST	30 A	始動系
10	AMP	15 A	—

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	D/L NO.2	25 A	—
12	D.C.C.	30 A	DOME、ECU-B NO.1
13	STR LOCK	20 A	ステアリングロック
14	ECU-B NO.1	5 A	メインボディ ECU、キーレスアクセス＆プッシュスタート
15	DOME	15 A	室内灯、VDC
16	ETCS	10 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
17	HAZ	10 A	方向指示灯
18	AM2	7.5 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム、キーレスアクセス＆プッシュスタート、始動系
19	ECU-B NO.2	5 A	メーター、キーレスアクセス＆プッシュスタート、ワイヤレスリモコン、エアコン
20	ALT-S	7.5 A	—
21	SPARE	20 A	予備ヒューズ
22	SPARE	30 A	予備ヒューズ
23	MIR-HTR	10 A	—
24	ID/UP	7.5 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム

※：「EFI」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

エンジンルーム（ヒューズボックス B）

<table>
<tr><th colspan="2">ヒューズ名称</th><th>アンペア数</th><th>ヒューズの受け持つ主な装置名称</th></tr>
<tr><td>1</td><td>EU-DRL</td><td>15 A</td><td>—</td></tr>
<tr><td>2</td><td>S-HORN</td><td>10 A</td><td>—</td></tr>
<tr><td>3</td><td>H-LP MAIN</td><td>7.5 A</td><td>ヘッドランプ、自動光軸調整システム</td></tr>
<tr><td>4</td><td>H-LP RH HI</td><td>10 A</td><td>右側ヘッドランプ（ハイビーム）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>H-LP LH HI</td><td>10 A</td><td>左側ヘッドランプ（ハイビーム）、メーター</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">H-LP RH LO</td><td>10 A ※ 1</td><td rowspan="2">右側ヘッドランプ（ロービーム）</td></tr>
<tr><td>15 A ※ 2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7</td><td rowspan="2">H-LP LH LO</td><td>10 A ※ 1</td><td>左側ヘッドランプ（ロービーム）、光軸調整ダイヤル</td></tr>
<tr><td>15 A ※ 2</td><td>左側ヘッドランプ（ロービーム）</td></tr>
</table>

※ 1：HID ヘッドランプ装着車以外
※ 2：HID ヘッドランプ装着車

助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL NO.2	10 A	車幅灯、尾灯、番号表示灯、フォグランプ、EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
2	PANEL	5 A	スイッチ照明、メーター照明
3	DOOR R/R	20 A	パワーウインドゥ
4	DOOR P	20 A	パワーウインドゥ
5	ECU-IG NO.1	5 A	冷却ファン、リヤウインドゥデフォッガー、エレクトリックパワーステアリング、メインボディ ECU、VDC
6	ECU-IG NO.2	5 A	ABS、VDC、自動光軸調整システム
7	A/C	7.5 A	エアコン、リヤウインドゥデフォッガー、フロントワイパーデアイサー、PTC ヒーター
8	GAUGE	10 A	後退灯、電子制御 AWD システム、シフトロックシステム、オートマチックトランスミッション、パノラミックガラスルーフ電動サンシェード、EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
9	WASHER	15 A	ウォッシャー
10	WIPER	20 A	フロントワイパー
11	WIPER RR	15 A	リヤワイパー
12	DOOR R/L	20 A	パワーウインドゥ
13	DOOR	20 A	パワーウインドゥ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	CIG	15 A	アクセサリーソケット
15	ACC	5 A	メインボディ ECU、ドアミラー、シフトロックシステム
16	D/L	25 A	集中ドアロックシステム
17	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
18	TAIL	20 A	車幅灯、尾灯 兼 制動灯、番号表示灯、フォグランプ、EGI（電子制御燃料噴射装置）システム
19	FOG RR	7.5 A	—
20	STOP	7.5 A	EGI（電子制御燃料噴射装置）システム、キーレスアクセス＆プッシュスタート、ABS、VDC、制動灯、ハイマウントストップランプ、シフトロックシステム
21	AM1	7.5 A	始動系
22	FOG FR	15 A	フォグランプ、メーター
23	SHADE	25 A	パノラミックガラスルーフ電動サンシェード
24	4WD	7.5 A	電子制御 AWD システム
25	S-HTR/ WELCAB ※	10 A	—

※：「WELCAB」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

知識

■ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 235)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球(バルブ)を交換するときは

この車両に指定されているスバル純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のスバル純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずスバル純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、スバル販売店で点検を受けてください。

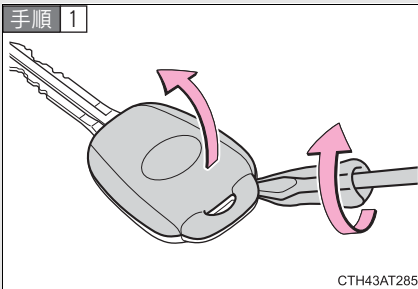
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

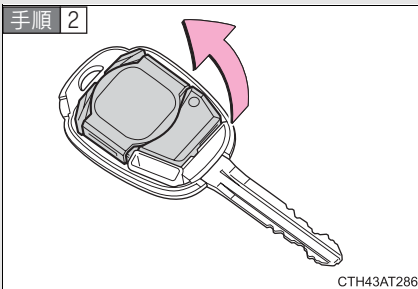
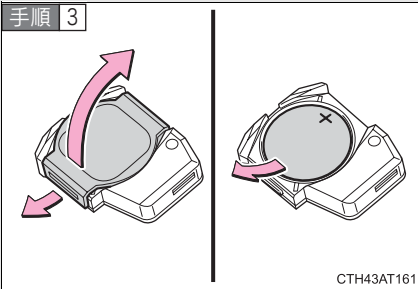
- ● マイナスドライバー
- ● リチウム電池
  ・CR2016（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）
  ・CR1632（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

■ 電池交換のしかた（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）

CTH43AT285

カバーをはずす

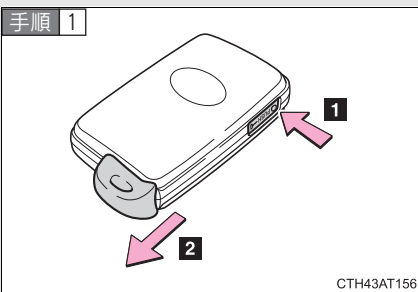
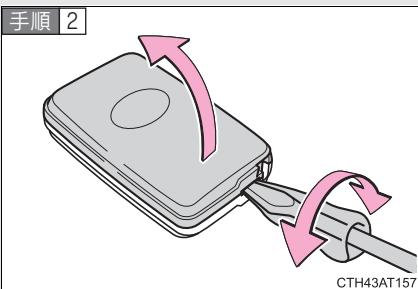
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

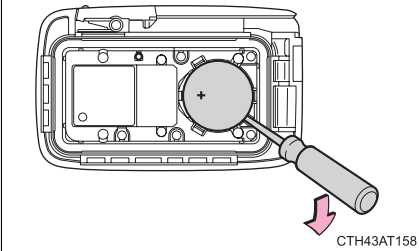
ボタンがはずれないように、ボタン面を下にしてください。

CTH43AT286

モジュールを取り出す

モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2016（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）、CR1632（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）の入手

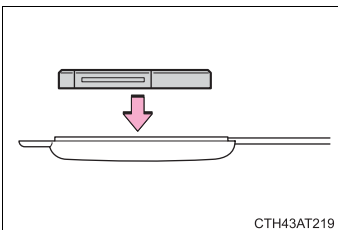
電池はスバル販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●キーレスアクセス＆プッシュスタート（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■モジュールをもどすときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）

モジュールをもどすときは、真上から置いてください。横から滑らすように置くと、キーボタン作動が正常に働かないことがあります。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

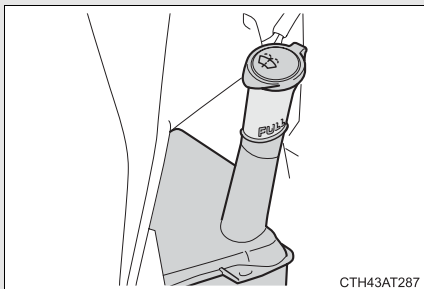
注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
　錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面がFULLの位置より下にあるときウォッシャー液を補給する

警告

■ **ウォッシャー液を補給するときは**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

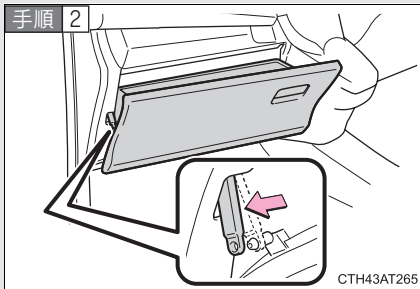
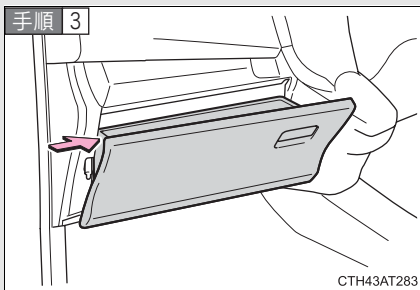
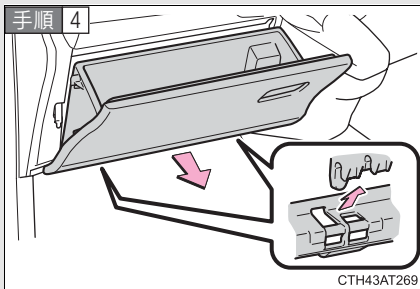
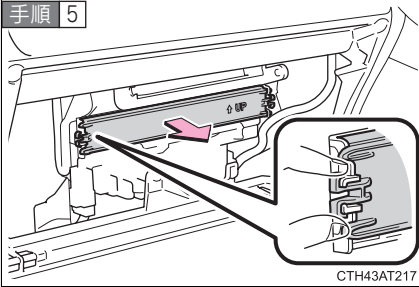
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 **キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外**

エンジンスイッチを“LOCK”にする。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチを OFF にする。

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

グローブボックス車両外側面を内側に押して上部のツメをはずす

グローブボックス下部のツメをはずして取りはずす

手順 5 フィルターカバーを取りはずす

手順 6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

20000km [10000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

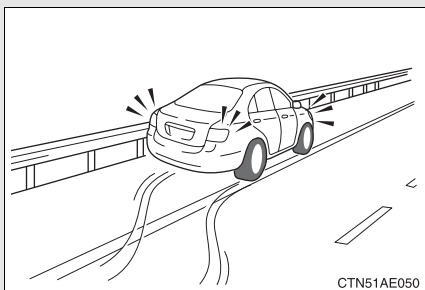
トラブルが起きたら 5

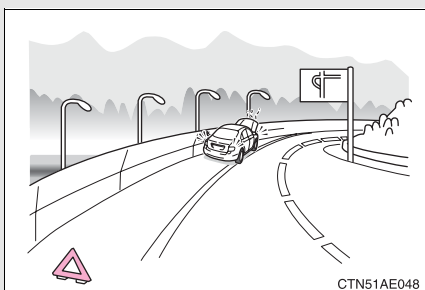
5-1. まず初めに

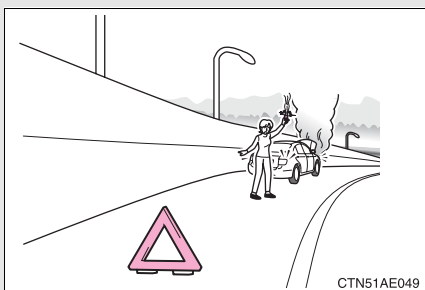
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

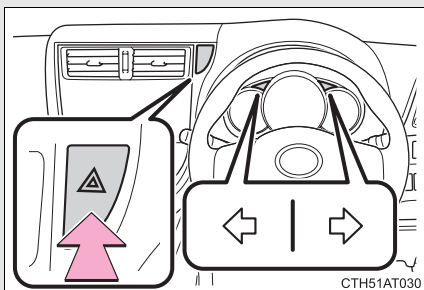
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。（→P. 263）
非常点滅灯（ハザードランプ）は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています。）

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。（→P. 264）

非常点滅灯（ハザードランプ）

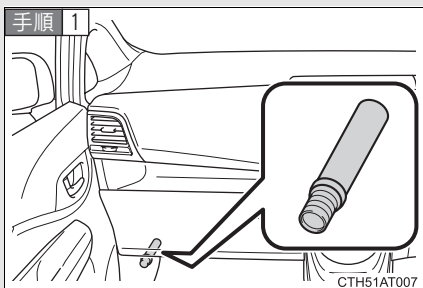
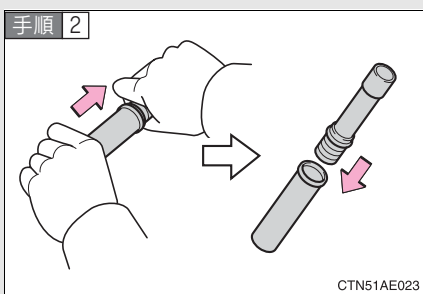
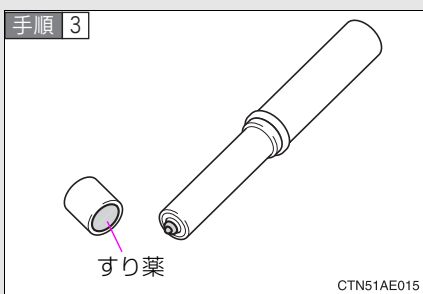
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリー上がりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯（ハザードランプ）を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯（ハザードランプ）と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

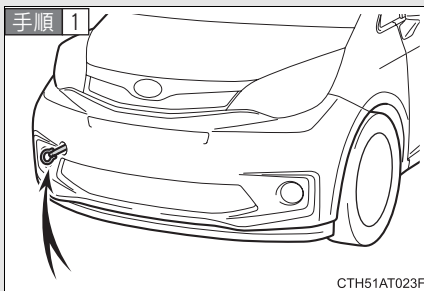
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

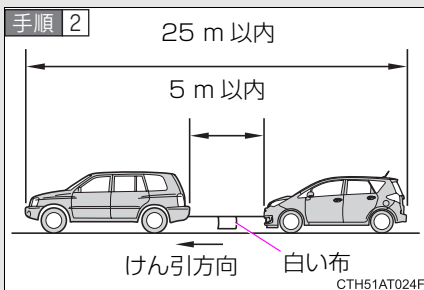
けん引について

けん引は、できるだけスバル販売店または専門業者に依頼ください。

■ けん引されるときは

手順 1

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしてください。
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：
エンジンがかからないときは、プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のセレクトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

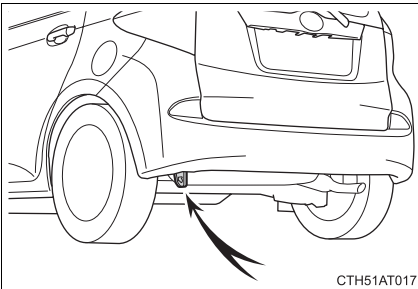
けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

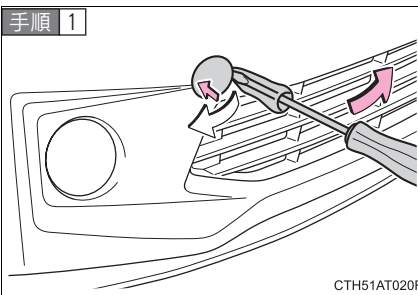
けん引する前に

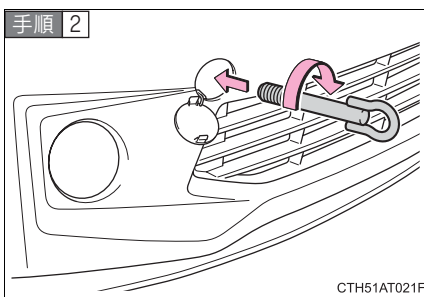
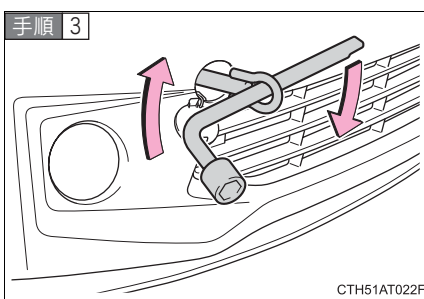
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、スバル販売店へご連絡ください。

● エンジンはかかるが車が動かない

● 異常な音がする

緊急時のけん引

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方

フタの左側を押しながらマイナスドライバーを挿し込みフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿しこみ軽くしめる

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

けん引フックはツールボックス内に収納されています。(→P. 227)

警告

■**車両を運搬するときは（AWD 車）**

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず 4 輪を持ちあげて運搬してください。

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

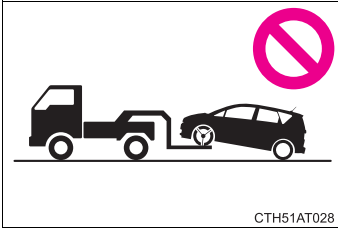
●キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチを OFF にしないでください。
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなったりします。

■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**AWD（4 輪駆動）車をけん引するときは**

4 輪とも持ちあげた状態で運搬してください。前輪または後輪だけ持ちあげたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。

■**車両の損傷を防ぐために**

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジンが止まってしまったときおよび SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

手順 1 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする

手順 2 エンジンを再始動する

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

手順 1 プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■ **エンジンを始動する前に**

燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

スバルおよびスバルが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、スバル販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	チャージ警告灯 充電系統の異常
	オイルプレッシャー警告灯 エンジンオイルの圧力異常
（点滅・点灯）	**高水温警告灯** ガソリンエンジン冷却水高温異常（→P. 309）

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常（VDC 装着車）
	ステアリング制御警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	VDC 作動表示灯＊ VDC システム、TRC※1 システムの異常
4WD	**AWD※2 警告灯＊** AWD システムの異常 （点滅したとき →P. 276）
	オートヘッドランプレベライザー警告灯＊ 自動光軸調整システムの異常
（点滅）	**クルーズコントロール表示灯＊** クルーズコントロールシステムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
（15 秒間黄色点滅）	**キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯＊** キーレスアクセス＆プッシュスタートの異常時に警告ブザーとともに 15 秒間黄色に点滅します。

※ 1 「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

※ 2 AWD は All Wheel Drive の略、4WD は 4 Wheel Drive の略、どちらも同じ 4 輪駆動の意味です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯(警告ブザー) ※1 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドア（リヤゲート含む）を閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 5.8 L 以下）	燃料を補給
	シートベルト警告灯(警告ブザー) ※2 運転席シートベルトの未着用	シートベルトを着用
4WD （点滅）	**AWD 警告灯*** 駆動系の発熱 （点灯のみのとき →P. 274）	スピードを落として低速走行するまたはエンジンをかけたまま停車する

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※2 **運転席シートベルト未着用警告ブザー：**
運転席シートベルト未着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。30 秒後も運転席シートベルト未着用のままだと、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	（黄色点滅）	**キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯＊** セレクトレバーが P 以外の状態で、プッシュエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・セレクトレバーを P にする ・アクセスキーを車内にもどす
1 回	3 回	（黄色点滅）	**キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯＊** セレクトレバーが P の状態で、プッシュエンジンスイッチを OFF にせずにアクセスキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	プッシュエンジンスイッチを OFF にするまたはアクセスキーを車内にもどす
			キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯＊ プッシュエンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者がアクセスキーを持ち出した	アクセスキーを車内にもどす

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	連続音（10秒間）	（黄色点滅）	**キーレスアクセス&プッシュスタートシステム表示灯＊** プッシュエンジンスイッチをOFFにせずに、アクセスキーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	プッシュエンジンスイッチをOFFにしたあと、再度施錠する
1回	—	（15秒間黄色点滅）	**キーレスアクセス&プッシュスタートシステム表示灯＊** アクセスキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	アクセスキーを携帯してエンジンを始動する
9回	—	（黄色点滅）	**キーレスアクセス&プッシュスタートシステム表示灯＊** 正規のアクセスキーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内にアクセスキーがあるか確認する
1回	—	（15秒間黄色点滅）	**キーレスアクセス&プッシュスタートシステム表示灯＊** アクセスキーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する（→P. 254）
1回	—	（15秒間緑色に早点滅）	**キーレスアクセス&プッシュスタートシステム表示灯＊** ステアリングロックが解除できなかった	ステアリングロックを解除する（→P. 116）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	—	(30 秒間黄色点滅)	**キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯*** ・メカニカルキーで解錠してプッシュエンジンスイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・プッシュエンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながらアクセスキーで、プッシュエンジンスイッチをふれる (→P. 301)

知識

■ステアリング制御警告灯／警告ブザーについて

電圧が低い、または低下した場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

警告

■ステアリング制御警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

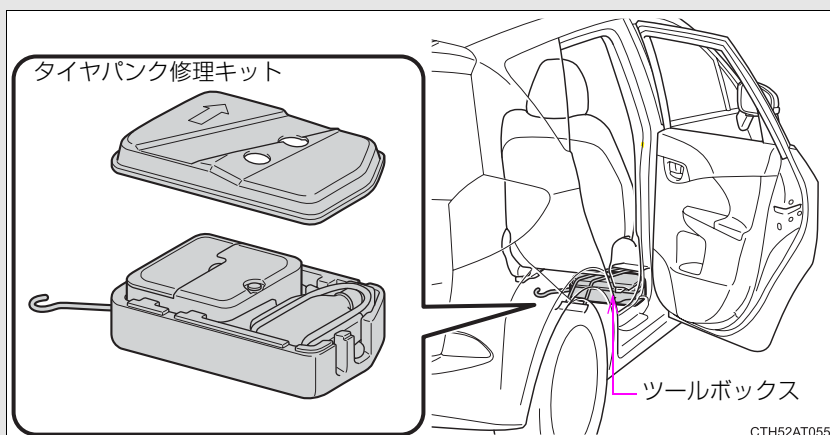
この車両にはスペアタイヤが搭載されていません。

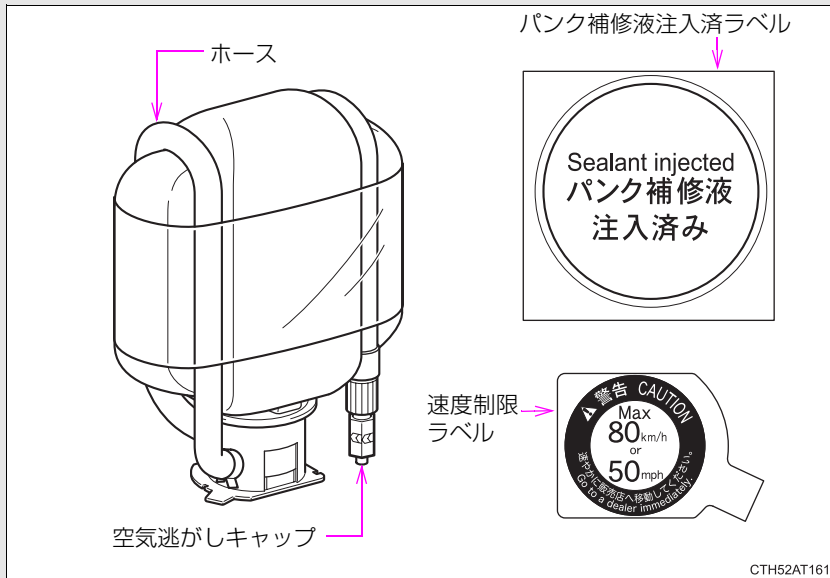
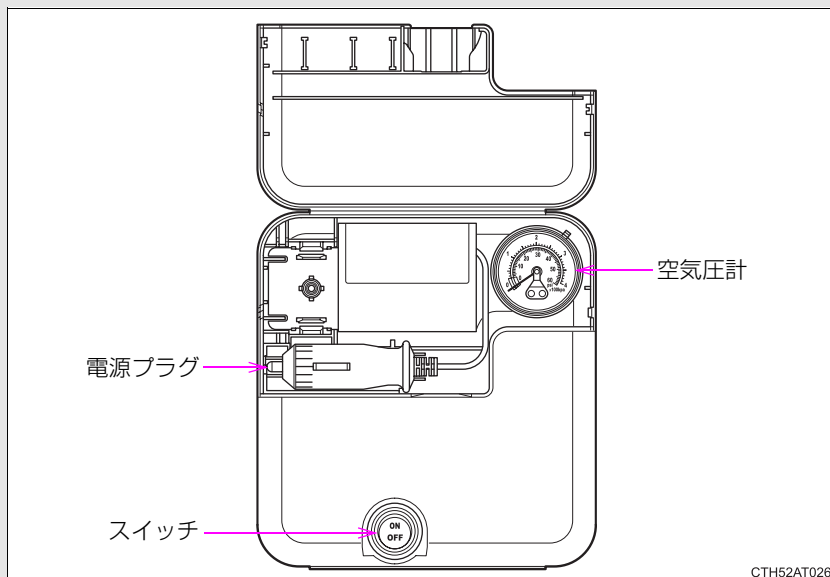
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 283）

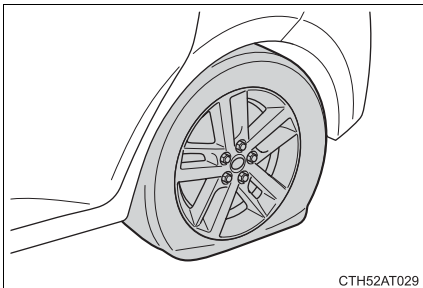
タイヤパンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、スバル販売店にご相談ください。タイヤパンク修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- セレクトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる

■ タイヤパンク修理キット位置

■ タイヤパンク修理キットの内容、各部名称

ボトル

コンプレッサー

応急修理する前に

CTH52AT029

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する

・タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。

・パンク補修液が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■以下のときは、タイヤパンク修理キットでは応急修理できません。スバル販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

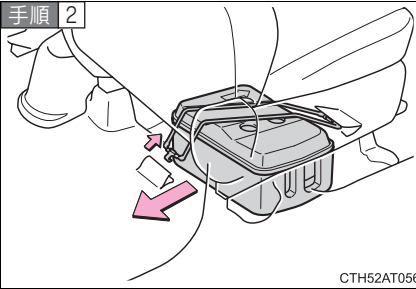
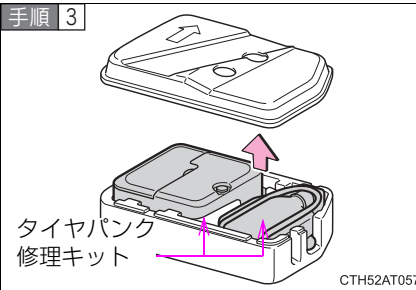
●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

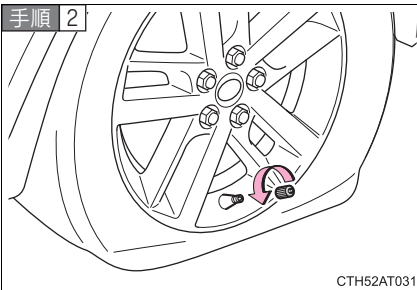
●補修液の有効期限がきれているとき

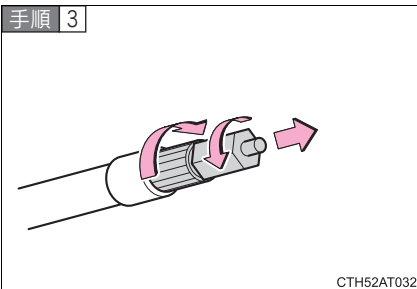
タイヤパンク修理キットの取り出し方

手順 1 右側のフロントシートを前へ移動させる（→P. 51）

留め具を取りはずしツールボックスを取り出す

タイヤパンク修理キットを取り出す

応急修理するときは

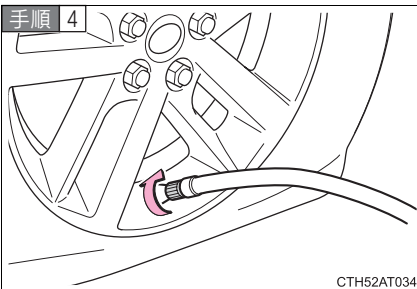
手順 1 タイヤパンク修理キットをツールボックスから取り出す

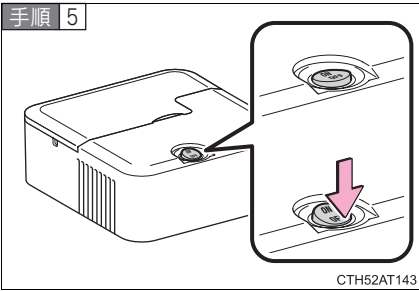
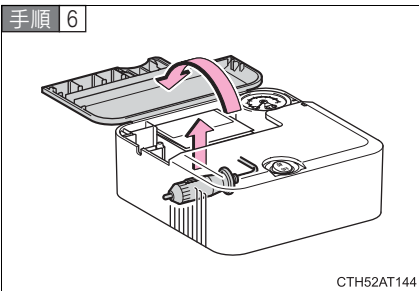
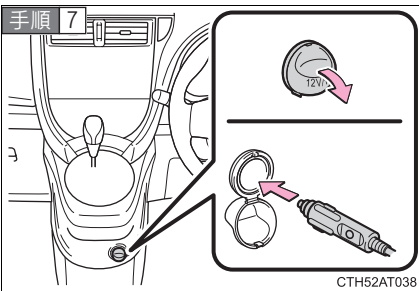
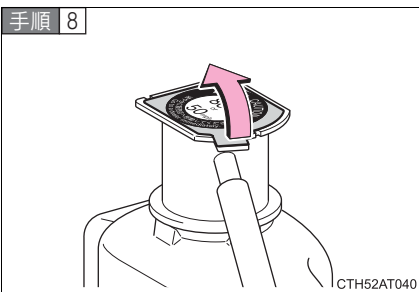
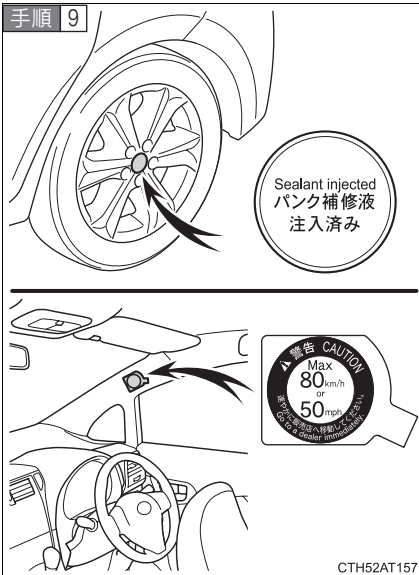
CTH52AT031

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

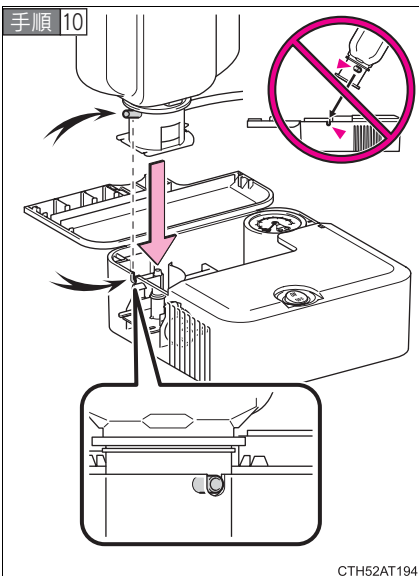
CTH52AT032

ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

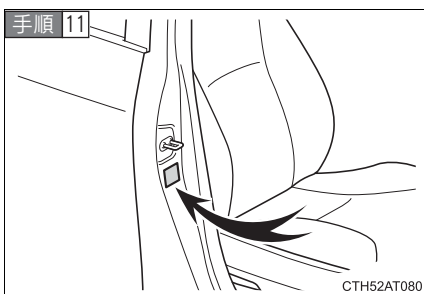
ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは所定の位置へ貼り付けます。(手順 9へ)

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

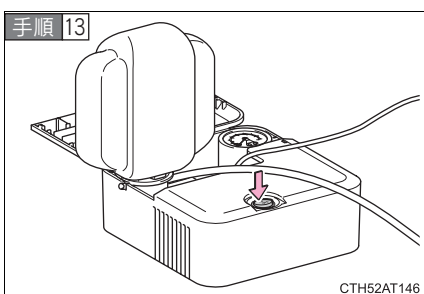
CTH52AT034

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

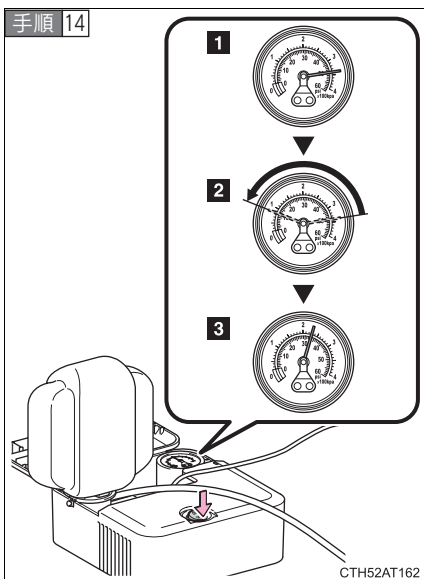
ホース先端を時計まわりに回してしっかりと最後までねじ込む。

コンプレッサーのスイッチが OFF である事を確認する

コンプレッサーの電源プラグをはずす

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込む(→P. 197)

速度制限ラベルをはがす

付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、スバル販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

ボトルをコンプレッサーに接続する

左の図のように、ボトルを真直ぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認する事ができます。(→P. 322)

手順 12 エンジンを始動する

コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

手順 14

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が急上昇する

2 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

3 指定空気圧になるまで充填する (→P. 322)

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認を繰り返してください。

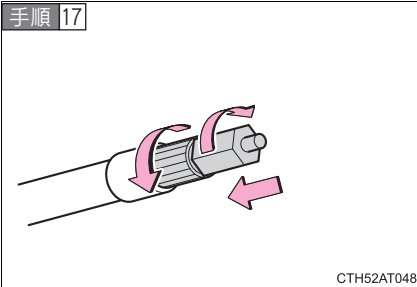
35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。スバル販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 292)

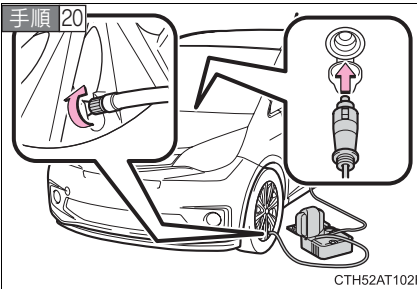
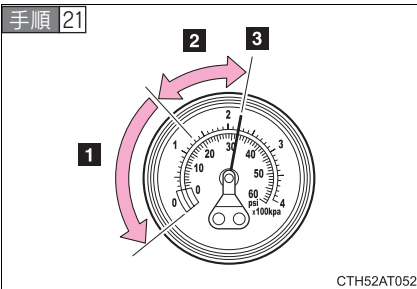
手順 15 コンプレッサーのスイッチが OFF である事を確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

手順16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

手順17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

手順18 一旦、ボトルとコンプレッサーを接続したままカーゴルームに収納する

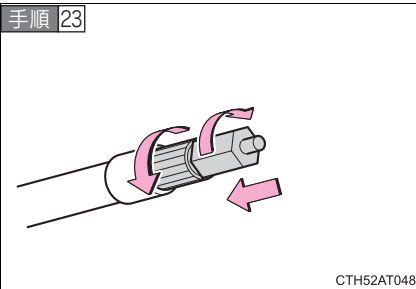
手順19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、直ちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

手順20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度タイヤパンク修理キットを接続する

手順21 コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

1 空気圧が 130 kpa 未満の場合：応急修理できません。スバル販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kpa 以上、指定空気圧未満の場合：手順22へ

3 空気圧が指定空気圧（→P. 322）の場合：手順23へ

手順 22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 20から実施する

手順 23

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

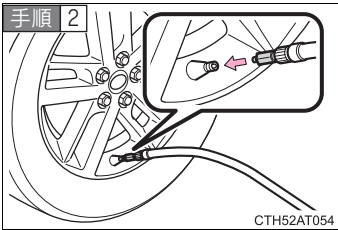
手順 24 ボトルとコンプレッサーを接続したままカーゴルームに収納する

手順 25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してスバル販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはスバル販売店にご相談ください。

知識

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■タイヤパンク修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限がきれたパンク修理液は使用しないでください。タイヤパンク修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■タイヤパンク修理キットについて

●タイヤパンク修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限がきれる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはスバル販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、スバル販売店にご相談ください。コンプレッサーは、繰返し使用できます。

●外気温度が -30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●タイヤパンク修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボディに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。

●タイヤパンク修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態でタイヤパンク修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■タイヤパンク修理キットについて

●タイヤパンク修理キットは右側のフロントシートの下に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤパンク修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させる

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

警告

●パンク補修液注入中にボトルのホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順通りに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるのでタイヤパンク修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。

●タイヤパンク修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●タイヤパンク修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分はとくに熱くなるので触れないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。 取り除いてしまうと、タイヤパンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●タイヤパンク修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。

■タイヤパンク修理キットについて

●タイヤパンク修理キットはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。

●タイヤパンク修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●タイヤパンク修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

●タイヤパンク修理キットは右側のフロントシートの下に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

●分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 112, 119）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 112, 119）に従って、エンジンをかけてください。
- イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）*に異常がある可能性があります。（→P. 77）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリー上がりの可能性があります。（→P. 303）
- バッテリー端子がゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 298）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリー端子がはずれている可能性があります。
- バッテリー上がりの可能性があります。(→P. 303)
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、スバル販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 セレクトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んでプッシュエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

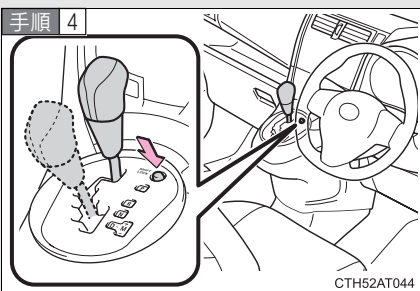
セレクトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でセレクトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（セレクトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でセレクトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチを“ACC”にする
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック固定解除ボタンを押す

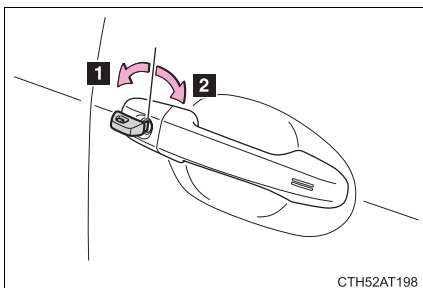
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、スバル販売店でスバル純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

アクセスキーが正常に働かないときは（キーレスアクセス&プッシュスタート装着車）

アクセスキーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 33）、アクセスキーの電池が切れたときは、キーレスアクセス＆プッシュスタートとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

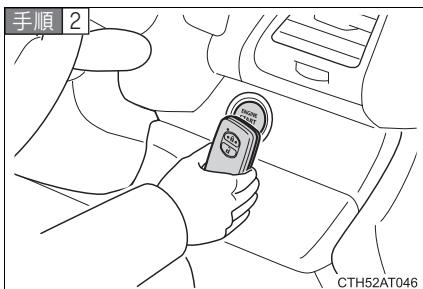
ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 22）を使って次の操作ができます。

1 全ドア（リヤゲート含む）解錠

2 全ドア（リヤゲート含む）施錠

エンジン始動の方法

手順 1 セレクトレバーが P の状態でブレーキペダルをしっかり踏む

手順 2

アクセスキーのスバルエンブレム面で、プッシュエンジンスイッチにふれる

イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

ブレーキペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

手順 4 プッシュエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、スバル販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、セレクトレバーを P にしてプッシュエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 254）

■キーレスアクセス＆プッシュスタートにてドアの施錠・開錠ができないときは

メカニカルキーまたは、ワイヤレスリモコンでドアの施錠・開錠をしてください。

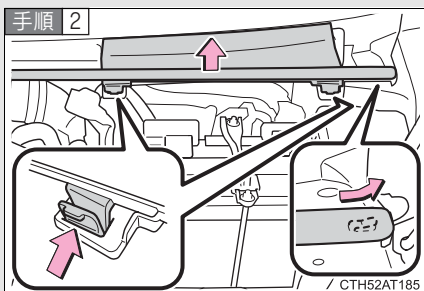
■アクセスキーが正常に働かない場合について

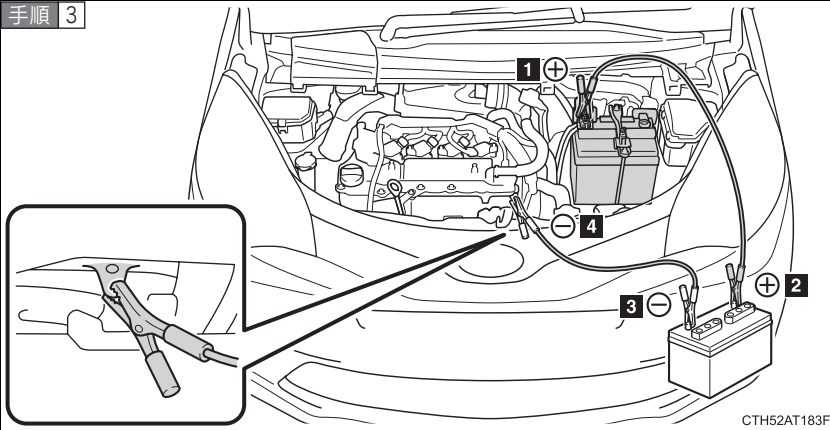
カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートがキャンセルになっていないことを確認してください。
キーレスアクセス＆プッシュスタートがキャンセルになっている場合には、解除してください。（カスタマイズ一覧 →P. 325）

バッテリーが上がったときは

バッテリーが上がった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開ける（→P. 223）

ゴムチューブの端をツメからはずしてから、カバーをはずす

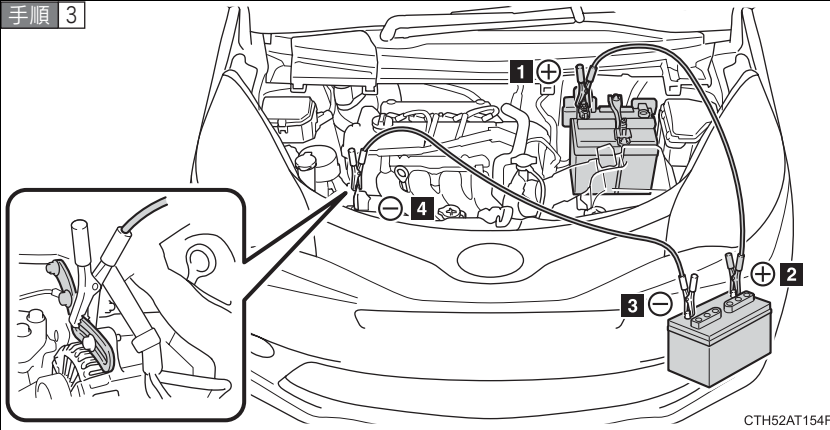
1NR-FE エンジン搭載車

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

1NZ-FE エンジン搭載車

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 5 キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車は、プッシュエンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

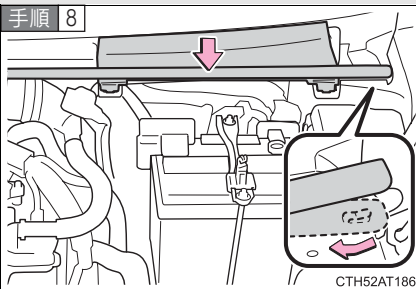
手順 6 **キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外**

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、プッシュエンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 7 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

手順 8

カバーをもどし、ゴムチューブの端をツメにかける

エンジンがかかっても、早めにスバル販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリー上がり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリー上がりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ランプや A/C スイッチを切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーが上がったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーが上がったときはスバル販売店で点検を受けてください。

■バッテリーが上がったときの留意事項（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

- ●バッテリーが上がった直後はキーレスアクセス＆プッシュスタートによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- ●バッテリーが上がったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- ●車両は常にプッシュエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリー上がり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーが上がる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、プッシュエンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
  バッテリー上がり前のプッシュエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱・端子・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：
エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

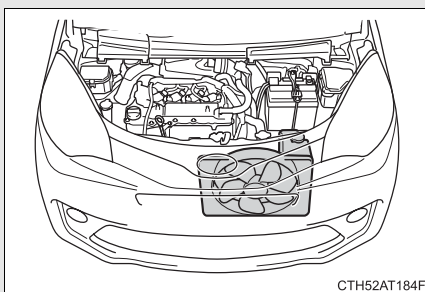
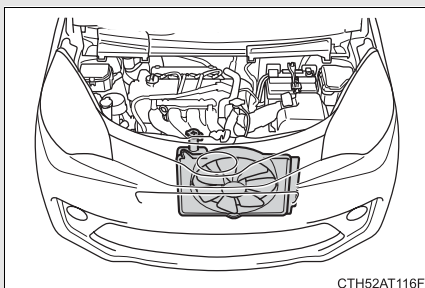
ファンが作動している場合：
高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止して、スバル販売店に連絡する

手順 4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

1NR-FE エンジン搭載車

1NZ-FE エンジン搭載車

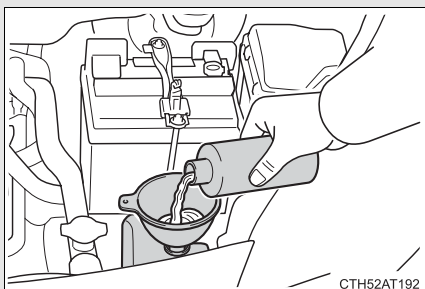
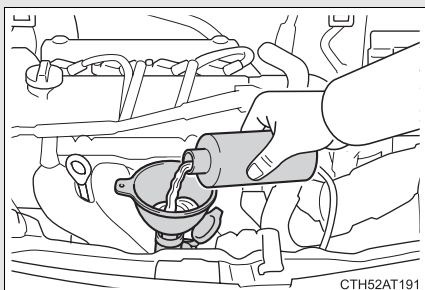
CTH52AT116F

手順 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 320）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

1NR-FE エンジン搭載車

CTH52AT192

1NZ-FE エンジン搭載車

CTH52AT191

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

●高水温警告灯が点滅または点灯したり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちは冷却水注入口を開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

FF 車（前輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 セレクトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

VDC 装着車：TRC ※・VDC の作動で脱出しにくいときは、TRC ※または VDC を停止してください。（→P. 157）

AWD 車（4 輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけセレクトレバーを P にしてエンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動し、AWD オートモードになっていることを確認する（→P. 154）

手順 5 セレクトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

※：「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■セレクトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

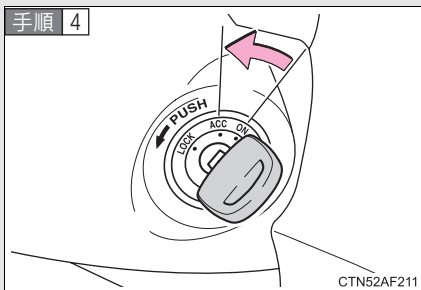
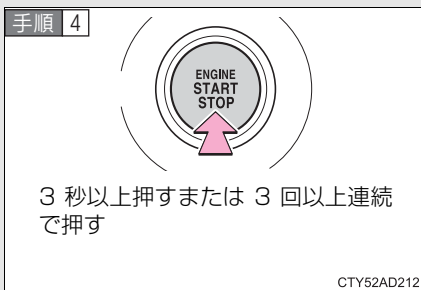
手順 2 セレクトレバーを N に入れる。

セレクトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

セレクトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：プッシュエンジンスイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ(油脂類の容量と銘柄など)

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。スバル車には最も適したスバル純正オイル・液類のご使用をおすすめします。スバル純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

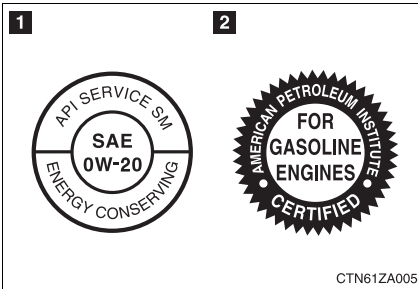
燃料

指定燃料	容量 [L](参考値)
無鉛レギュラーガソリン	42

エンジンオイル

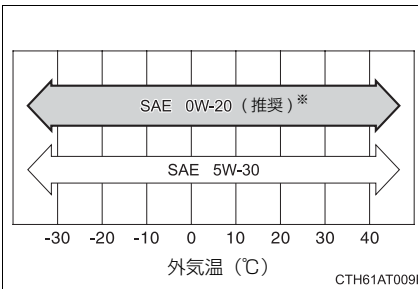
銘柄	エンジン	容量 [L](参考値)	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
SUBARU MOTOR OIL SM 0W-20 SUBARU MOTOR OIL SM 5W-30	1NR-FE	3.2	3.4
	1NZ-FE	3.4	3.7

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
  粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
スバルスーパークーラント	1NR-FE	4.7
	1NZ-FE	5.0

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 CVT フルード　TC	1NR-FE	FF（前輪駆動）	6.50 ※
	1NZ-FE	FF（前輪駆動）	8.09 ※
		AWD（4 輪駆動）	7.98 ※

※　交換が必要な際はスバル販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（AWD 車のみ）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
API GL-5 SAE 85W-90	0.50

トランスファー（AWD 車のみ）

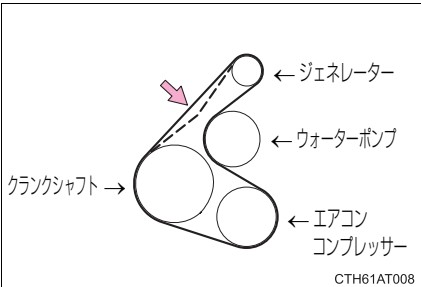
銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
API GL-5 SAE 85W-90	0.45

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※ 1	78

※ 1 エンジン回転時に300 N (30.6 kgf)の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

銘柄
スバル純正ブレーキフルード

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 294 N (30 kgf) のときのノッチ※ 2 数	**リヤドラムブレーキ** 7 ～ 10 **リヤディスクブレーキ** 8 ～ 11

※ 2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブドベルト（1NZ-FE エンジンのみ）

項目	基準値 [mm]
たわみ量 ジェネレーター ウォーターポンプ クランクシャフト エアコン コンプレッサー CTH61AT008 押力 98 N(10 kgf) (冷間時)	12.5 ～ 13.5

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	
寒冷地仕様車	2.3
寒冷地仕様車を除く	1.8

タイヤ

<table>
<tr><th>タイヤサイズ</th><th>エンジン</th><th>タイヤが冷えているときの空気圧
kPa (kg/cm^2)</th></tr>
<tr><td rowspan="3">175/60R16 82H</td><td>1NR-FE（FF）</td><td rowspan="4">230（2.3）</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE（FF）</td></tr>
<tr><td>1NZ-FE（AWD）</td></tr>
<tr><td>185/60R16 86H</td><td>1NZ-FE（FF）</td></tr>
</table>

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	前照灯（ヘッドランプ） **HID ヘッドランプ装着車以外** (バルブタイプ : H4) **HID ヘッドランプ装着車** ハイビーム　(バルブタイプ : H11) ロービーム　(HID ヘッドランプ)	60/55 55 35
	車幅灯（ポジションランプ）	5
	前部霧灯（フロントフォグランプ）＊（バルブタイプ：H11）	55
	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯	21
	尾灯 兼 制動灯 1NR-FE エンジン搭載車 1NZ-FE エンジン搭載車	21/5 LED ※
	後退灯	16
	ハイマウントストップランプ	LED ※
	番号表示灯（ライセンスランプ）	5
車内	ルームランプ	8
	マップランプ＊	8
	マップランプ＆フロントルームランプ＊	8
	カーゴ ルーム ランプ	5

※：LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

バッテリー

型式	エンジン
46B24L	1NR-FE
Q-55	1NZ-FE

車両仕様

<table>
<tr><th>型式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th></tr>
<tr><td>NSP120X</td><td>1NR-FE
(1.3L ガソリン)</td><td>FF（前輪駆動）</td></tr>
<tr><td>NCP120X</td><td rowspan="2">1NZ-FE
(1.5L ガソリン)</td><td>FF（前輪駆動）</td></tr>
<tr><td>NCP125X</td><td>AWD（4 輪駆動）</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ機能一覧（オートエアコン装着車）

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。スバル販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。詳しくはスバル販売店へお問い合わせください。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはスバル販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
キーレスアクセス＆プッシュスタート（→P. 25）	キーレスアクセス＆プッシュスタート	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯［ハザードランプ］）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	レベル 0 ～ 7
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限
ワイヤレスドアロック（→P. 39）	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯［ハザードランプ］）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車のみ）	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック（→P. 39）	半ドア警告ブザー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車のみ）	あり	なし
ランプ自動点灯・消灯システム（→P. 141）	オートライトセンサーの感度調整	レベル３	レベル１～５
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め
	周囲の明るさにより、エアコンボタンの表示灯の照度を自動減光するためのセンサーの感度調整	0	－２～＋２※1
	周囲の明るさにより、減光したエアコンボタンの表示灯の照度をもとにもどすためのセンサーの感度調整	0	－２～＋２※2
イルミネーション（→P. 184）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	接近時のルームランプの点灯（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車のみ）	あり	なし

※1 －側：減光が遅くなる

＋側：減光が早くなる

※2 －側：もどりが遅くなる

＋側：もどりが早くなる

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
AWD	オールホイールドライブ
EDR	イベントデータレコーダー
ELR	エマージェンシーロッキングリトラクター
EPS	エレクトリックパワーステアリング
FF	フロントエンジンフロントドライブ
HID	ハイインテンシティディスチャージ
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC ※	トラクションコントロール
VDC	ビークルダイナミクスコントロール

※：「TRC」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

五十音順さくいん

か

き

こ

さ

し

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した

P. 273 警告灯がついたときは

■警告灯一覧

表示	警告灯	ページ
	ブレーキ警告灯	P. 273
	チャージ警告灯	P. 273
	オイルプレッシャー警告灯	P. 273
	高水温警告灯（点滅・点灯）	P. 273
	エンジン警告灯	P. 274
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 274
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯	P. 274
	ステアリング制御警告灯	P. 274
	VDC 作動表示灯	P. 274
4WD	AWD 警告灯	P. 274, 276
	オートヘッドランプレベライザー警告灯	P. 274
	クルーズコントロール表示灯（点滅）	P. 274
	半ドア警告灯	P. 276
	燃料残量警告灯	P. 276
	シートベルト警告灯	P. 276
	キーレスアクセス＆プッシュスタートシステム表示灯（黄色）	P. 274, 277

警告音が鳴った

■警告灯の点灯や点滅を確認ください。（→P. 273）

■警告灯の点灯や点滅がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 30 P. 120 P. 143
	車外に出たとき	P. 30
	キーレスアクセス＆プッシュスタートでロックセンサーにふれたとき	P. 30
	ワイヤレス機能でロックスイッチを押したとき	P. 30 P. 40
	プッシュエンジンスイッチを押したとき	P. 30
走行中	セレクトレバーを R にしたとき	P. 128
	シフトダウンしたとき	P. 128
	ブレーキを踏んだとき	P. 106
	D ポジションでのパドルシフト操作時または M ポジションで走行しているとき	P. 128

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

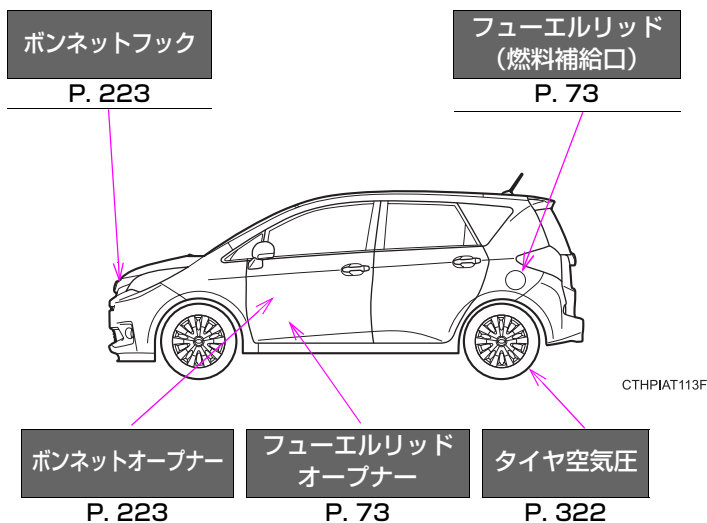
ボンネットフック
P. 223

フューエルリッド（燃料補給口）
P. 73

CTHPIAT113F

ボンネットオープナー
P. 223

フューエルリッドオープナー
P. 73

タイヤ空気圧
P. 322

項目	内容
燃料の容量 (参考値)	42 L
燃料の種類	P. 318
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 322
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 1NR-FE エンジン車： 3.2 L 1NZ-FE エンジン車： 3.4 L オイルとフィルター交換時 1NR-FE エンジン車： 3.4 L 1NZ-FE エンジン車： 3.7 L
エンジンオイルの種類	SUBARU MOTOR OIL SM 0W-20 SUBARU MOTOR OIL SM 5W-30